第Ⅷ章　縄文時代前・中期～後期の調査

第１節　概要

本遺跡の縄文時代前期から後期の遺構・遺物は，Ｖa層(アカホヤ火山灰の腐植土層)からⅣ層上部の黄褐色の硬質土にかけて出土している。なお，Ⅳ層の下部は粟粒状のパミスで構成する霧島御池テフラに比定され，Ⅳ層の層厚は30cmに達している。また，Ｖb層のアカホヤ火山灰は遺跡内で良好な堆積状況を示し，平均層厚は20cmで，縄文時代早期と前期を区分する鍵層になっている。

遺構の時期認定については，土坑と落し穴状遺構は，埋土状況を検討した。集石遺構に関しては，検出面を判断基準としている。しかし，詳細な時期認定は困難であり，下記の層位別の区分となっている。

Ｖ層(桐木遺跡で土坑１基・落し穴状遺構１基・集石遺構７基，耳取遺跡で落し穴状遺構２基・集石遺構10基)

Ⅳ層(桐木遺跡で土坑１基・集石遺構９基，耳取遺跡では土坑２基・落し穴状遺構９基・集石遺構１基)

第２節　遺構

桐木遺跡で検出した落し穴状遺構は，霧島御池パミスにⅦ層土が混入した埋土が確認されているが，耳取遺跡の落し穴状遺構と同質と判断し，Ｖa層段階に位置づけた。

１　Ｖ層の土坑

１号土坑(第15図)

Ｖ層確認は，桐木遺跡Ｃ-11区で検出した１号土坑の１基である。平面プラン87cm×80cm，検出面からの深さ34cmの掘り込みを確認し，埋土中に礫及び土器小片が混入していた。土器片は胴部小片のため，詳細な時期認定は困難であった。埋土はＶa層が主体で，炭化物も混入していたが，その性格は明らかでない。

２　Ｖ層の落し穴状遺構

１号落し穴状遺構(第16図)

桐木遺跡Ｒ-37区で検出した。検出面はⅦ層上面であるが，最終埋土がＶa層と判断されることからＶ層と認定した。

平面プラン88cm×80cmの円形で，筒状の形状を成し検出面からの深さは120cmで，底面は平坦面を成している。

２号落し穴状遺構(第16図)

耳取遺跡Ｉ-15区のⅥa層上面で検出した。西側の谷頭に配置され長軸が北北西を向いている。この一帯には縄文中期の落し穴状遺構がコンタラインに沿って並んでいるが，２号落し穴状遺構は長軸の向きが若干異なっている。

90cm×58cmの楕円形で，検出面からの深さ約110cmで，断面形状は袋状に膨らみ，検出面より底面が広い。

埋土は，アカホヤ火山灰腐植土層のＶa層が主体となるが，遺構内のＶa層は周辺の自然堆積しているＶa層に比べ，水性作用を受け層理を成している。

長軸ラインよりやや東側に，逆茂木痕らしき小ピットを３か所検出し，３本とも径８cm，深さ約25cmを確認できる。

３号落し穴状遺構(第17図)

耳取遺跡Ｆ-３区Ⅷ層で検出した。遺跡の最北端部で谷方向へ傾斜が始まる位置に相当し，層堆積は良好とは言い難い。平面プランは，長軸102cm，短軸65cmの楕円形で，検出面からの深さ約50cmであった。Ｖ層からの掘り込みを想定すると，さらに70cm位は深くなる。

埋土は，Ｖb層のアカホヤ火山灰層が主体で，Ⅵ層・Ｖa層・Ⅶ層等が混ざったもので，Ｖ層相当の落し穴状遺構と判断した。

底面中央部には小ピット２か所を検出し，径10cm未満，深さ30cmとほぼ同様で逆茂木痕と推定される。

３　Ⅳ層の落し穴状遺構

Ⅳ層の落し穴状遺構は，耳取遺跡で９基(４号～12号)検出し，谷の縁辺部に沿い13区～19区の南北に並び，292m～293mのコンタラインに設けられている。４号と５号以外の落し穴状遺構からは，逆茂木痕らしき小ピットが確認されている。

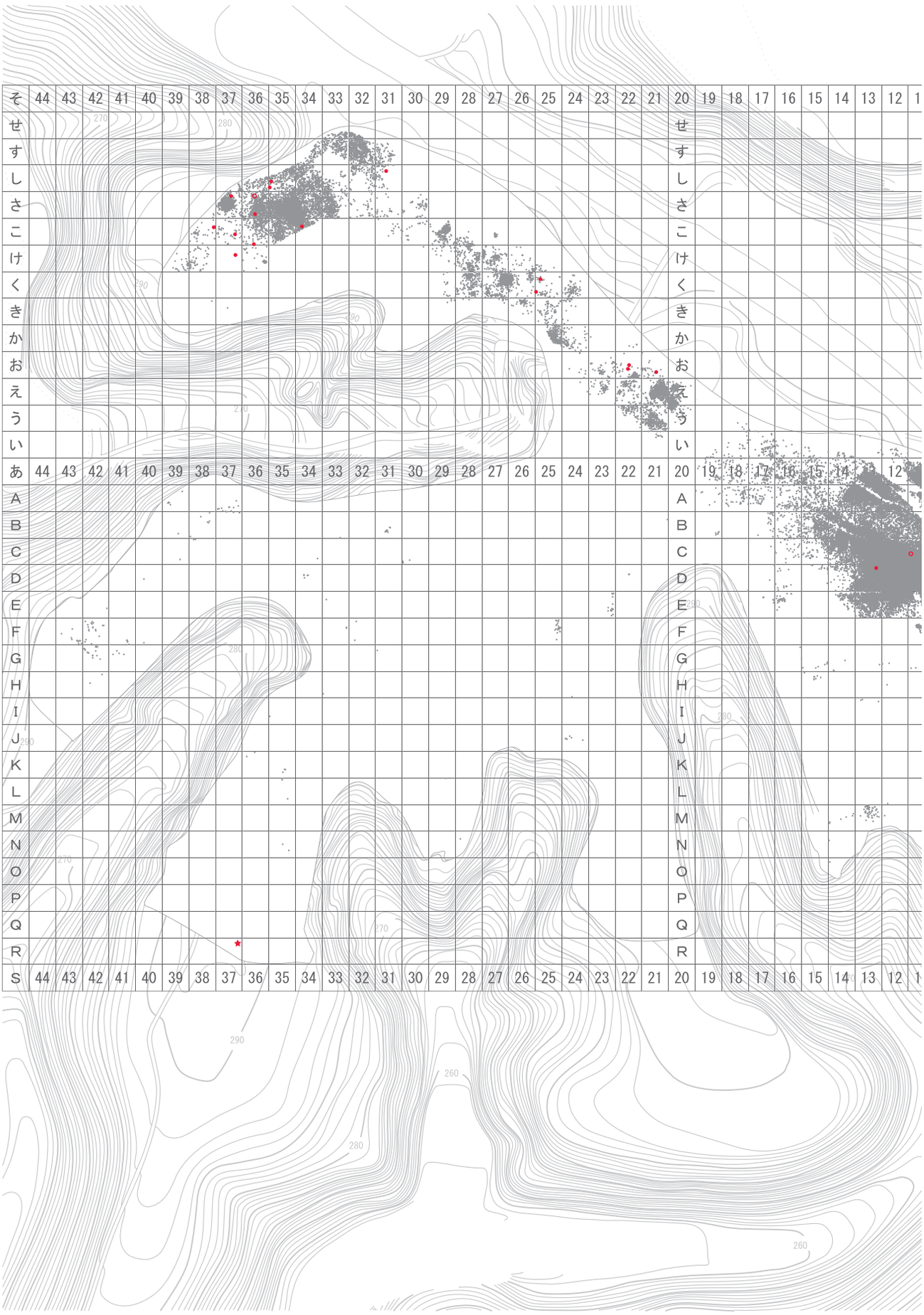
４号落し穴状遺構(第17図)

Ｇ-19区で検出し，落し穴状遺構としては一番南端に位置し，遺構の長軸方向がコンタラインと並行する。平面プランを確認した後，半截し，埋土堆積状況を観察した。確認プランは長軸146cm，短軸92cmの長楕円形で，検出面からの深さ約106cmである。掘り込み形状はバケツ状で，底面は平坦面を成している。

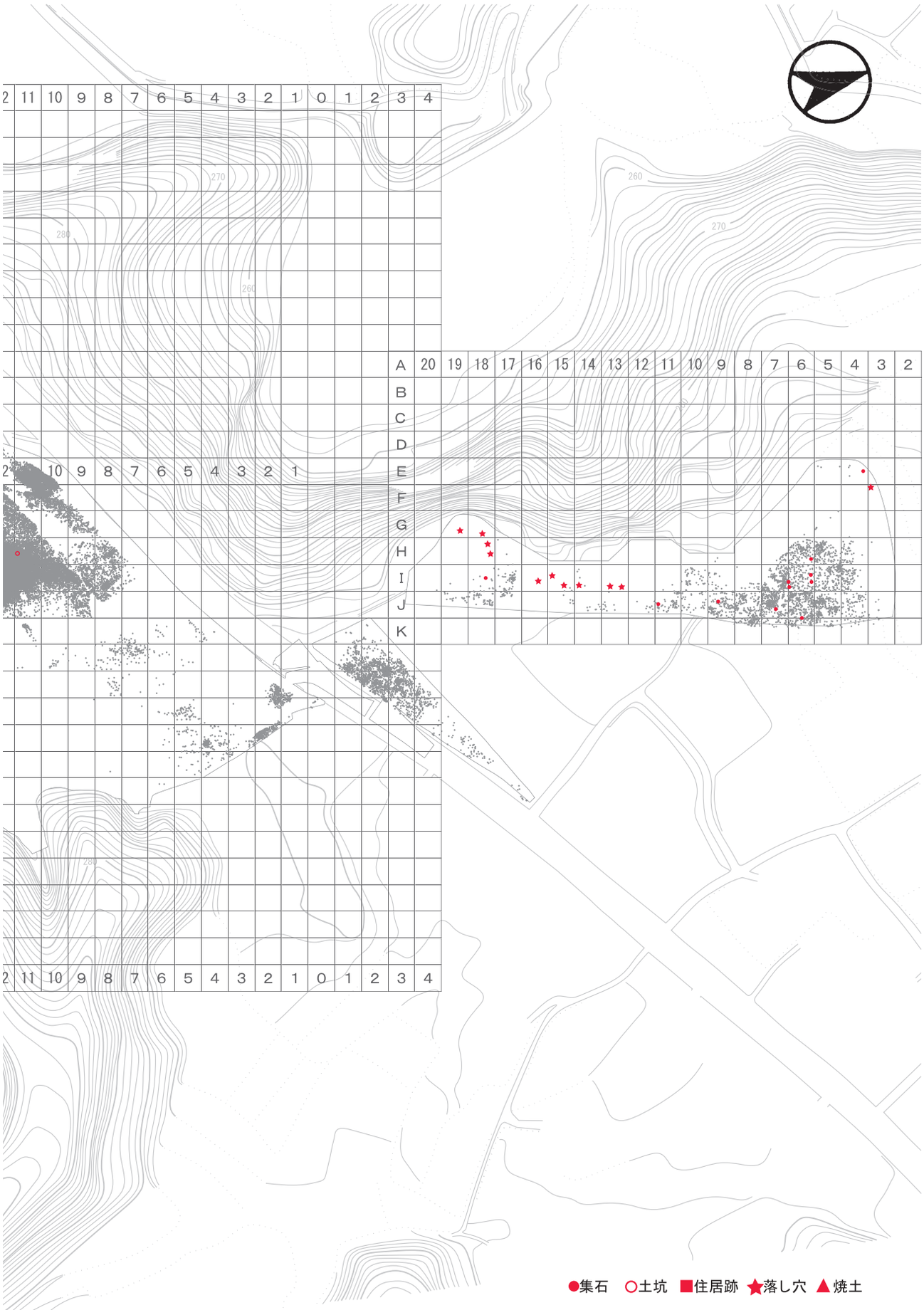
埋土からは，最終的にⅣ層の霧島御池パミスで一気に充填した様相が観察される。

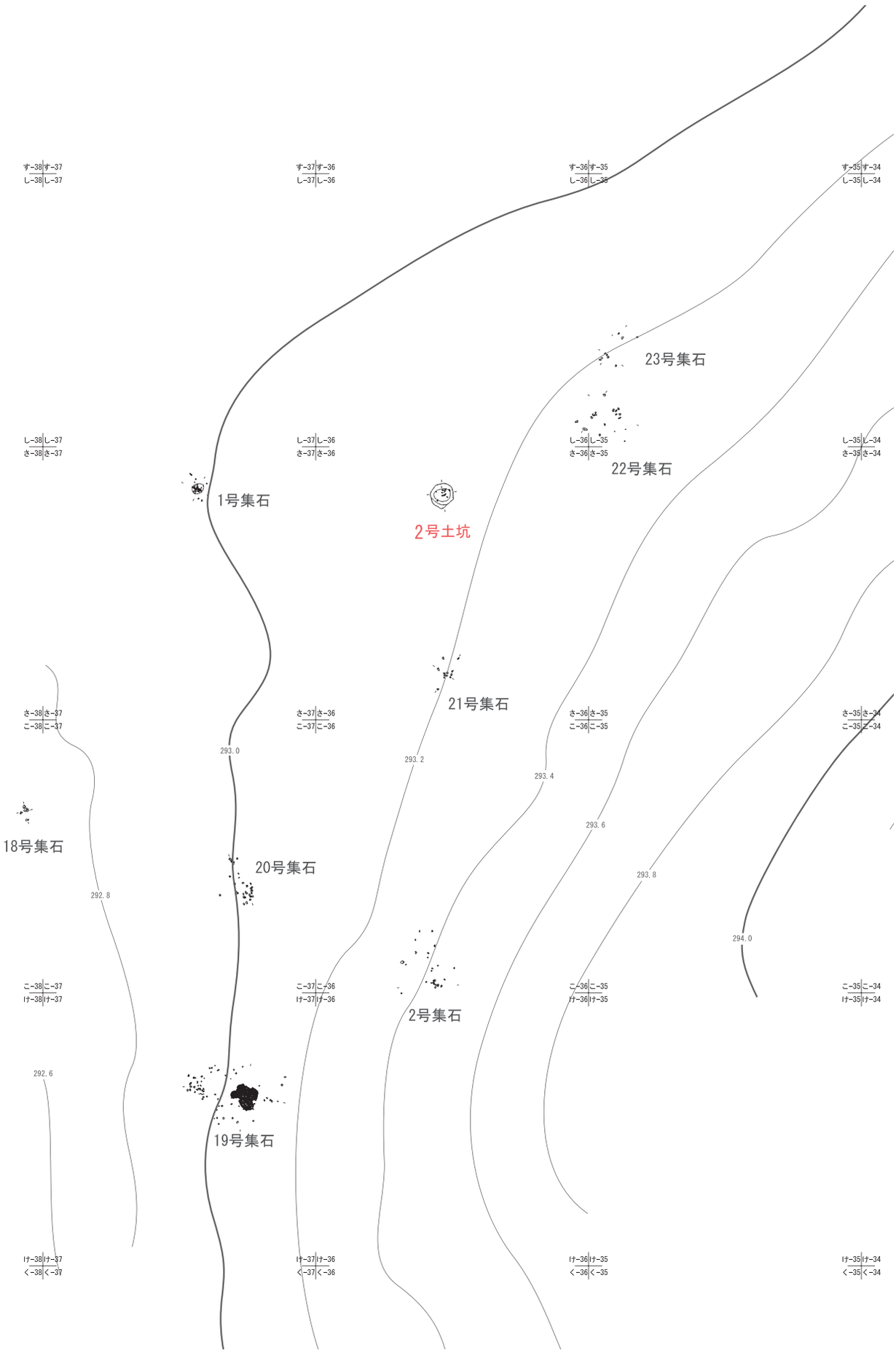
５号落し穴状遺構(第18図)

Ｇ-18区でⅥa層で検出し，４号落し穴状遺構の北側約７mの所に位置する。遺構の長軸方向は，コンタラインに直行するような形で掘られている。隣接する６号・７号落し穴状遺構も同じような向きを示す。平面プランは長軸122cm，短軸72cmの長楕円形で，検出面からの深さ約87cmで，底面は平坦面を成している。ほぼ垂直に掘り込まれ，主体となる埋土はⅣ層の霧島御池パミスで，埋土⑤で10mm，埋土④で２～３mmのパミスが確認できることから，層理状堆積が想定される。東壁の一部は崩落したと見られる。

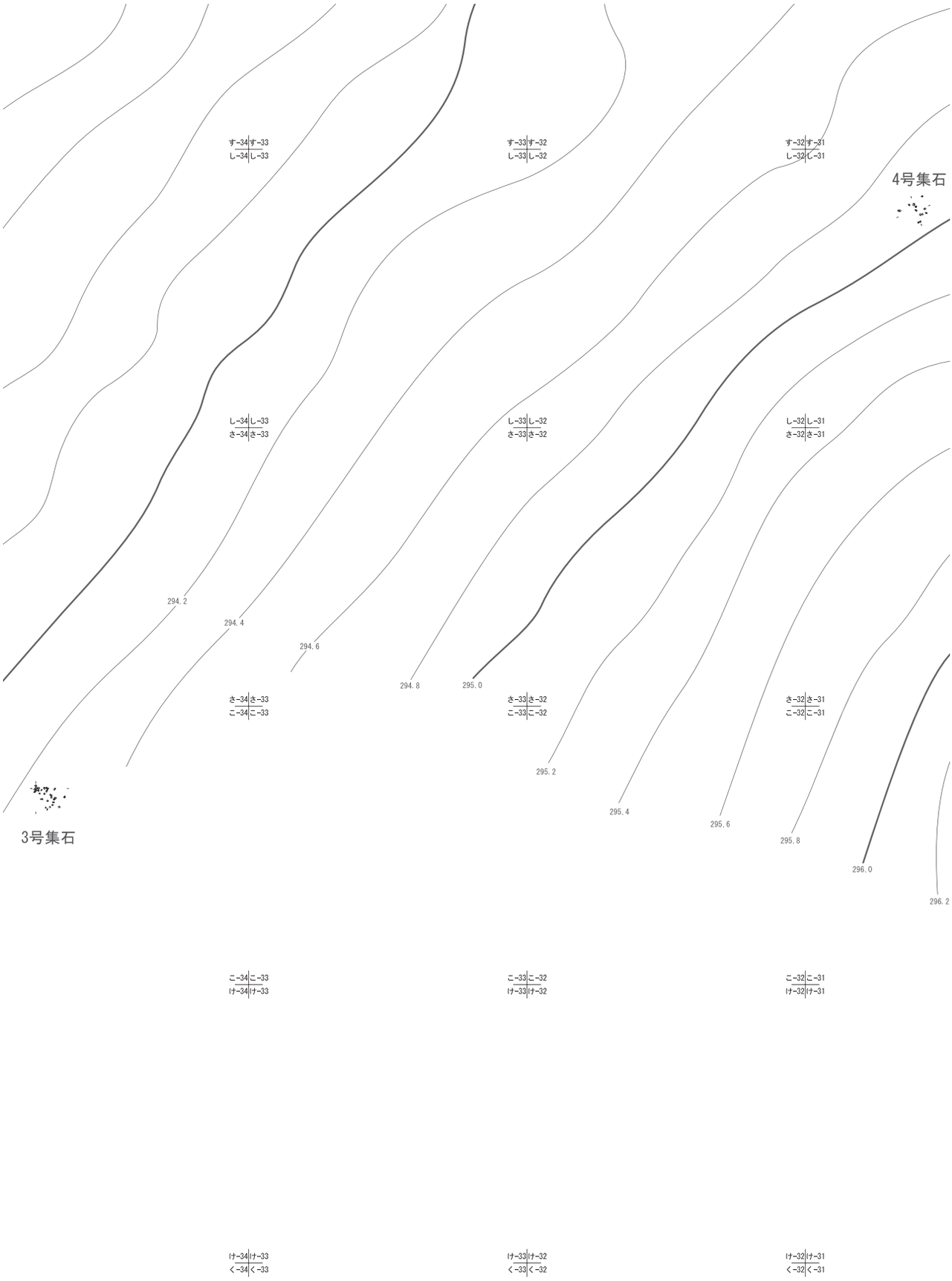


第１図　Ⅴ～Ⅳ層全体図（1/2000）


●集石 ○土坑 ■住居跡 ★落し穴 ▲焼土



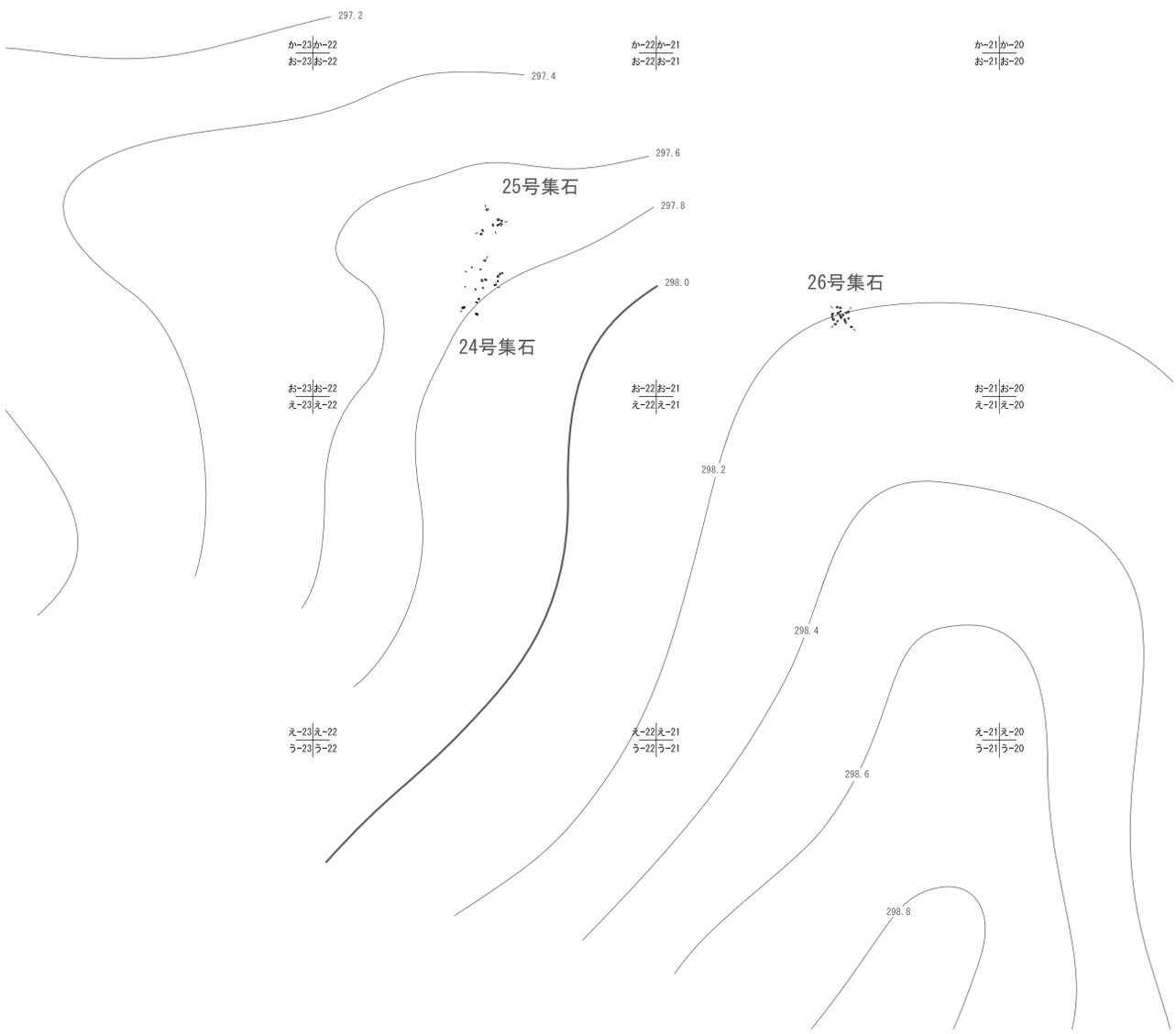
第２図　Ⅴ～Ⅳ層遺構配置図１（1/200）



第３図　Ⅴ～Ⅳ層遺構配置図２（1/200）

第４図　Ⅴ～Ⅳ層遺構配置図３（1/200）

第５図　Ⅴ～Ⅳ層遺構配置図４（1/200）



第６図　Ⅴ～Ⅳ層遺構配置図５（1/200）

第７図　Ⅴ～Ⅳ層遺構配置図６（1/200）

６号落し穴状遺構(第19図)

Ｈ-18区Ⅴb層で検出し，５号から７号落し穴状遺構まで約３m間隔で配置される中央の落し穴状遺構に相当する。平面プランは長軸130cm，短軸57cmの長楕円形で，検出面からの深さ約143cmで，ほぼ垂直に掘り込まれ，底面は平坦面を成す。主体となる埋土は，Ⅳ層の霧島御池パミスの１次堆積物であるが，パミスの大きさにより分層観察が可能である。下部の埋土⑨以下には，御池パミス及び御池パミス以外の軽石を含んだ埋土堆積が観察されるが，霧島御池パミス充填直前まで開口していた状況が読みとれる。

底面中央部に径10～12cm，深さ30～35cmの小ピット３か所を検出し，その形状から逆茂木痕と推定される。

７号落し穴状遺構(第20図)

Ｈ-18区のⅤa層で検出し，６号落し穴状遺構の東側３mの位置に設置される。平面プランは長軸165cm，短軸90cmの長楕円形で，検出面からの深さ約155cmで，壁面の一部が崩落しているが，ほぼ垂直に掘り込まれた可能性が高い。遺構内にはⅣ層の霧島御池パミス１次堆積物が堆積していることから，完掘に努めた。

底面の長軸方向に沿い，径10～12cm，深さ30～40cmの小ピット３か所を確認し，逆茂木痕と判断している。

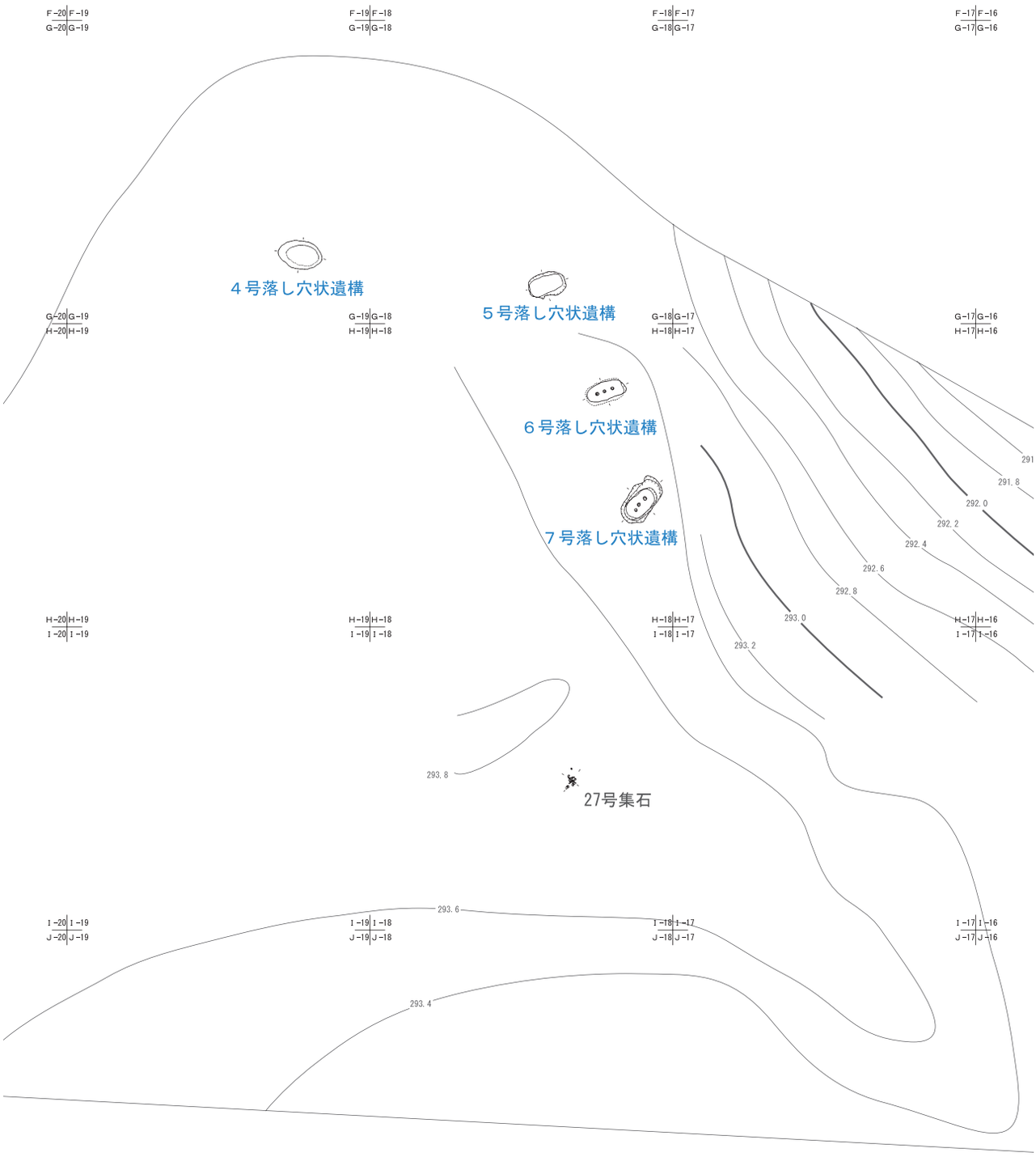
８号落し穴状遺構(第21図)

Ｉ-16区のⅤb層で検出し，Ｉ-13区～16区にかけて列状に配置された落し穴状遺構(８号～12号)の一つで，南端に位置する。谷方向に向かい傾斜がきつくなる位置で，長軸を谷方向に設置している。上部は削平されるが，平面プランは長軸124cm，短軸58cmの長楕円形で，検出面からの深さは118cmである。ほぼ垂直に掘り込まれ，断面形は長方形を成す。主体となる埋土は，上部にⅣ層の霧島御池パミス１次堆積物，下部はⅤ層とⅥ層の混入土が埋土として充填している。Ⅳ層段階の落し穴状遺構は，同様の埋土状況を示し，６号で記載したように説明に窮する状況である。

平坦面を成す底面の長軸に沿った小ピット３か所(径14～16cm，深さ30～34cm)を確認し，その形状から逆茂木痕と推定される。

９号落し穴状遺構(第21図)

Ｉ-15区のⅤb層で検出し，長軸は谷方向に設置されている。平面プランは長軸116cm，短軸53cmの長楕円形で，検出面からの深さは146cmで，ほぼ垂直に掘り込み底面は平坦



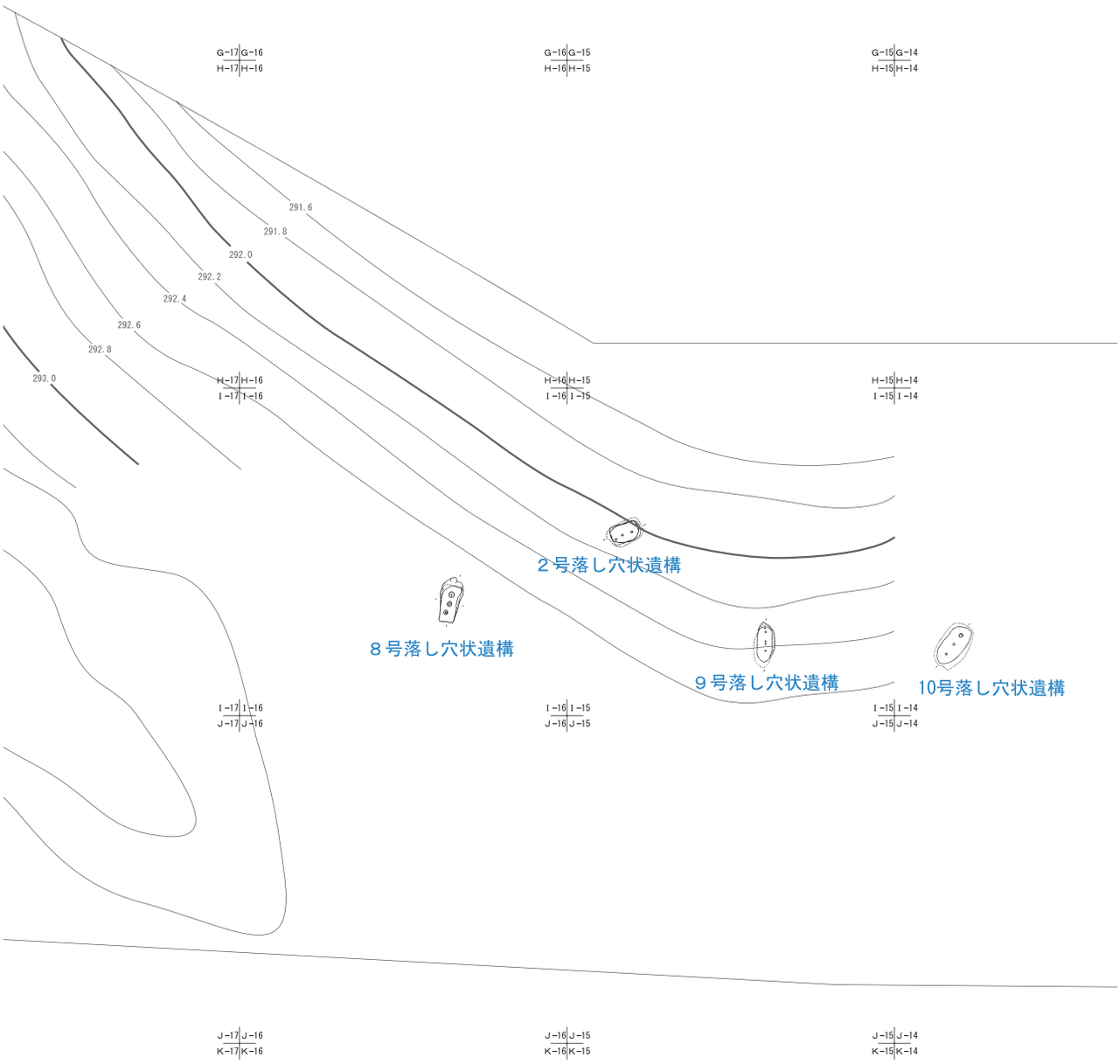
第８図　Ⅴ～Ⅳ層遺構配置図７（1/200）

面を成している。遺構の中央部から上部を占める埋土①は，Ⅳ層を形成する霧島御池パミスの１次堆積物で，層理堆積が観察される。埋土②はアカホヤ火山灰腐植土層と御池パミスとの混合堆積物で，埋土③は，Ⅷ層とⅩ層が混入する遺構内初期堆積物（暗褐色土）である。なお，この周辺は，Ⅸ層の薩摩火山灰が流失していることから，Ⅷ層とⅩ層の分層が明確に分離できない状況もある。

底面の長軸ライン中央部に，逆茂木痕と見られる小ピット４か所を検出したが，他の落し穴状遺構同様30cmの深さが確認された。径は小さく５cm程である。

10号落し穴状遺構（第22図）

Ⅰ-14区のⅤb層で検出し，長軸はやや北西方向に設置される。平面プランは長軸135cm，短軸63cmの長楕円形で，検出面からの深さは113cmで，壁面は部分的に崩落するが，ほぼ垂直に掘り込まれ，開口部付近で若干開く傾向が見られる。埋土の主体はⅣ層の霧島御池パミスの１次堆積物で，層理堆積が観察できる。なお，下部の埋土③はⅤ層とⅥ層の混



第９図　Ⅴ～Ⅳ層遺構配置図８（1/200）

合堆積物が先行している。

逆茂木痕と推定される小ピット３か所を，長軸ラインに沿って検出し，径にばらつきはあるが，深さは35cmと規格性が見られる。

11号落し穴状遺構(第22図)

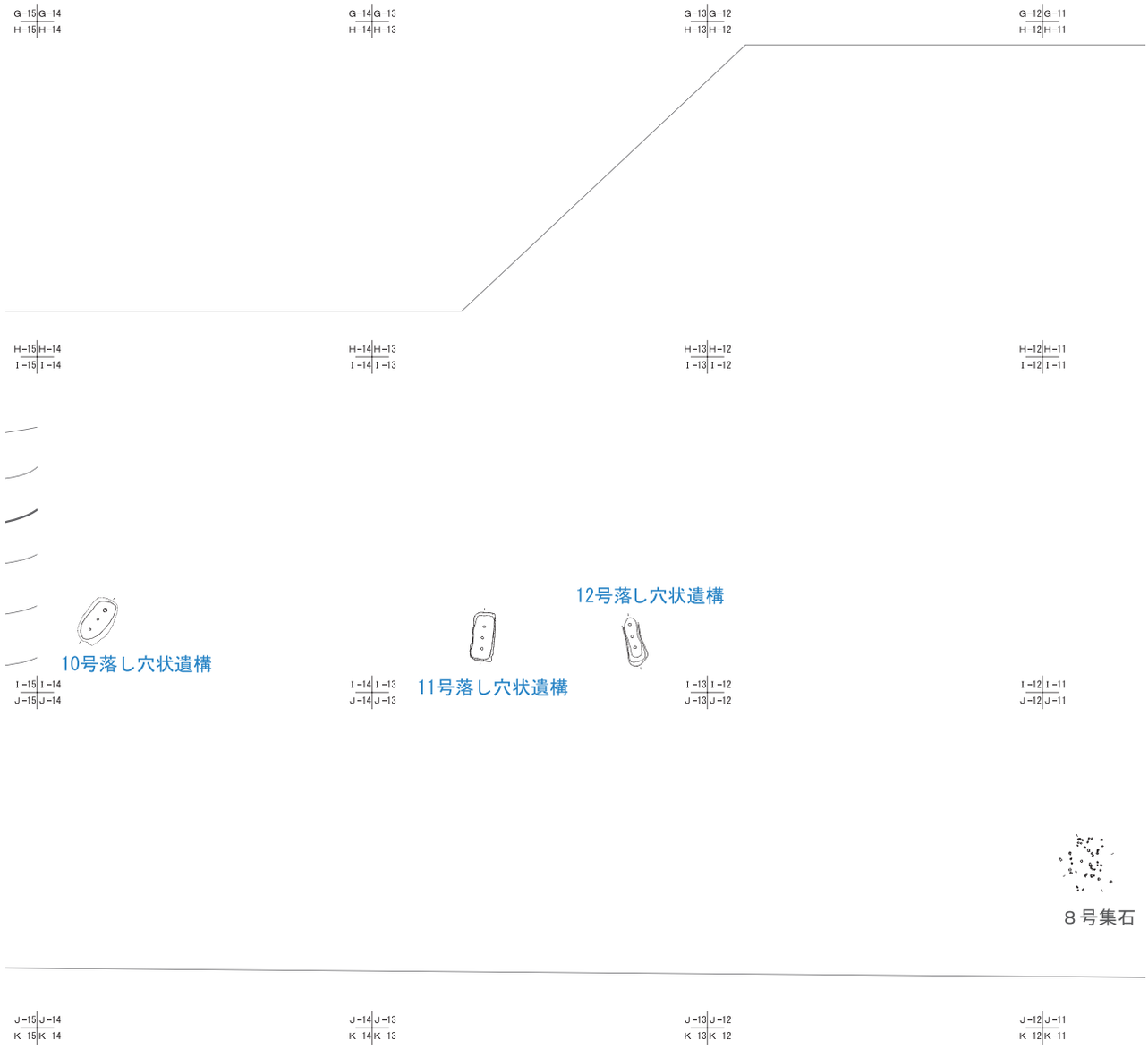
Ⅰ-13区のⅤb層で検出したが，上部は削平されていた。なお，長軸はコンタラインにほぼ直交する。平面プランは長軸144cm，短軸65cmの隅丸長方形で，検出面からの深さは108cmで，底面は平坦面を成し，ほぼ垂直に掘り込まれる。上部の埋土①はⅣ層の霧島御池パミスの１次堆積物，埋土②はアカホヤ火山灰を主体とする腐植土等の混合堆積物である。

長軸ライン中央部に３か所の小ピット(径10cm，深さ25～30cm)を検出し，逆茂木痕と判断している。

12号落し穴状遺構(第23図)

Ⅰ-13区のⅥa層で検出し，列状に配置された一番北側の落し穴状遺構で，11号とは約４mの距離である。一部西側部分が削平されていたが，長軸は東西方向に設けられている。平面プランは長軸120cm+α，短軸43cmの長楕円形で，検出面からの深さは142cmである。ほぼ垂直に掘り込み，開口部は若干開く傾向が見られる。埋土の中心は，Ⅳ層の霧島御池パミスの１次堆積物が占め，埋土②はアカホヤ火山灰を主体とした腐植土等の堆積物である。主体となる埋土①は，御池パミスの層理状堆積が観察できる。

小ピット３か所を長軸ライン中央部で検出したが，深さが30～45cmとばらつきがある。



第10図　Ⅴ～Ⅳ層遺構配置図９（1/200）

４　Ⅴ層の集石遺構

Ⅴ層の集石遺構は，桐木遺跡で７基（１号～７号），耳取遺跡で10基（８号～17号）の計17基を検出した。

また，縄文時代早期の集石遺構分類に基づいてⅤ・Ⅳ層検出の集石も分類を行った。

Ⅰ類集石　掘り込み遺構を持つ集石で，礫の詰まり方でさらにＡ，Ｂ，Ｃに細分した。

　ⅠＡ類　掘り込み遺構があり，礫がしっかり詰まっている。

　ⅠＢ類　掘り込み遺構があり，礫が少ない。

　ⅠＣ類　掘り込み遺構はあるが，礫は０～数個。

Ⅱ類集石　掘り込み遺構を検出していない，礫の集中等から掘り込み遺構の存在が想定できる。

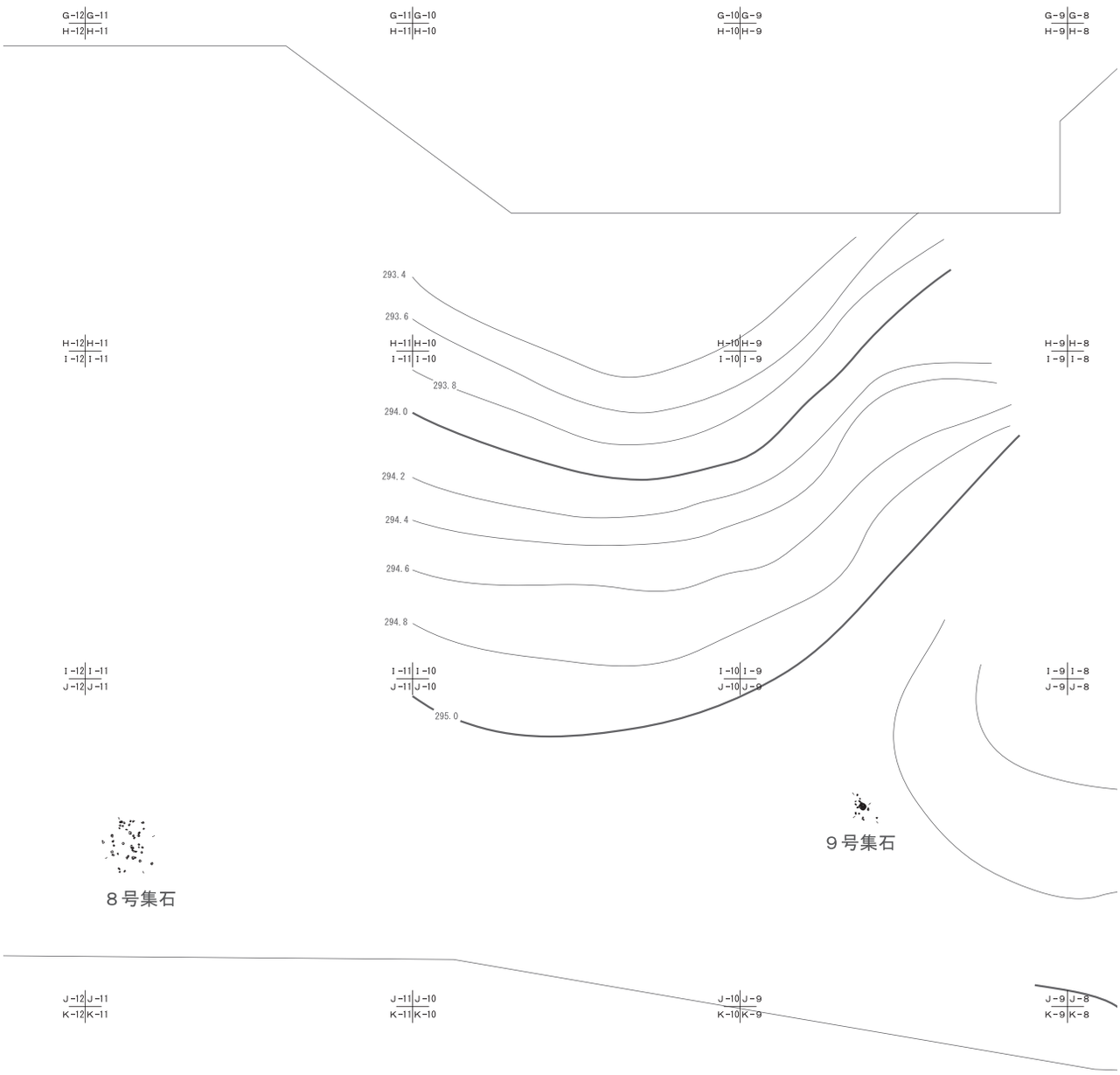
Ⅲ類集石　掘り込み遺構を伴わないもので，平面的に礫の分布が確認できるもの。なお，礫の分布状況から密集Ａ，散在Ｂと細分した。

　ⅢＡ類　集石の中心が想定できる。

　ⅢＢ類　礫が散在するが，一定の範囲を認定できるもの。

１号集石（第23図）

桐木遺跡さ-37区，南西の台地縁辺部で検出した。ⅠＡ類集石で，掘り込みは44cm×36cm，深さ11cmであった。礫は遺構内と遺構外で確認し，５cm前後の安山岩が多く使用され，その半数以上が赤化していた。



第11図　Ⅴ～Ⅳ層遺構配置図10（1/200）

３号集石（第24図）

桐木遺跡こ-34区で検出した。掘り込み遺構は確認できず，一部礫が集中している部分と散逸礫から成る。ⅢＡ類。

５号集石（第25図）

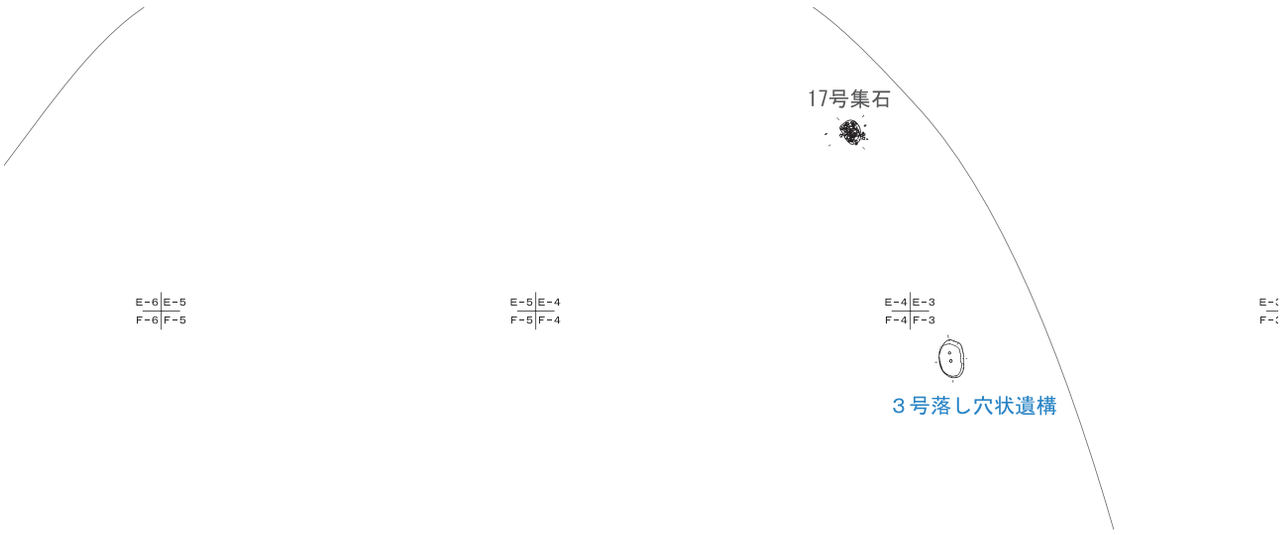
桐木遺跡く-25区の国道10号線と谷部には挟まれた，尾根状の所で検出した。204×197cmの範囲で確認し，10cm前後の礫が集中する部分とその周辺の散在礫で構成する。ⅢＡ類。

９号集石（第26図）

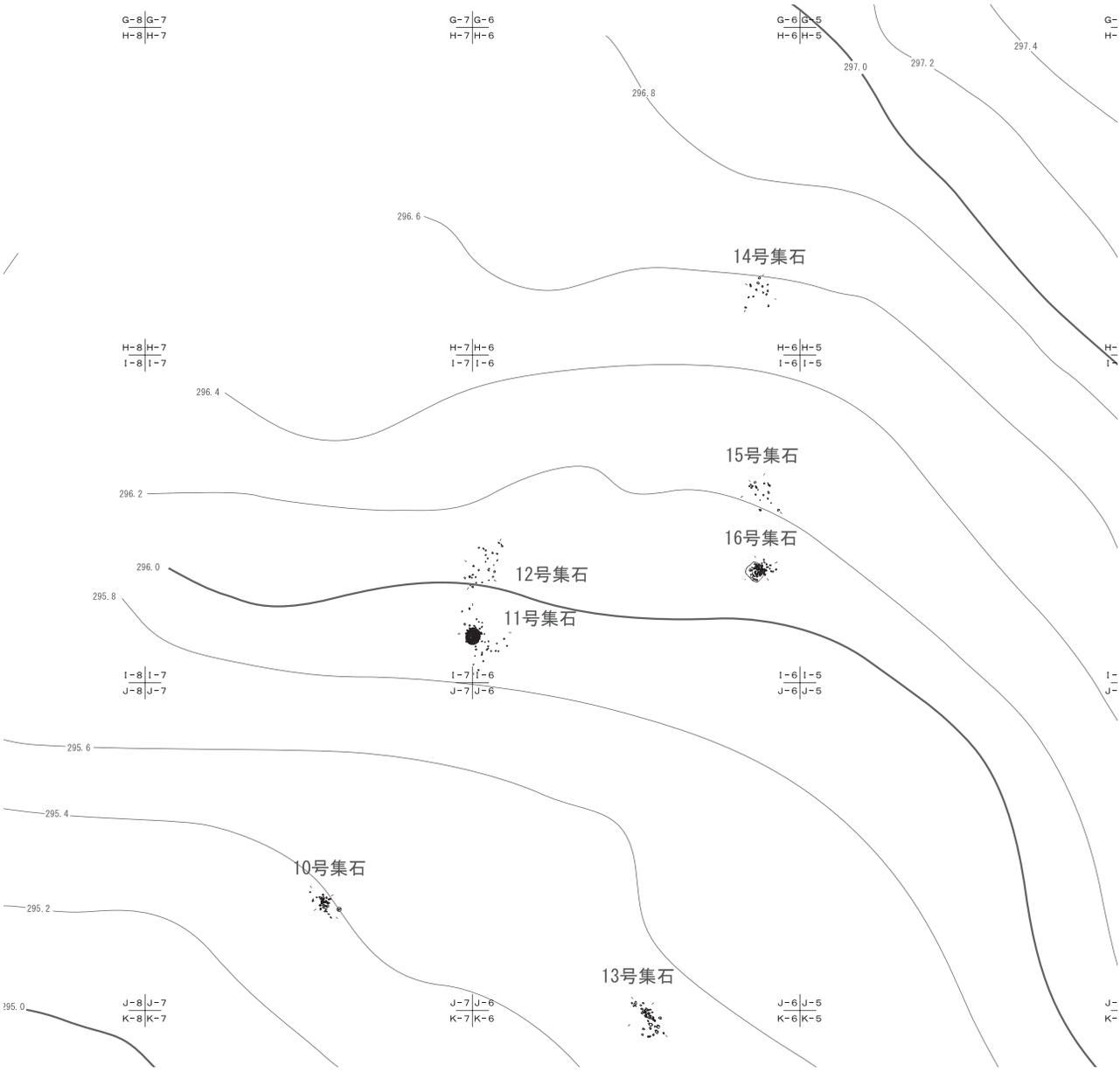
耳取遺跡Ｊ－９区で検出し，97cm×46cmの範囲に礫18個が確認される。礫の赤化が激しく，下部からは２mm大の炭化物も検出している。ⅢＡ類。

11号集石（第27図）

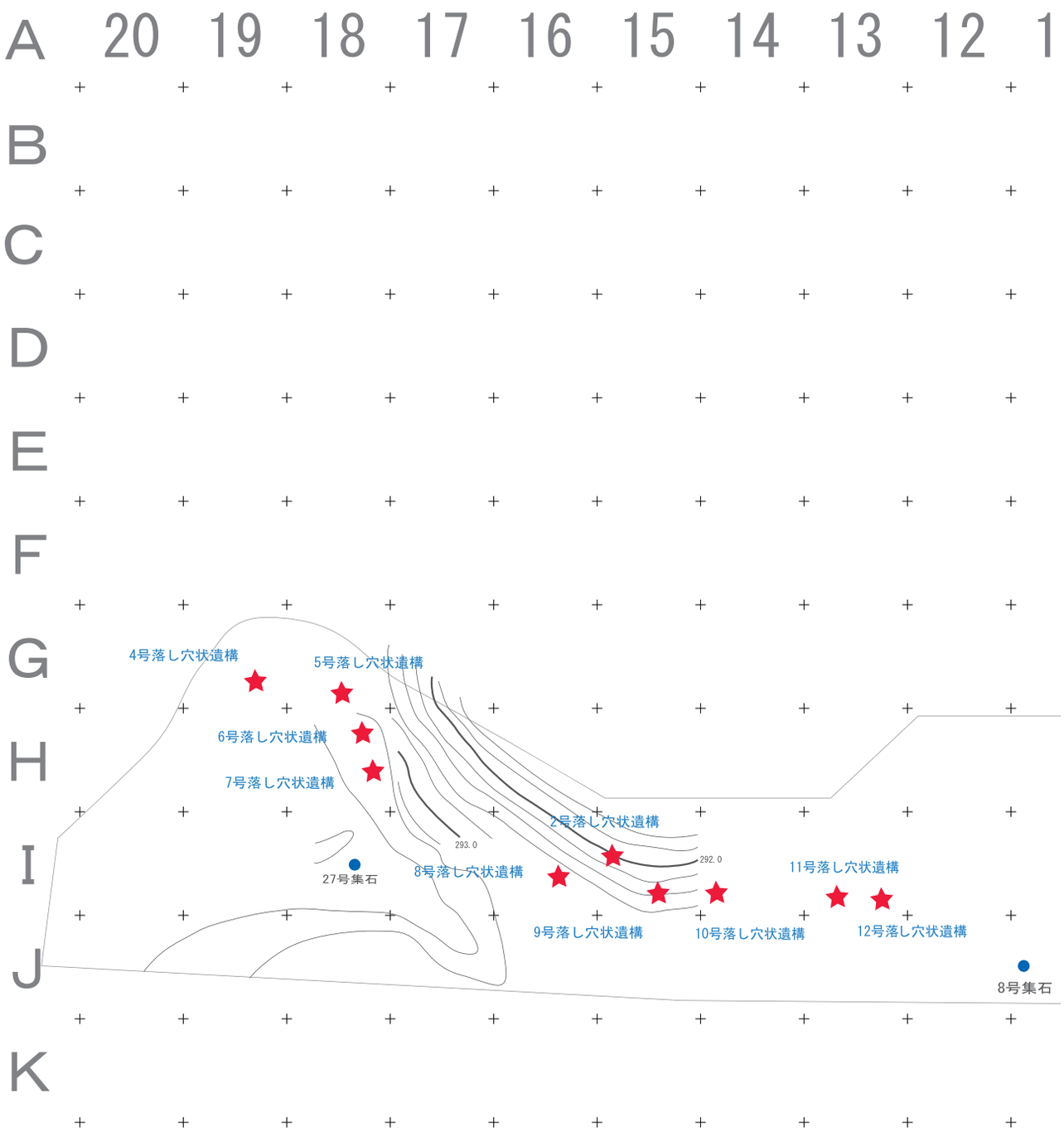
耳取遺跡Ｉ－６・７区で検出した。194cm×89cmの範囲内に88個の礫を確認し，３～５cm大の角礫が多用されている。礫集中箇所の下部からは，２～５mm程の大粒の炭化物も多数検出されている。礫は広範囲に分布するが，集石の中心部は想定される。ⅢＡ類。



第12図　Ⅴ～Ⅳ層遺構配置図11（1/200）



第13図　Ⅴ～Ⅳ層遺構配置図12（1/200）



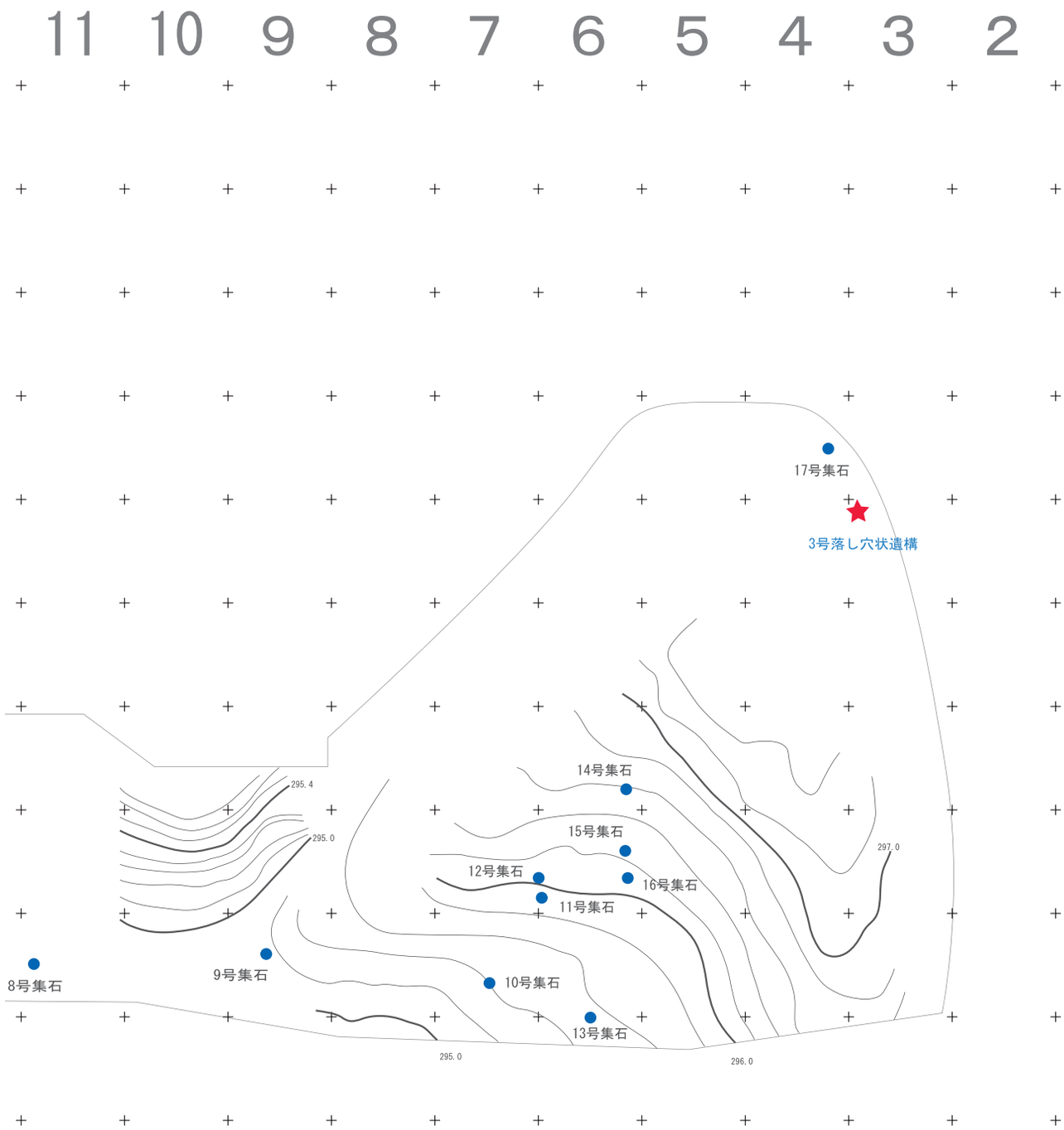
第14図　Ⅴ～Ⅳ層遺構配置図13（1/600）

16号集石（第28図）

耳取遺跡Ｉ－６区で検出した。ＩＡ類で，掘り込みは56cm×50cm，深さ11cmで，掘り込み中央から若干北東寄りに５cm程の礫が集中している。使用石材は輝石安山岩で，激しく赤化し破砕している礫が多く，周辺からは炭化物も検出されている。

17号集石（第28図）

耳取遺跡Ｅ－４区で検出した。ＩＡ類で，掘り込みは径64cm×46cm，深さ21cmで，77個の礫が密に充填している。礫の多くが５cm前後で，被熱の痕跡が明らかで，大半が破砕している。下位からは炭化物も多数検出され，中には１cm大のものも多く見られた。

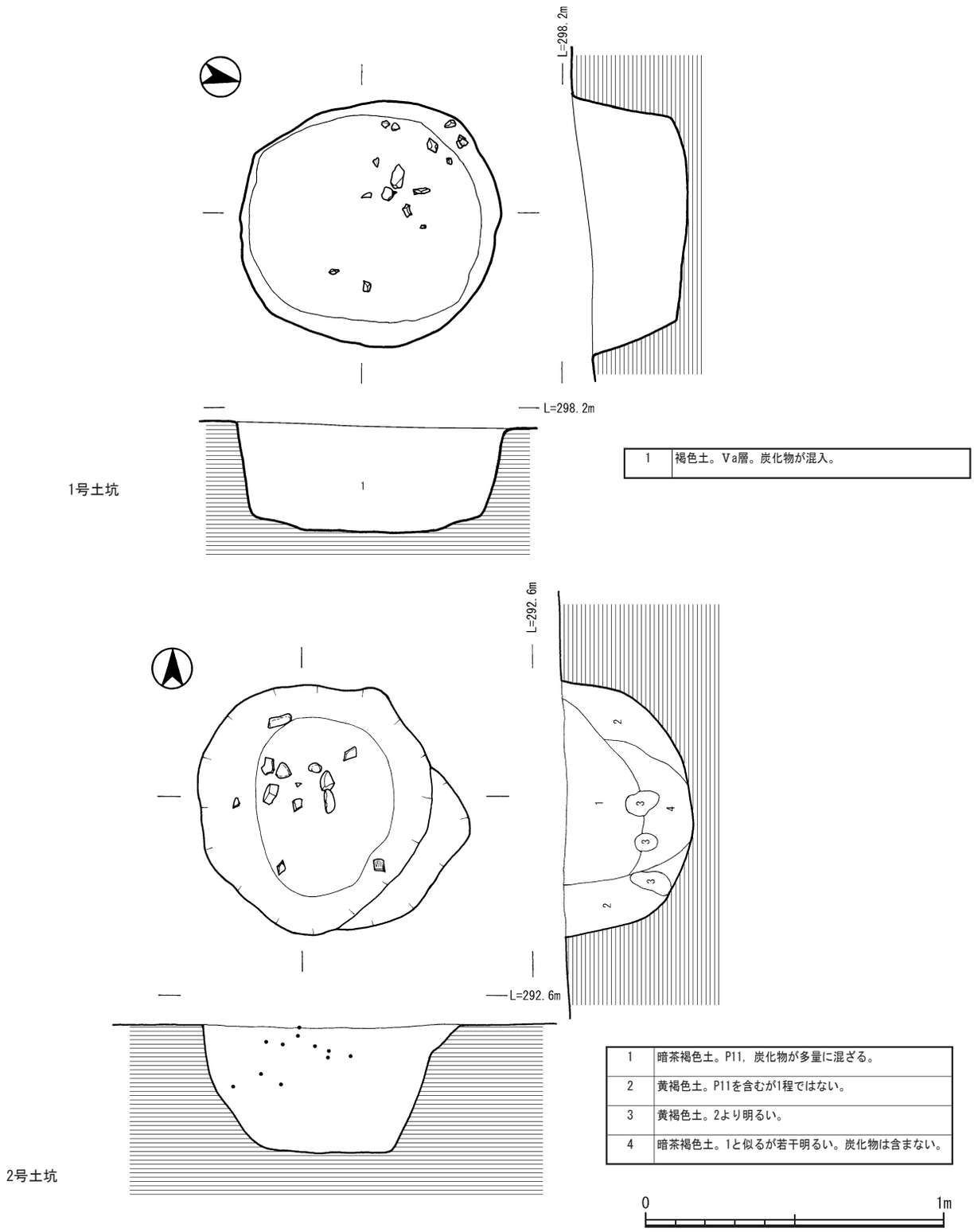


5　Ⅳ層の集石遺構

Ⅳ層の上部，霧島御池パミスを基盤とした腐植土層で検出した集石遺構は，桐木遺跡で９基(18号～26号)，耳取遺跡で１基(27号)である。

19号集石(第29図)

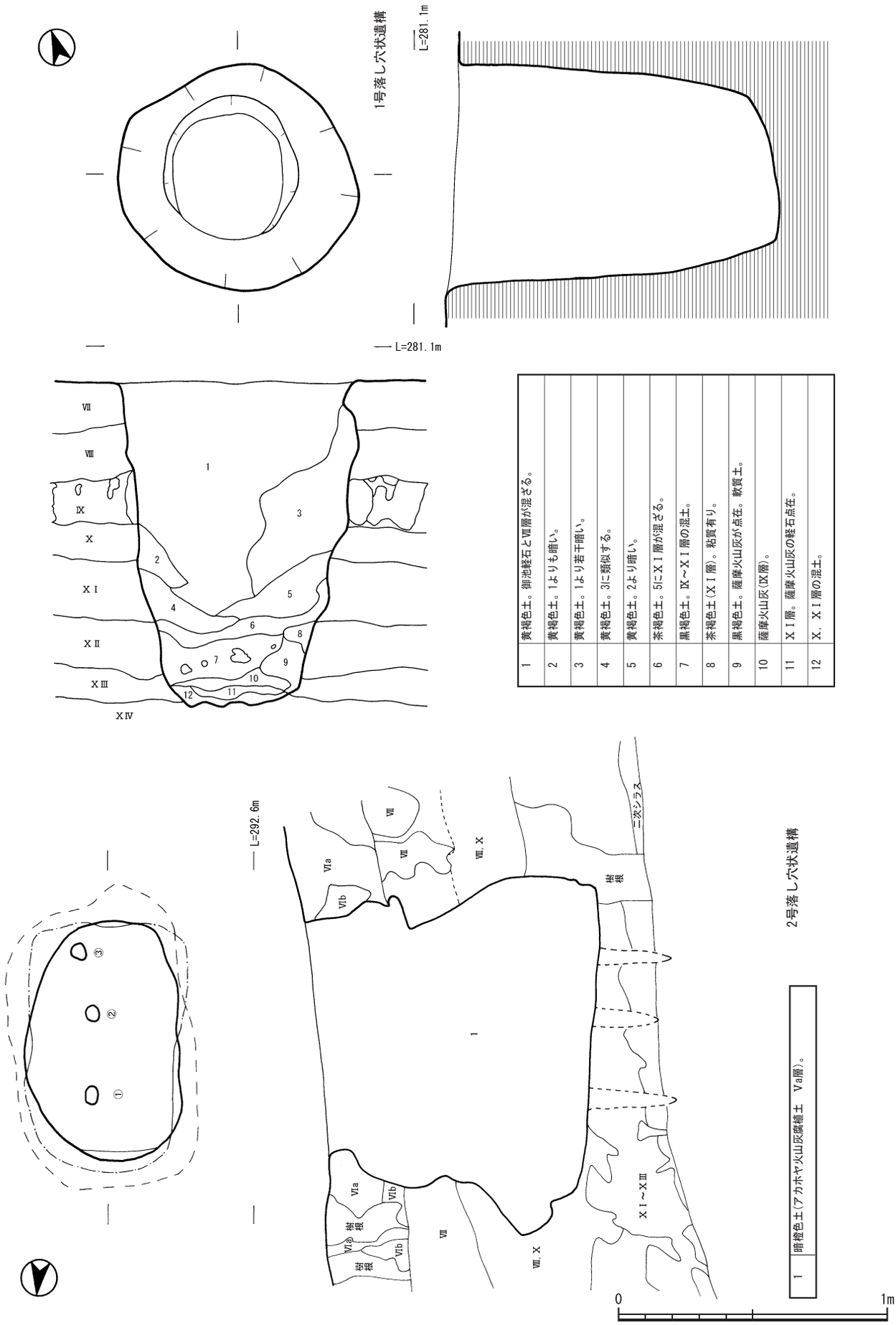
桐木遺跡け-37区で検出し，356cm×213cmの広範囲に分布している。礫の集中箇所は２か所見られ，炭化物と礫の集中する部分と礫のみが集中する部分とがある。また，礫集中周辺には，礫の散在する状況も認められる。使用石材は砂岩や粘板岩で，熱を受けたことによる赤化や破砕したものが目立つ。なお，掘り込み遺構は存在しない。ⅢＡ類。



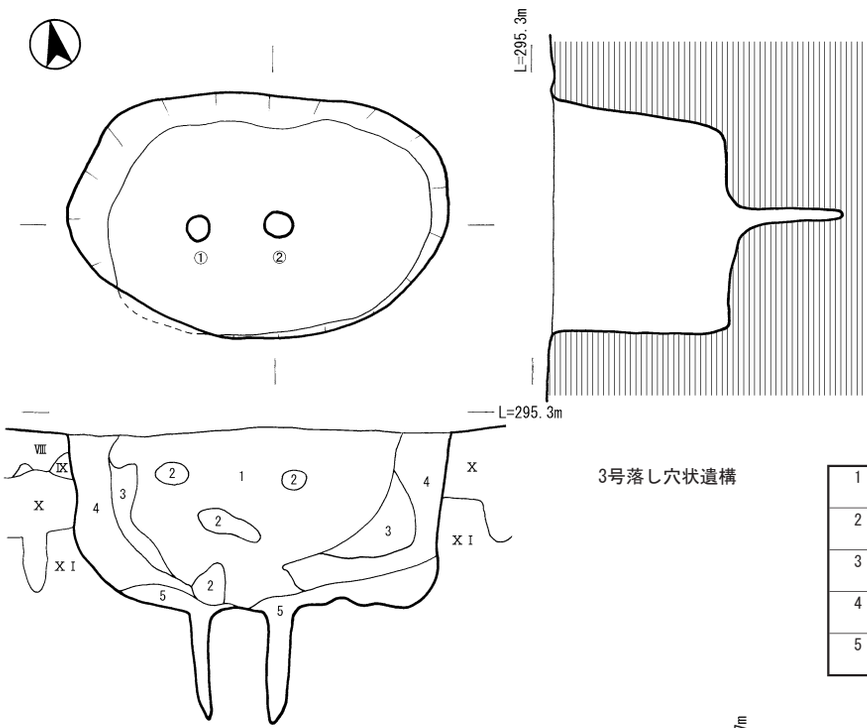
第15図　Ⅴ～Ⅳ層遺構実測図（１）

第１表　Ⅴ～Ⅳ層土坑観察表

報告書No	挿図No	上面長(cm)	上面幅(cm)	深さ(cm)	下面長(cm)	下面幅(cm)
1	15	87	80	34	77	73
2	15	93	74	42	59	45

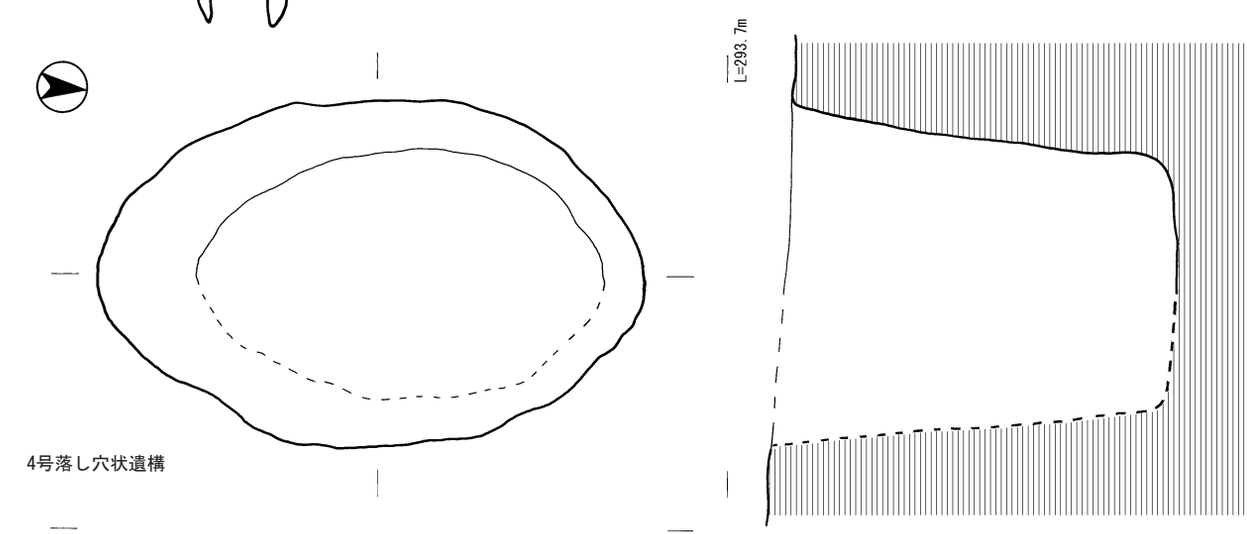


第16図　Ⅴ～Ⅳ層遺構実測図（２）

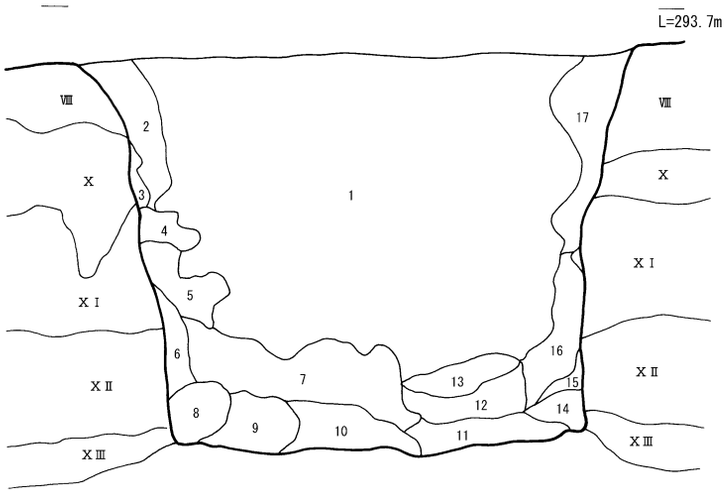


3号落し穴状遺構

1	明黄褐色土。砂利，軽石を多く含む。炭化物あり。アカホヤにⅥ層・Ⅶ層が混ざったもの。
2	明黒褐色土。砂利，軽石を多く含む。Ⅷ層にⅤ～Ⅶ層の土が混ざる。
3	暗黄褐色土。砂利，軽石を多く含む。炭化物あり。1に比べアカホヤの比率が減りさらに黒く濁った層。
4	明黒褐色土。砂利，軽石をやや含む。炭化物あり。1，3よりもさらに黒く，しまりもややある。
5	明黄褐色軟質ローム，砂利，軽石を少し含む。ⅩⅠ層に近い。粘性強くしまりもある。



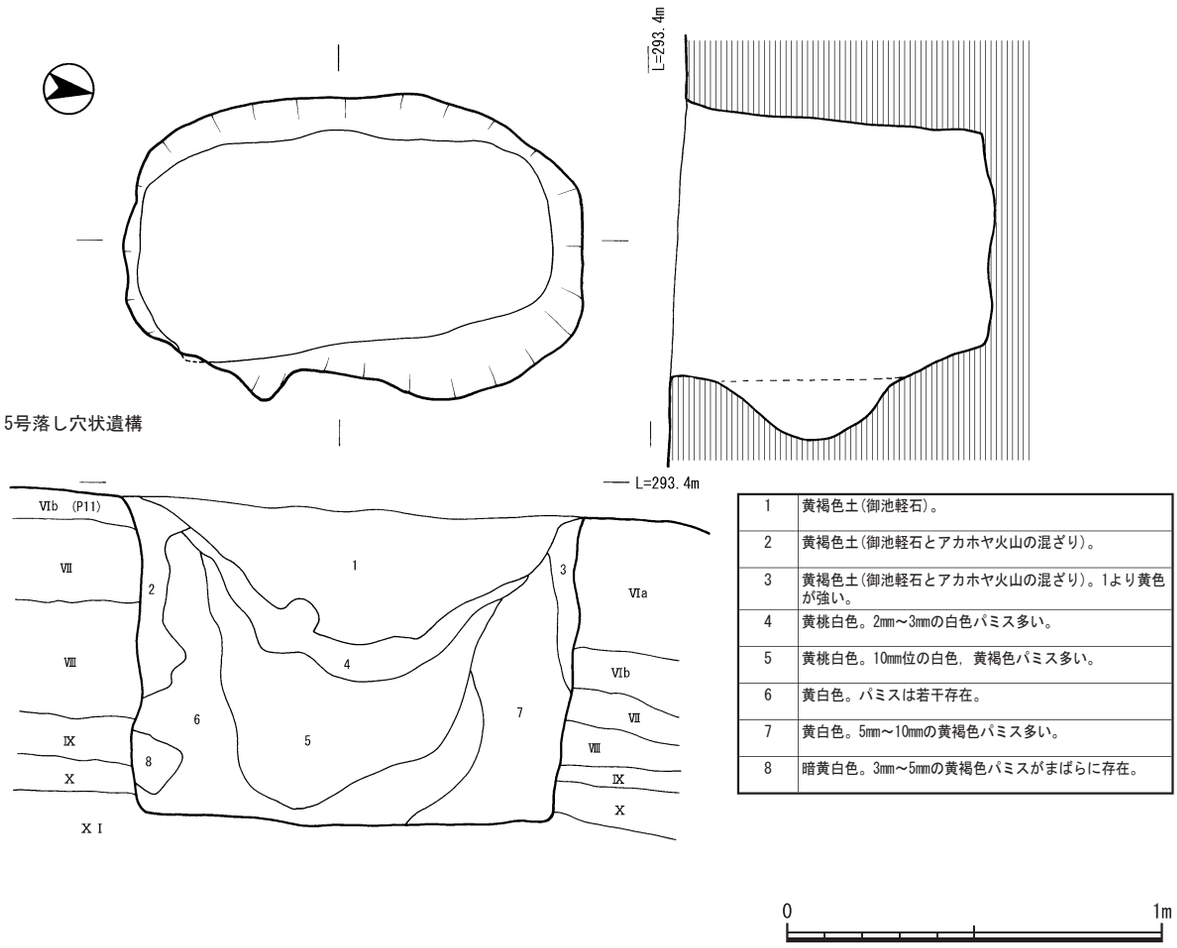
4号落し穴状遺構



1	黄褐色細粒軽石混硬質土(御池軽石　Ⅳ層)。
2	御池にⅨ層・Ⅹ層がまばらに混ざる。
3	Ⅹ層黒色土に御池が少量混ざる。ややしまっている。
4	暗黄白色土。アカホヤとⅩ層と御池が混ざる。柔らかい。
5	暗黄白色土。アカホヤとⅩ層と御池が混ざる。3に比べるとやや白色が強い。柔らかい。
6	暗黄白色土。4と同じようであるが4よりも御池の混ざりがかなり少ない。柔らかい。
7	黄白色土。アカホヤにみられるような5mm～15mmの橙色軽石が全体的にみられる。柔らかい。
8	暗黄灰色土。5mm～10mm橙色軽石が混ざる。6よりもかなり暗く，しまっている。
9	暗黄灰色土。7よりもやや明るい。
10	暗黄白色土。6よりもやや暗くて堅い。
11	暗黄灰色土。8よりも橙色の軽石が多くみられ，堅くしまった感じである。
12	黄褐色土。御池にⅤ層アカホヤやⅩⅡ層土が少し混ざっている。やや堅い。
13	黄褐色土。御池と同じようであるが砂質の土が一部にみられる。やや堅い。
14	暗黄灰色土。ⅩⅡ層土とⅤ層アカホヤが混ざり，5mm位の橙色パミスがまばらに存在。10に似た堅さ。
15	暗黄白色土。御池とⅤ層アカホヤが混ざり，やや柔らかい。
16	黄褐色土。ⅩⅠ層と同じようであるがやや黄色が強い。
17	御池の黄褐色にⅩ層の黒色土がやや混ざっている。御池よりやや黒が強くなる。

第17図　Ⅴ～Ⅳ層遺構実測図（３）

0　1m

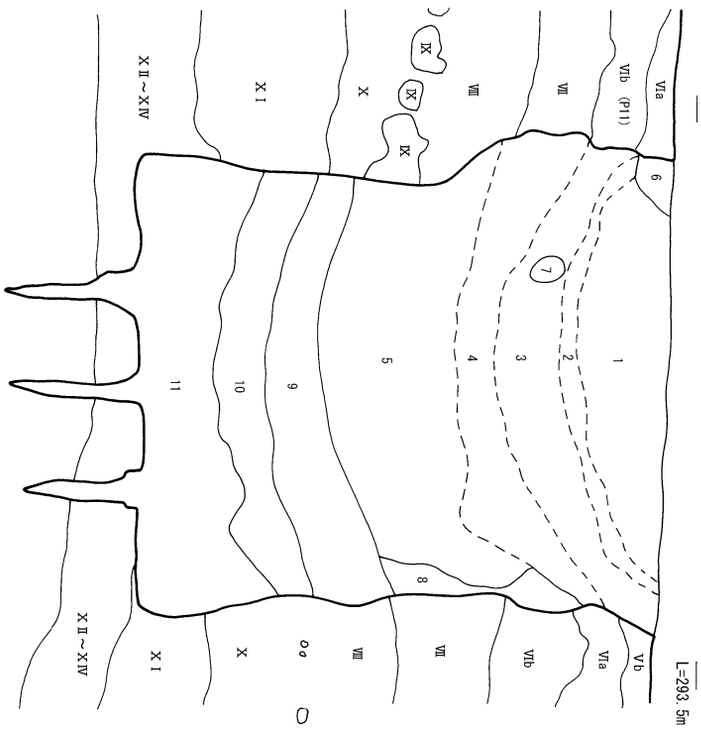


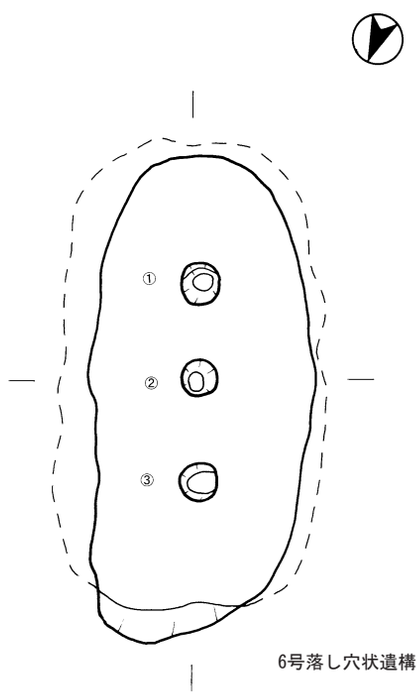
1	黄褐色土(御池軽石)。
2	黄褐色土(御池軽石とアカホヤ火山の混ざり)。
3	黄褐色土(御池軽石とアカホヤ火山の混ざり)。1より黄色が強い。
4	黄桃白色。2mm～3mmの白色パミス多い。
5	黄桃白色。10mm位の白色，黄褐色パミス多い。
6	黄白色。パミスは若干存在。
7	黄白色。5mm～10mmの黄褐色パミス多い。
8	暗黄白色。3mm～5mmの黄褐色パミスがまばらに存在。

第18図　Ⅴ～Ⅳ層遺構実測図（４）

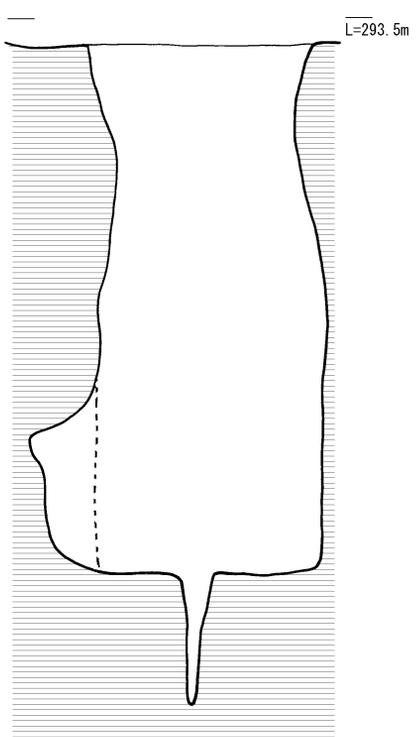
第２表　Ⅴ～Ⅳ層落し穴状遺構観察表

報告書No	挿図No	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	小ピット数	小ピットNo	小ピット径(cm)	小ピット深さ(cm)
1	16	88	80	120	-	-	-	-
2	16	90	58	110	3	①	8	34
						②	8	26
						③	8	28
3	17	102	65	50	2	①	6	30
						②	8	30
4	17	146	92	106	-	-	-	-
5	18	122	72	87	-	-	-	-
6	19	130	57	143	3	①	12	35
						②	10	35
						③	10	32
7	20	165	90	155	3	①	12	40
						②	12	34
						③	10	28
8	21	124	58	118	3	①	16	30
						②	16	32
						③	14	34
9	21	116	53	146	4	①	5	32
						②	5	34
						③	5	34
						④	5	28
10	22	135	63	113	3	①	12	35
						②	6	35
						③	6	35
11	22	144	65	108	3	①	10	24
						②	8	28
						③	10	28
12	23	120+α	43	142	3	①	8	44
						②	8	32
						③	9	30





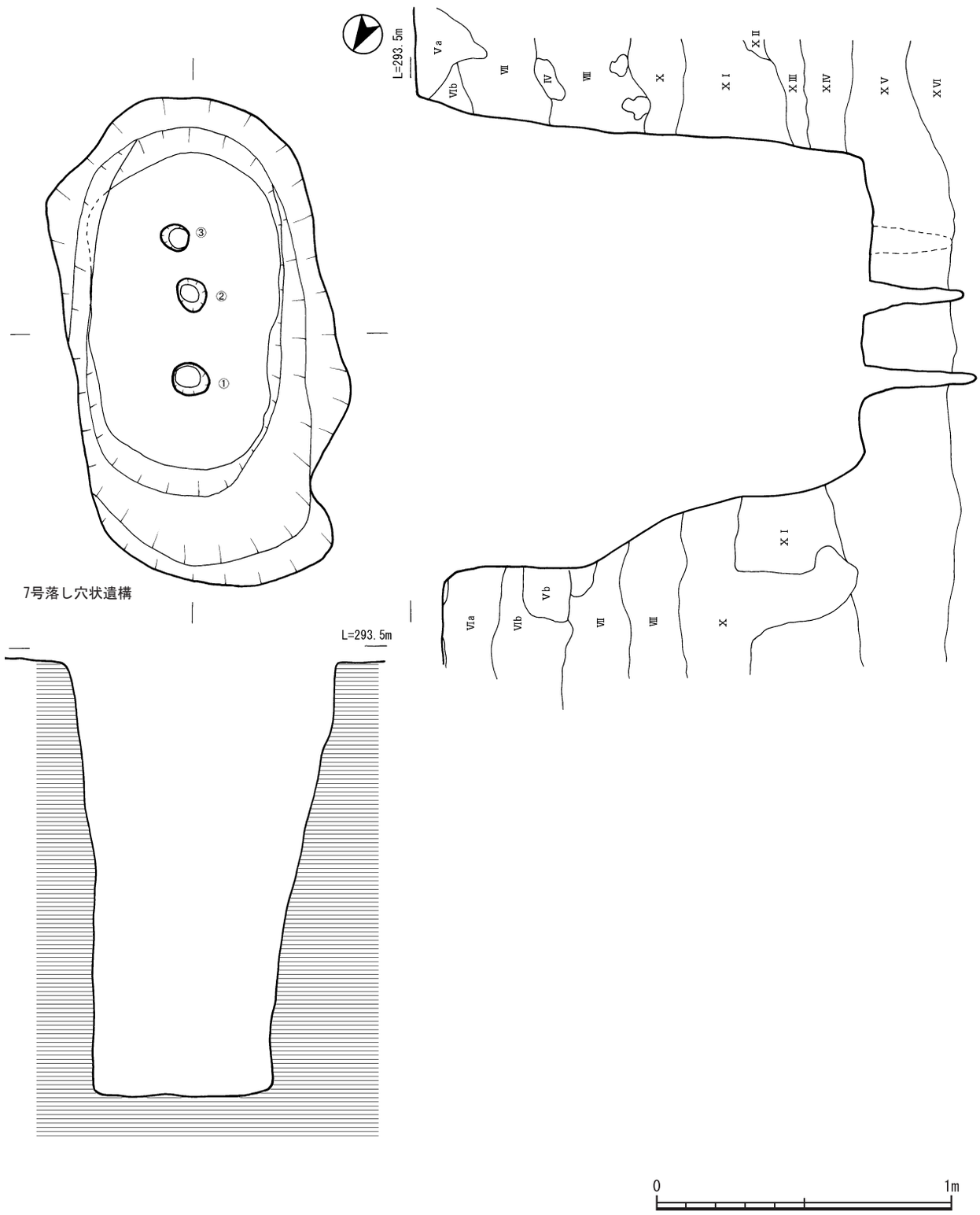
6号落し穴状遺構



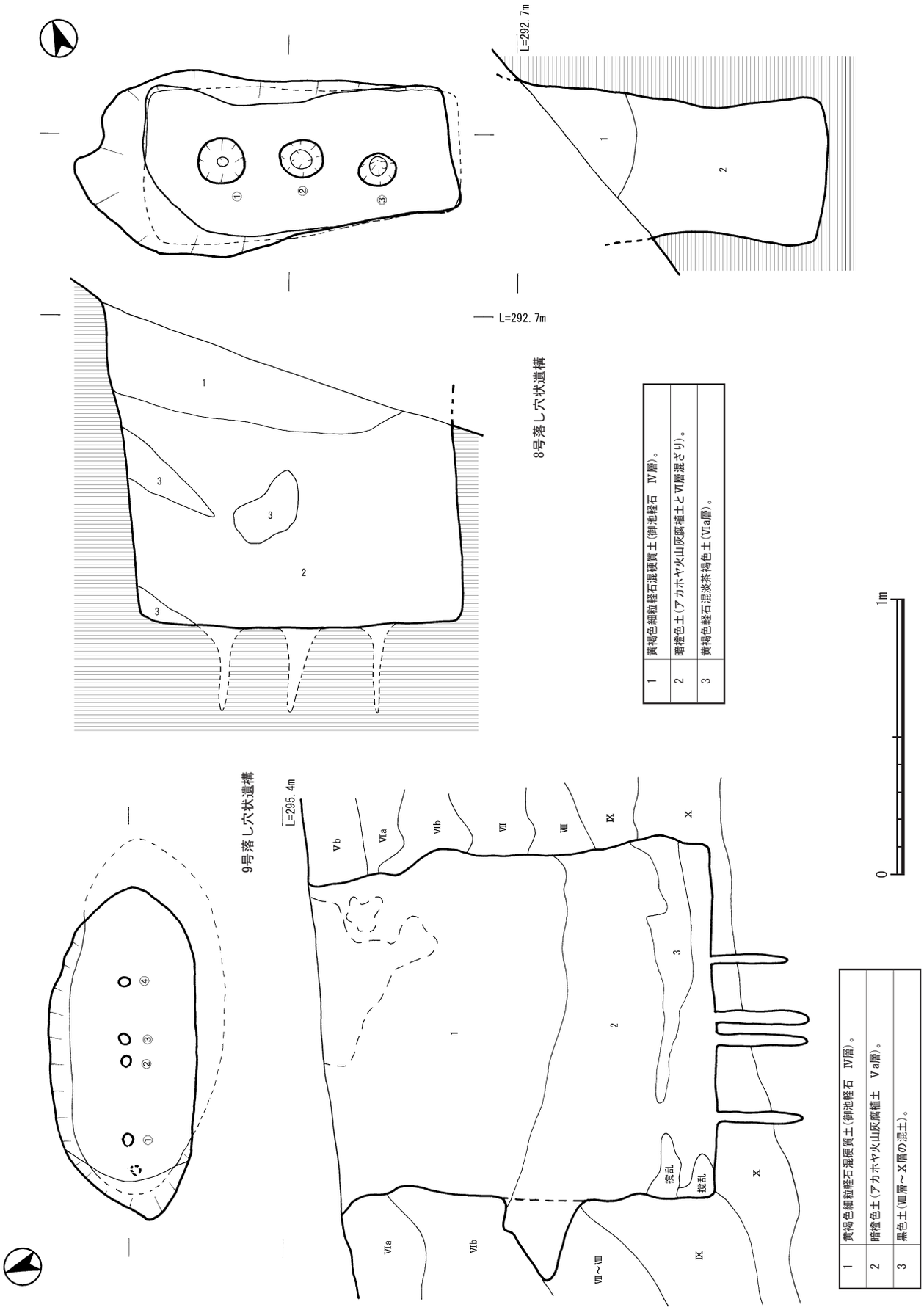
	※1～8は御池の1次。全体的に黄褐色で。軽石の大きさにより分層。
1	2mm度以下の軽石層。砂に類似。
2	3mm位の軽石層。
3	3mm～4mmの軽石層。2よりもまばら。
4	1mm～2mmの軽石層。1よりも砂の感じがない。
5	3mm～4mmの軽石層。径15mmの軽石など大きな軽石も存在。
6	アカホヤ1次(Ⅴb層)と御池の混ざり。
7	Ⅴb層のアカホヤと御池が混ざり，6よりもアカホヤは少ない。
8	Ⅴb層のアカホヤと御池が混ざり，御池の軽石は1と同じような大きさ。
9	白明橙色土。アカホヤであるが水性作用を受けたような感じで，4mm～10mmの軽石が若干存在。
10	Ⅶ・Ⅷ層混ざり明黒褐色土。5mm～10mm程度の黄色，黄褐色軽石混ざり。9より硬い。
11	白明橙色土。9よりやや暗い。4mm～5mmの黄色，黄褐色軽石混ざり。9よりかなり柔らかい。

0　1m

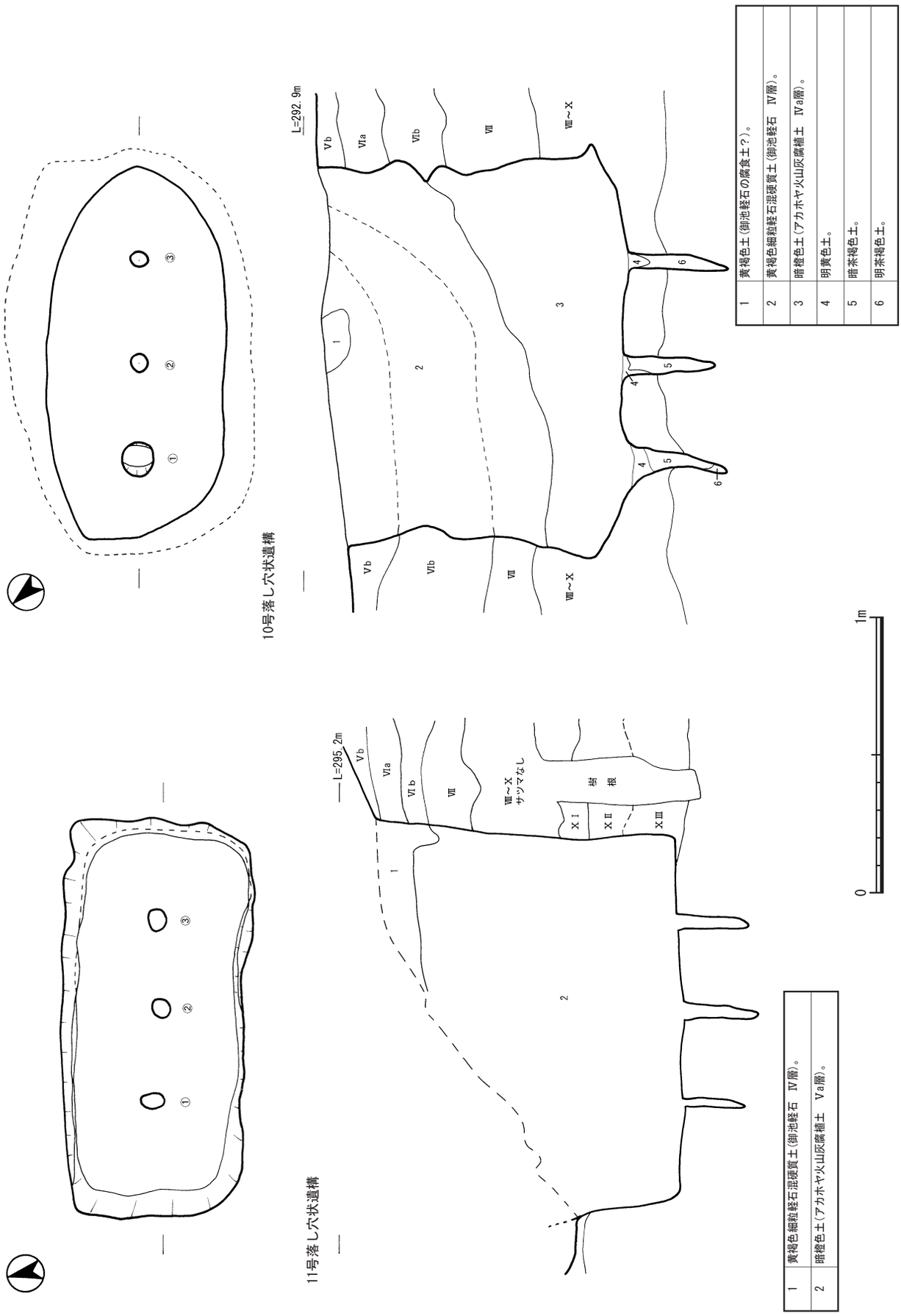
第19図　Ⅴ～Ⅳ層遺構実測図（５）



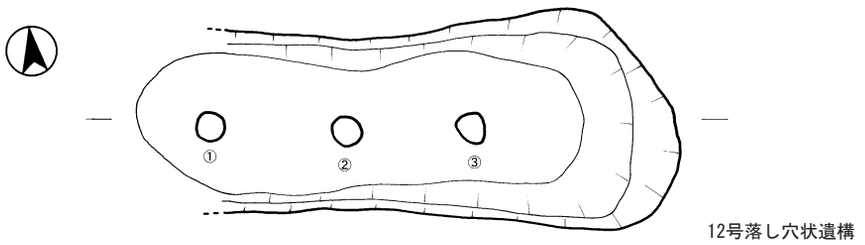
第20図　Ⅴ～Ⅳ層遺構実測図（６）



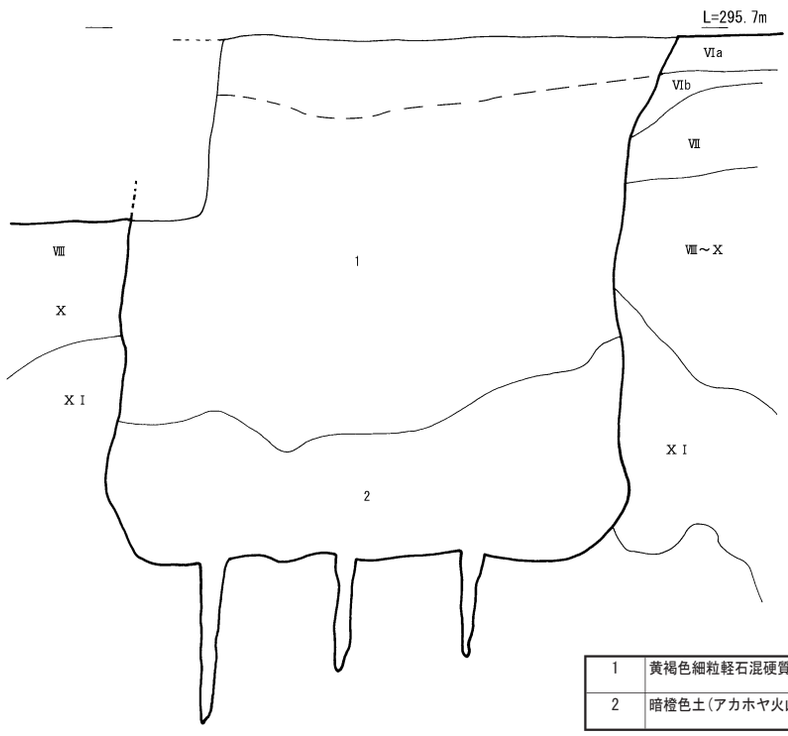
第21図　Ⅴ～Ⅳ層遺構実測図（７）



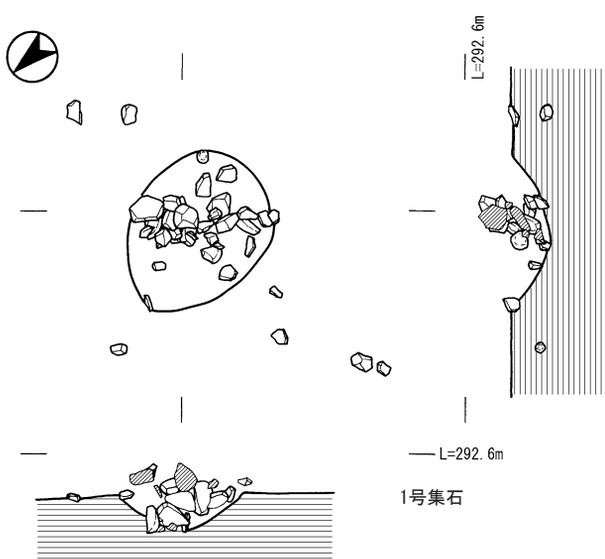
第22図　Ⅴ～Ⅳ層遺構実測図（８）



12号落し穴状遺構



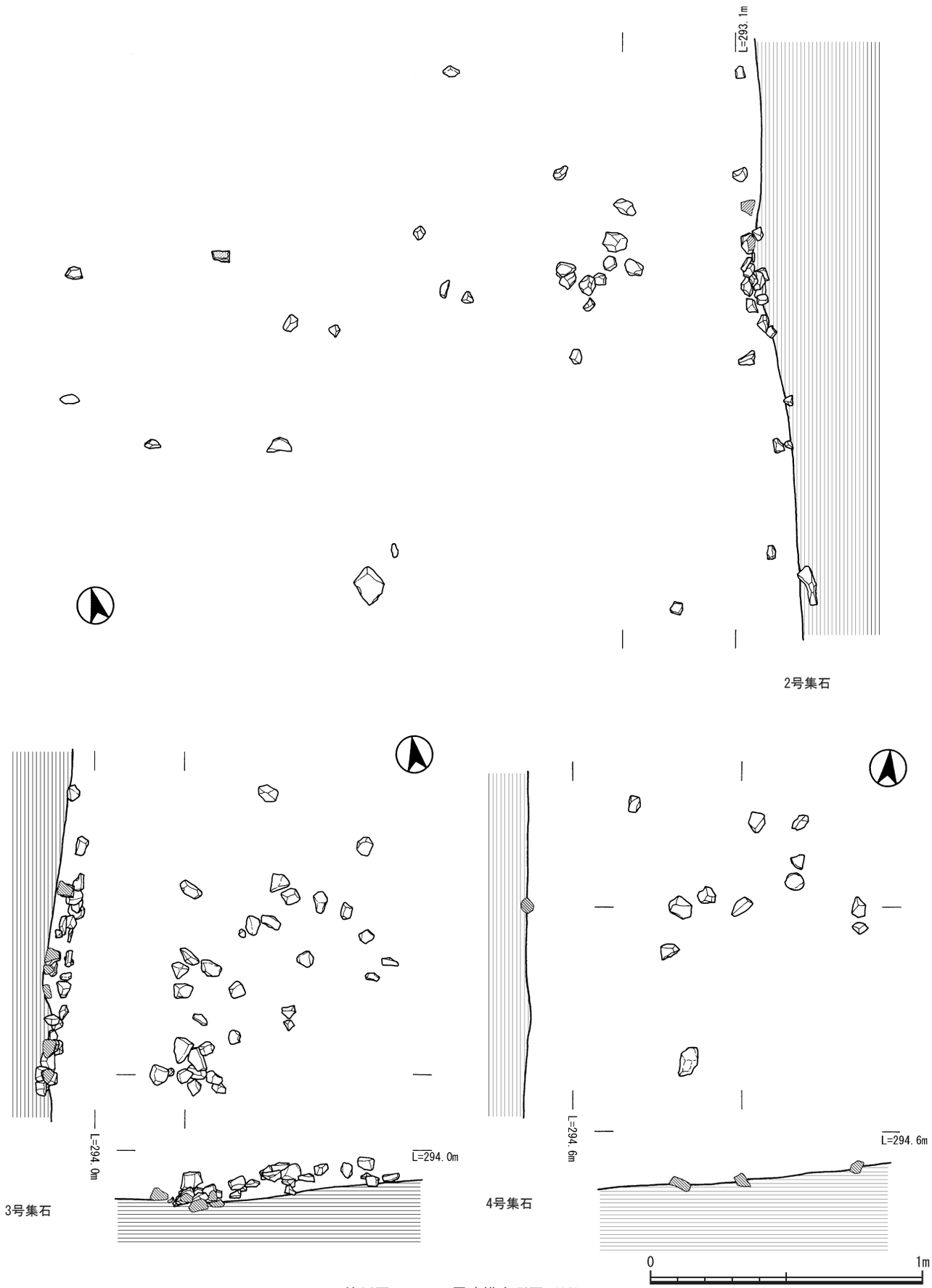
1	黄褐色細粒軽石混硬質土(御池軽石　Ⅳ層)。
2	暗橙色土(アカホヤ火山灰腐植土　Ⅴa層)。



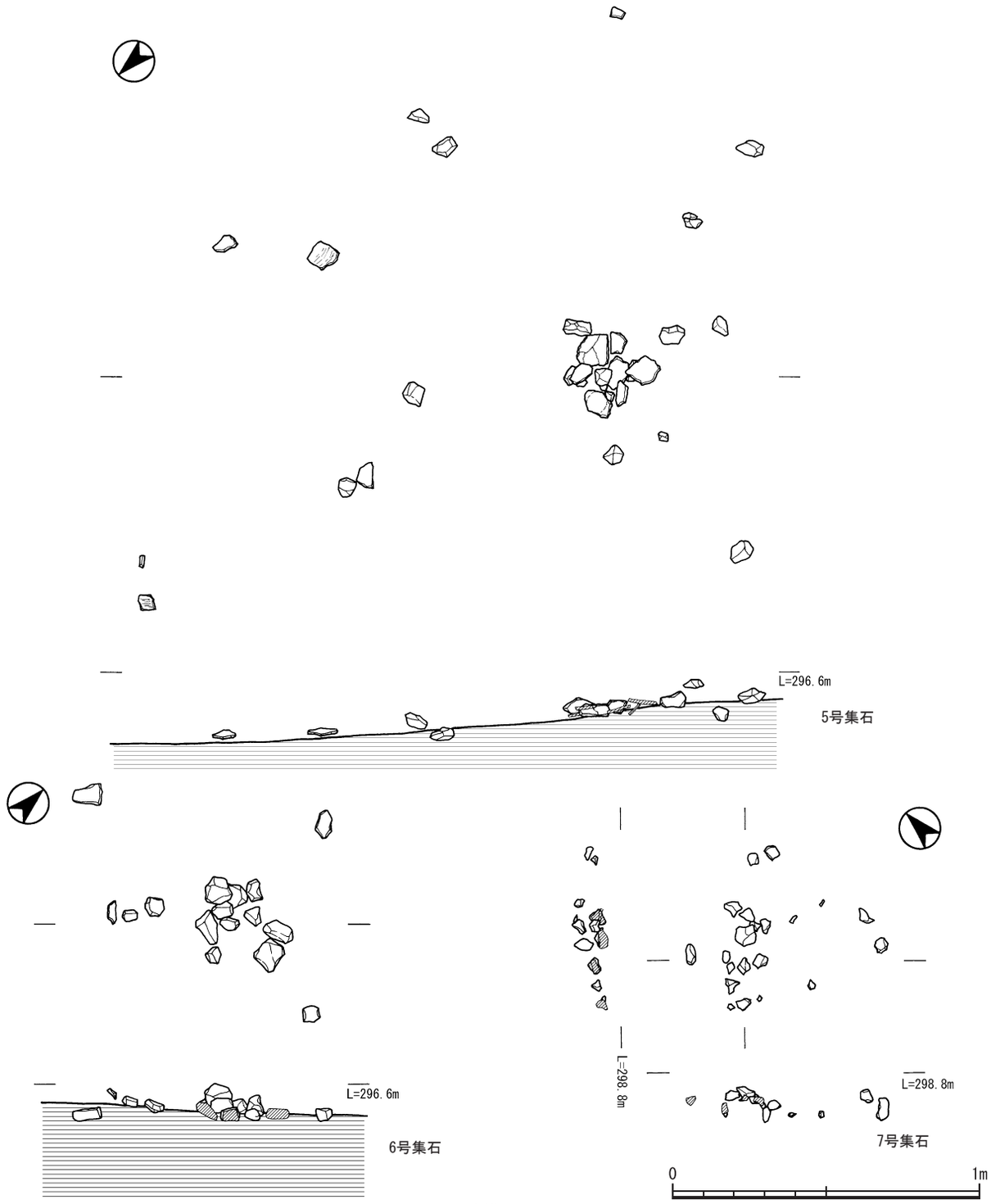
1号集石

0　1m

第23図　Ⅴ～Ⅳ層遺構実測図（９）



第24図　Ⅴ～Ⅳ層遺構実測図（10）

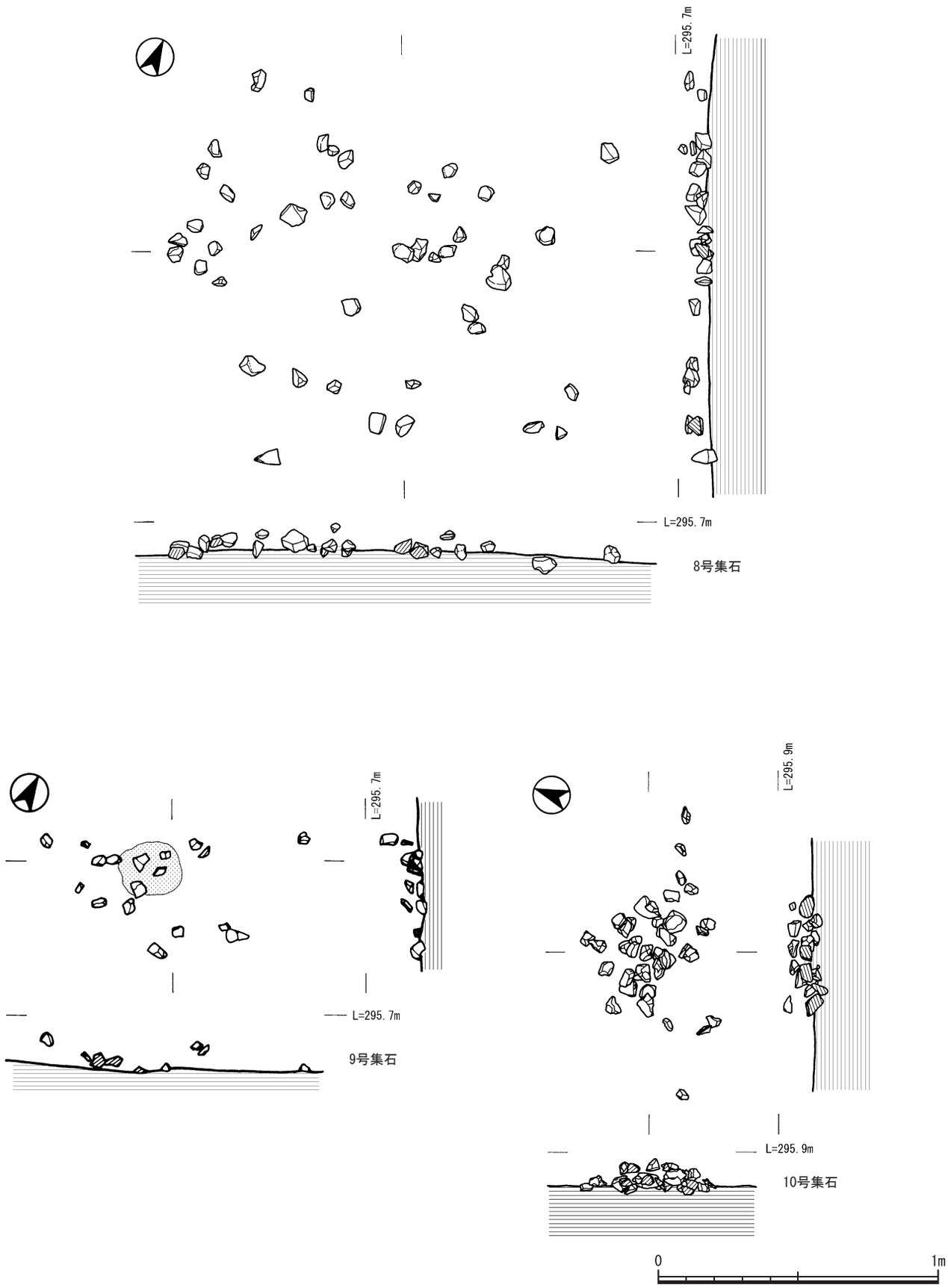


第25図　Ⅴ～Ⅳ層遺構実測図（11）

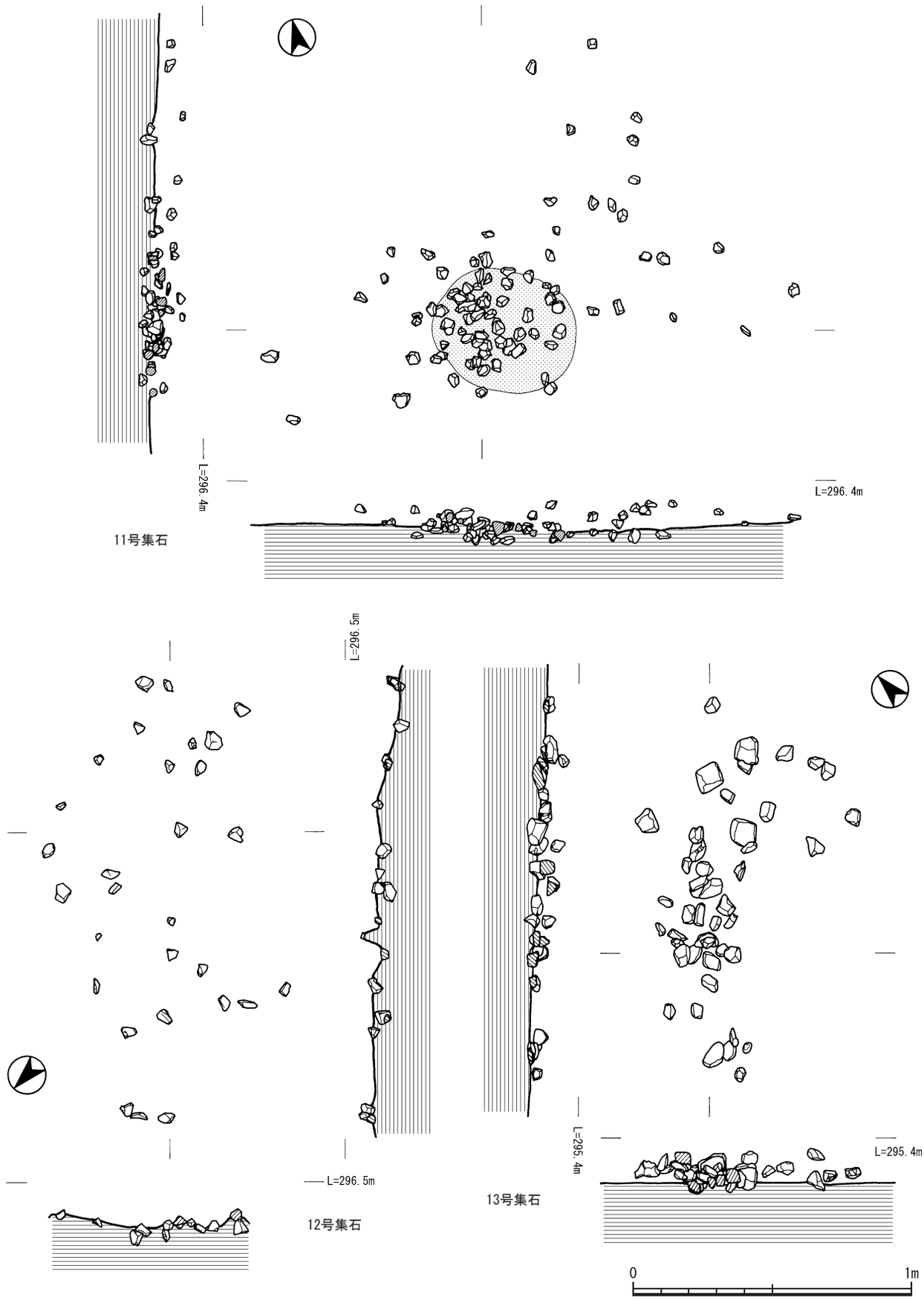
第３表　Ⅴ～Ⅳ層集石観察表（１）

報告書No	挿図No	類別	大きさ		掘り込み					備考
			長径(cm)	短径(cm)	No	径	径	深さ	礫数	－
1	23	ⅠA	86	74	1	44	36	11	29	－
2	24	ⅢA	229	201	－	－	－	－	－	－
3	24	ⅢA	114	91	－	－	－	－	－	－
4	24	ⅢB	103	88	－	－	－	－	－	－
5	25	ⅢA	204	197	－	－	－	－	－	－
6	25	ⅢA	85	79	－	－	－	－	－	－
7	25	ⅢB	66	54	－	－	－	－	－	－

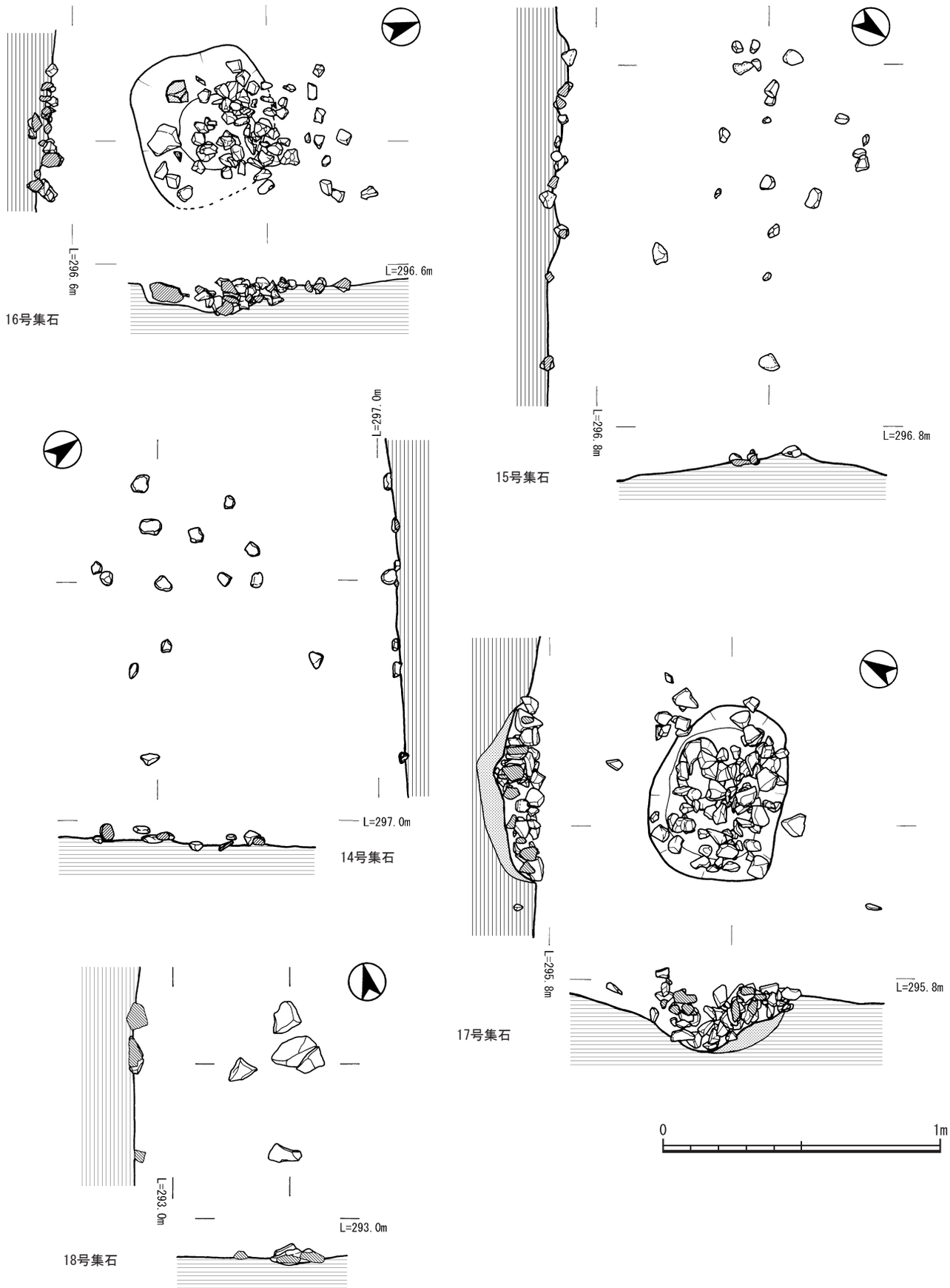
報告書No	挿図No	類別	大きさ		掘り込み					備考
			長径(cm)	短径(cm)	No	径	径	深さ	礫数	－
8	26	ⅢB	162	140	－	－	－	－	－	－
9	26	ⅢA	97	46	－	－	－	－	－	－
10	26	ⅢA	105	50	－	－	－	－	－	－
11	27	ⅢA	194	89	－	－	－	－	－	－
12	27	ⅢB	160	89	－	－	－	－	－	－
13	27	ⅢA	139	81	－	－	－	－	－	－



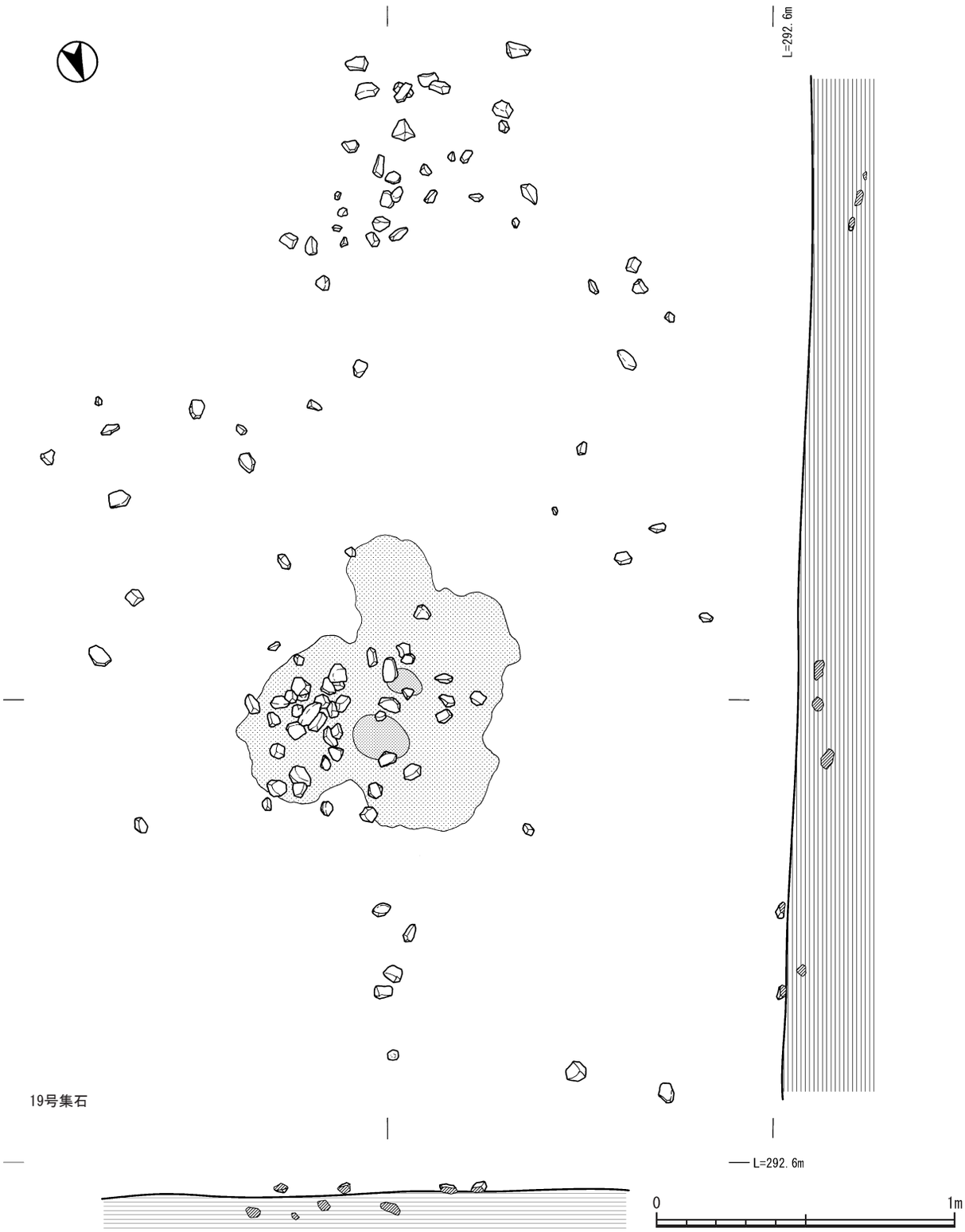
第26図　Ⅴ～Ⅳ層遺構実測図（12）



第27図　Ⅴ～Ⅳ層遺構実測図（13）



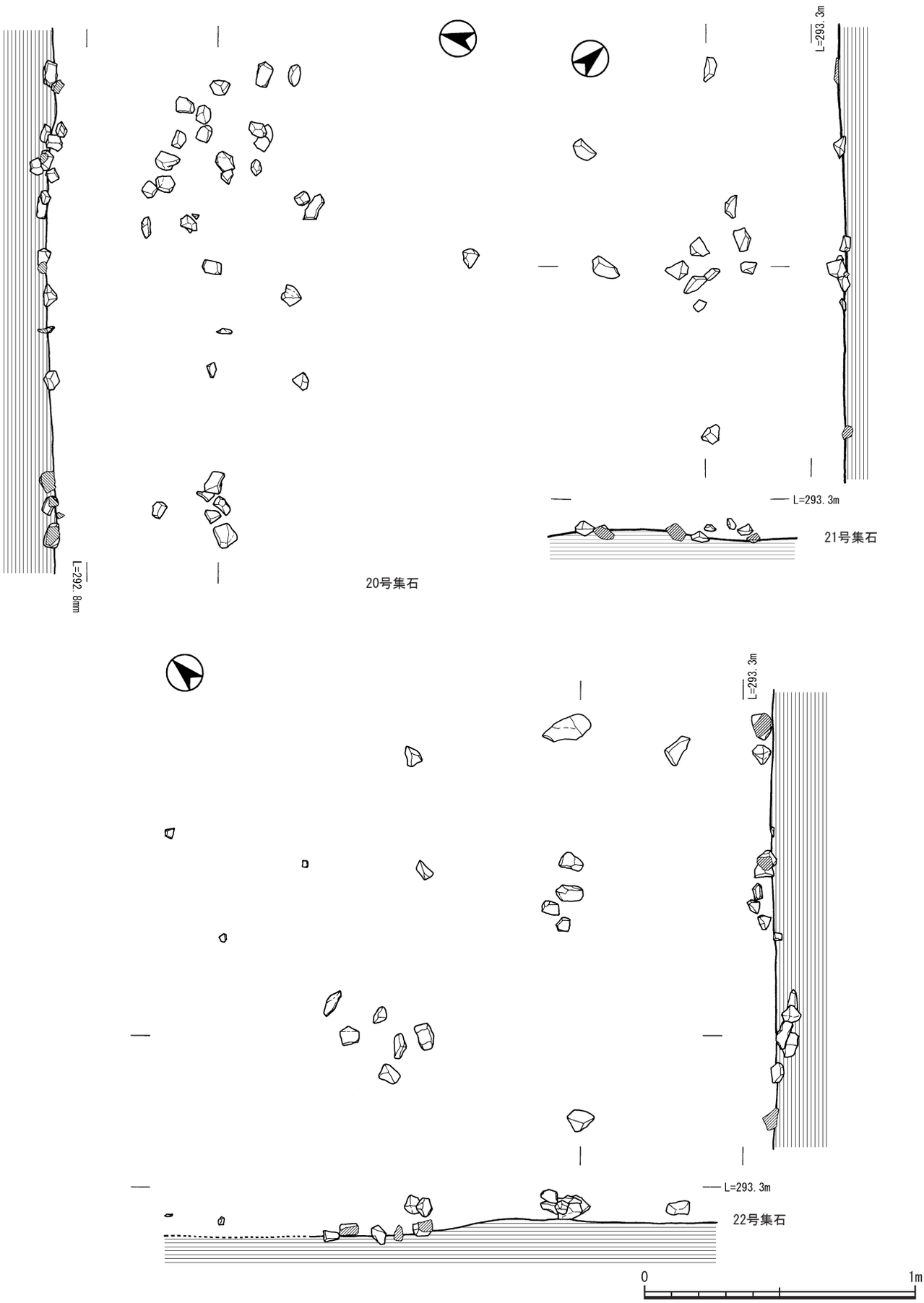
第28図　Ⅴ～Ⅳ層遺構実測図（14）



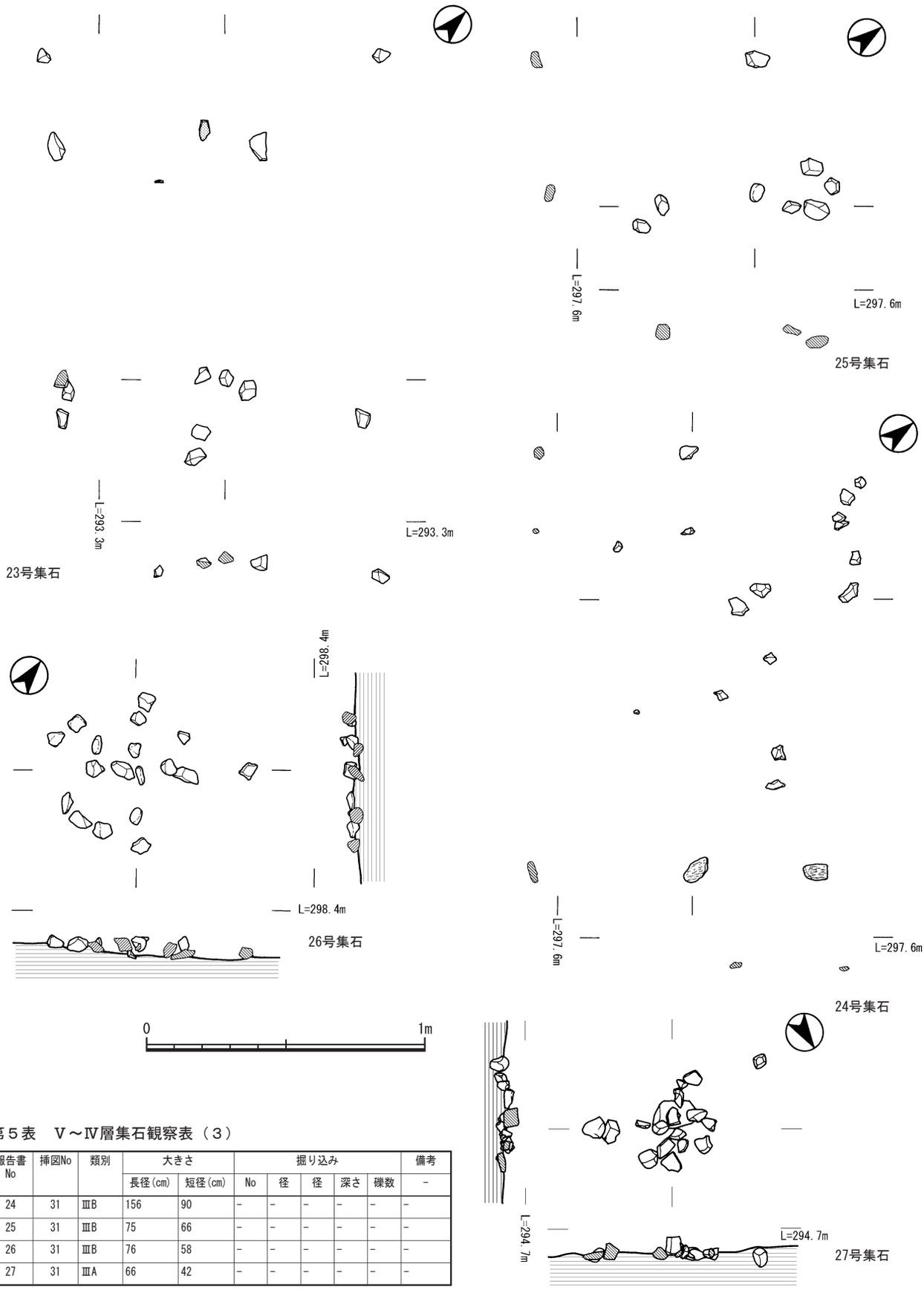
第29図　Ⅴ～Ⅳ層遺構実測図（15）

第４表　Ⅴ～Ⅳ層集石観察表（２）

報告書No	挿図No	類別	大きさ		掘り込み					備考
			長径(cm)	短径(cm)	No	径	径	深さ	礫数	－
14	28	ⅢB	105	84	－	－	－	－	－	－
15	28	ⅢB	119	79	－	－	－	－	－	－
16	28	ⅠA	83	52	1	56	50	11	60	－
17	28	ⅠA	100	86	1	64	46	21	77	－
18	28	ⅢB	58	35	－	－	－	－	－	－
19	29	ⅢA	356	213	－	－	－	－	－	－
20	30	ⅢB	180	125	－	－	－	－	－	－
21	30	ⅢB	142	67	－	－	－	－	－	－
22	30	ⅢB	194	155	－	－	－	－	－	－
23	31	ⅢB	150	74	－	－	－	－	－	－



第30図　Ⅴ～Ⅳ層遺構実測図（16）



第５表　Ⅴ～Ⅳ層集石観察表（３）

報告書No	挿図No	類別	大きさ		掘り込み					備考
			長径(cm)	短径(cm)	No	径	径	深さ	礫数	-
24	31	ⅢB	156	90	-	-	-	-	-	-
25	31	ⅢB	75	66	-	-	-	-	-	-
26	31	ⅢB	76	58	-	-	-	-	-	-
27	31	ⅢA	66	42	-	-	-	-	-	-

第31図　Ⅴ～Ⅳ層遺構実測図（17）

第３節　土器

１　縄文時代前期・中期の土器

（１）土器群の概要

本遺跡における縄文時代前期・中期の土器群は出土層位としてはⅢ層からⅦ層に及んでおり，Ⅴ層を中心として出土している。約4,200年前の霧島御池テフラ(Kr-m)に相当するⅣｂ層から，約6,400年前の鬼界カルデラが噴出源であるアカホヤ火山灰に相当するⅤb層に挟まれるⅤa層をその分布の中心としている。包含層の様相は，微細な観点において地形の影響による若干の差異はあるものの，桐木・耳取調査区それぞれにおける基本層序に大きな相違はない。

出土遺物である土器については型式としては，轟式をはじめ，曽畑式土器，深浦式土器，船元式土器，春日式土器などがこれに相当する。これらの分布域は，それぞれに若干異なる傾向を見せるものの，広範囲におよぶ調査対象地域の中における疎密が捉えられる程度である。しかし出土量としては，本遺跡を特徴付ける一つの要素として捉えうる程の量であるといえる。出土傾向としては，桐木調査区についてみてもA～H-７～19区，あ～う-10～20区にわたるエリアを主体として文字通り累積する状況をみせている(第32図)。

同一層内における層位的検討についても，本遺跡の大まかな傾向としての生活面，もしくは使用域の重複や地形に起因する遺物の移動，後世の遺構構築による撹乱などの影響から，それぞれの類型についての垂直分布状況の検討については困難であるといえる。

以上のことから各型式における分布域，垂直分布をもとにした体系的な編年案の構築には本遺跡のみの検証では難があることから，形態的な特徴や調整法にみられる特徴を元に，大まかな分類を行うこととした。時間的には多少大きな幅があるかもしれないが，前期と中期の明確な分離は行わず，あえてⅤ層を中心とする出土をみせる一連の土器群として扱うこととし，７類，10タイプに大別した。

（例言・観察表等略号について）

１「取上No(グリッド/層位)」の項目の記載では，調査区および調査年度にしたがい，下記のように記号で示し，発掘調査時における遺物台帳等との整合性を図った。

○　桐木遺跡(平成８～11年度)
◎　桐木Ｂ遺跡(平成12年度)
●　桐木Ｂ遺跡(平成13年度)
▲　耳取遺跡(平成11/12年度)

２　「胎土」の項目の記載では，石英および長石については一般的な生成鉱物であるため，特に記載しなかった。また，下記鉱物については略号を用いた。

雲-雲母，角-角閃石，滑-滑石，輝-輝石，黒-黒雲母，耀-黒耀石，赤粒-赤色粒，白粒-白色粒

３　「備考」の項目の記載について

１　胎土に砂粒あるいは細粒の粒度のある鉱物がほとんど観察されず，微粒度の鉱物で構成された土器については「胎土精選」として特記した。

２　特に含有量の多い鉱物あるいは粒度の大きな鉱物については「混和材」として特記した。

３　土器面に炭化物の付着が認められた個体については「スス付着」もしくは「炭化物」と記載し，実測図に示した。

以下それぞれの分類について述べる。

（２）各類型

Ⅰ類(第33～36図，第６・７表)

轟式土器とみられる土器群である。

器形は若干の外反を呈する深鉢で，平坦な口唇部をもつものと波状を呈するものとがある。

器面調整は貝殻条痕が不規則に施されており，胴部には断面が三角形を呈する突帯が施されている。さらに突帯は刻み目を有する。器壁は薄く，色調は暗褐色から黒褐色を呈し，焼成状況も良好である。６，７は小型の丸底を持つ浅い鉢とみられ，調整は底部から放射状ではなく，同心円状に施されている。７については内面を一様に貝殻条痕で調整しているが，外面は胴部中位付近において，突帯を区画としてヘラ状工具による横位と斜位を組み合わせた沈線文が施されている。突帯による円形のモチーフは区画内面を丁寧にナデ調整している。さらに円形モチーフの上下には縦位の区画が付随する。なお，この胴部中位の施文・作成順序については，向かって右から左に沈線文→円形突帯→縦位突帯→沈線文の順序が観察できる。８は若干の外反を呈する深鉢であり，底部については不明である。基本調整は内面，外面ともに貝殻条痕文であるが，外面はさらにナデ調整が施される。横位に巡る刻目を有する突帯の位置で屈曲をみせる。口縁部付近と屈曲部上位には，縦位の突帯が９～12本程度を１単位とし，幅40㎜で認められる。口縁部の縦位突帯は口唇部を越え，若干内面に及ぶ。口縁部の縦位突帯下部から屈曲部の縦位突帯の上部に至る区画には，ほぼ均等に合計４本の幅3㎜１条のみの棒状工具とみられる押引文が向かって右から左に施されている。

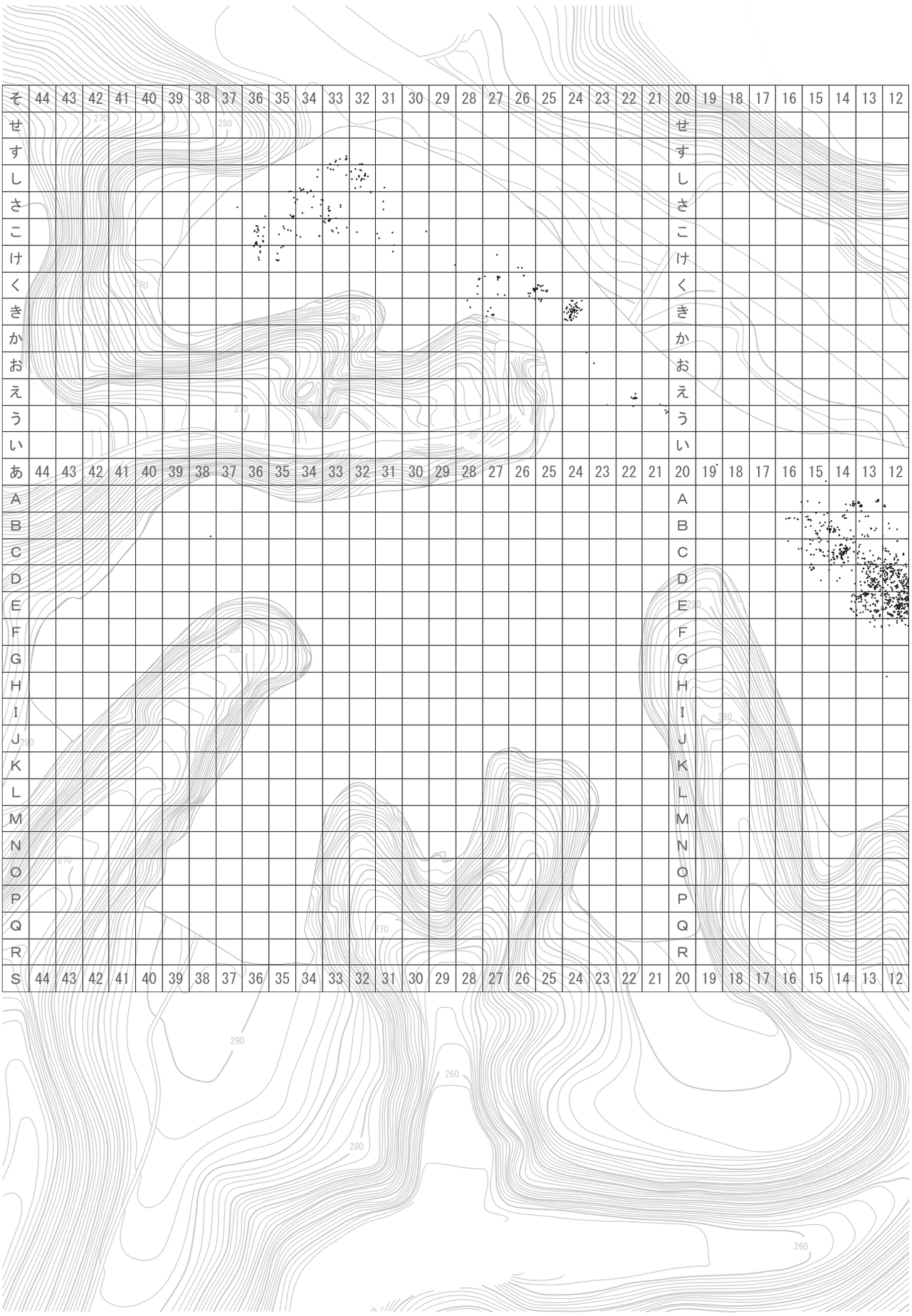
分布状況については耳取調査区がJ-6～7区，桐木調査区がし-31～せ-33区，さ-35区において出土が認められる。

Ⅱ類(第37～41図，第８・９表)

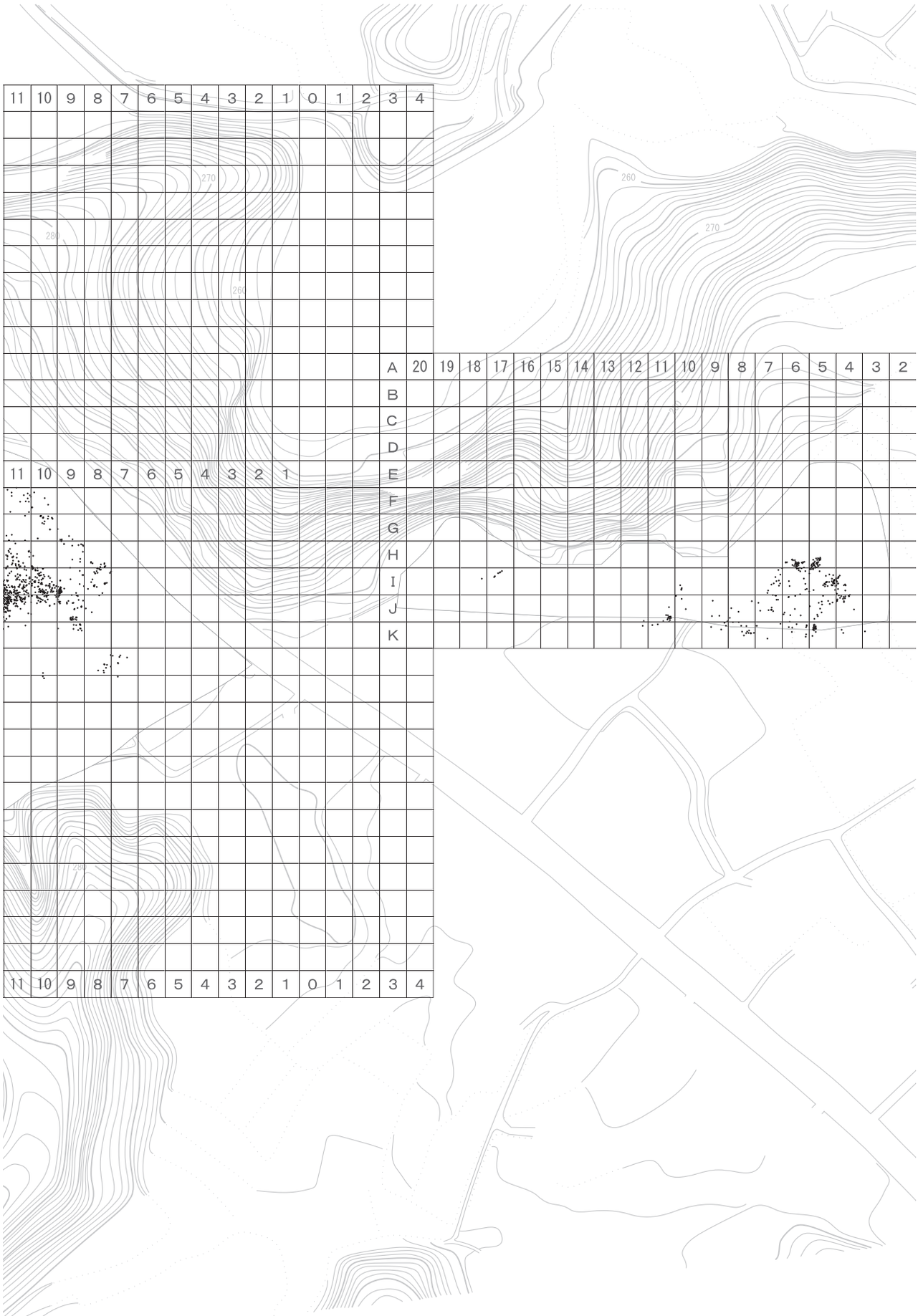
曽畑式土器に分類される土器群である。

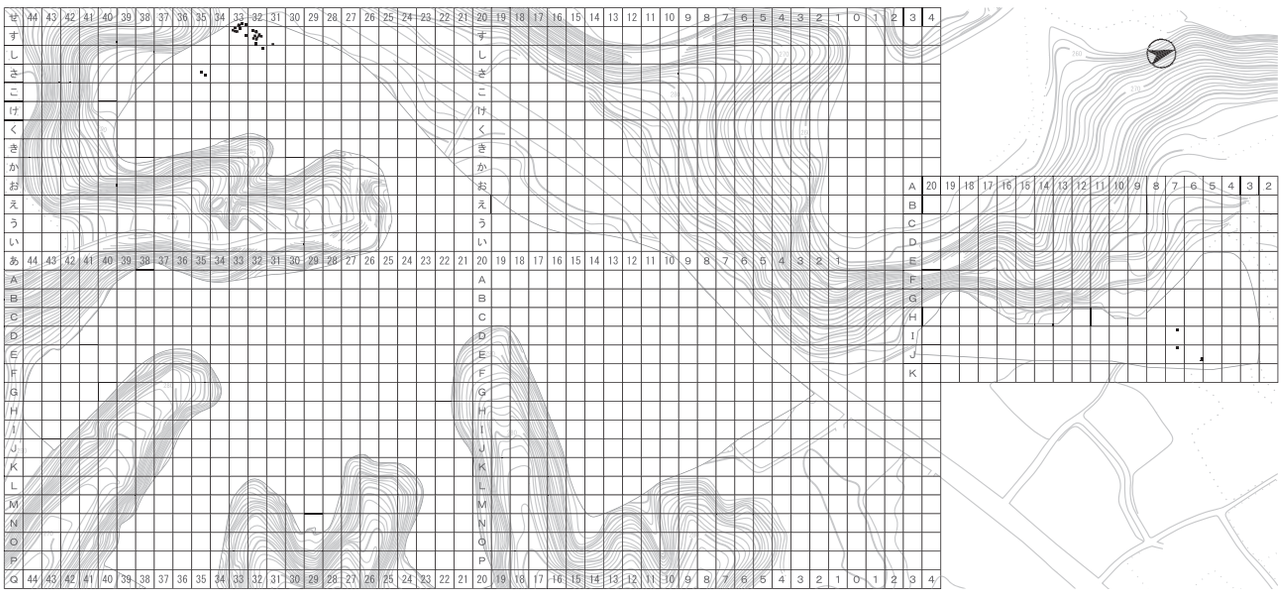
器形については，直行にちかい外反から緩やかに外反するもの，そして口唇部付近において急激に外反するものがある。基本的には丸底の底部をもつ深鉢である。外面には口唇部から底部までほぼ全面にヘラ状，または棒状工具を用いた刺突・押引・沈線による文様が施される。内面は貝殻条痕文を地文としているが，丁寧なケズリ・ナデ調整が施され，調整痕としての貝殻条痕文はほとんどナデ消されている。

文様構成は列点文，羽状文，横線文，菱形文を組み合わせたものが主であるが，縦・横の沈線による区画としての文様

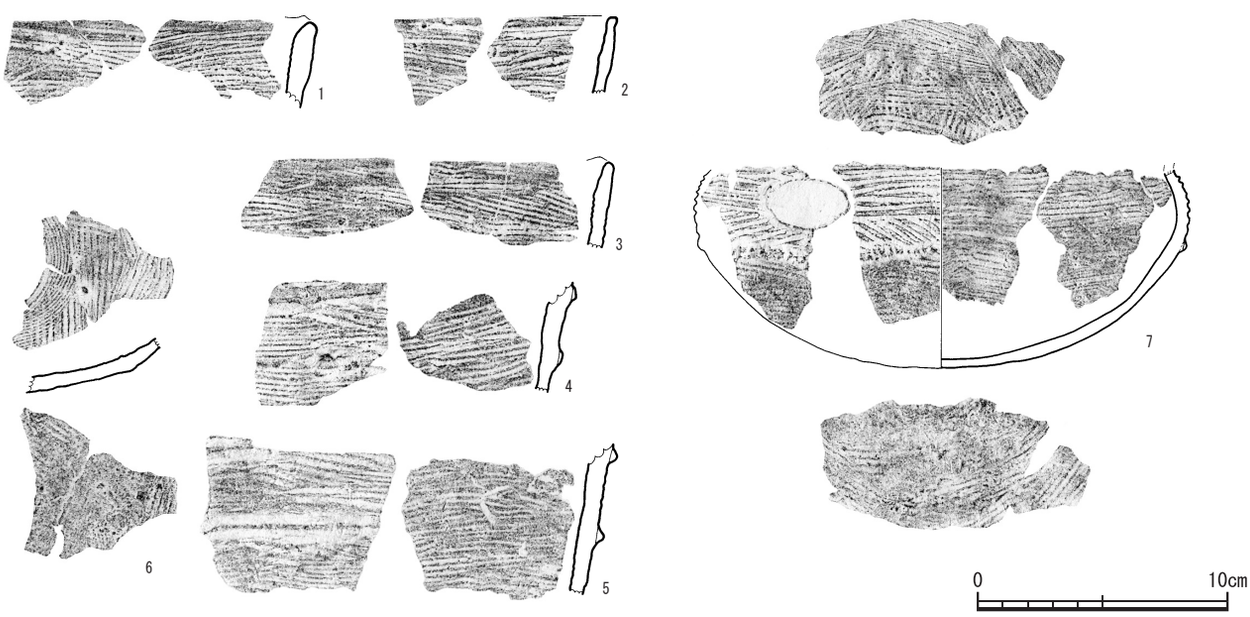


第32図　前中期土器分布図（１）


11 10 9 8 7 6 5 4 3 2 1 0 1 2 3 4
A B C D E F G H I J K
20 19 18 17 16 15 14 13 12 11 10 9 8 7 6 5 4 3 2
270
260
280



第33図　前中期土器分布図（２）



第34図　Ⅴ層遺物実測図（１）

もみられる。口縁部内面には，工具を斜めに支持して壁面に押し当てる２列の刺突文と壁面に対して直角に押し当てる刺突文の下位に縦位と横位の沈線文を組み合わせたもの，横位の沈線文を４条程度施すものがみとめられる。丸底の底部については，２条の沈線を１組として「十の字」に直行させるものがあり，これはまさに編籠の底部を想起させる。

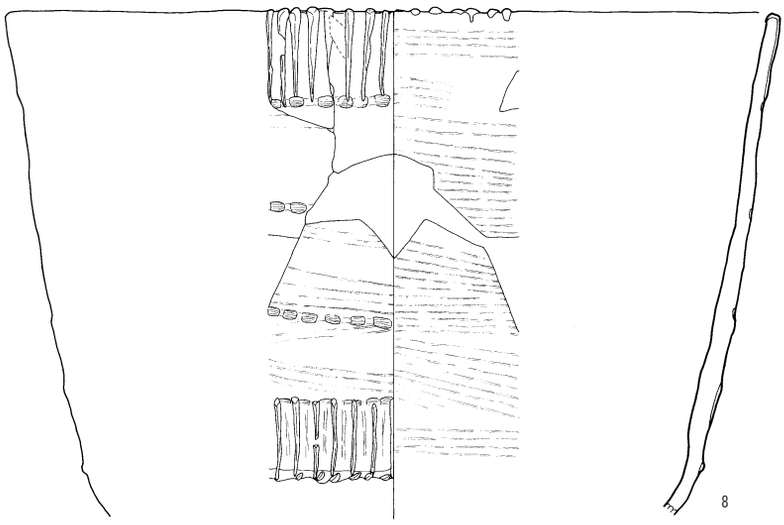
分布状況は桐木調査区がB～E-10～13区，F～G-７～８区，し-31～32区に主たるまとまりをみせ，耳取調査区においてはJ-11～12区，J-８区において出土が認められる。

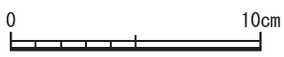
Ⅲ－１類(第42～49図，第10～12表)

深浦式土器に分類される土器群である。

器形は基本的には若干の外反を呈する深鉢であるが，胴部において若干の張りをみせ，口縁に至る直前で一度すぼまった後に外反気味に内湾するいわゆるキャリパー状の器形を呈するものもある。口縁部形態は平口縁を呈するものと波状口縁を呈するものとがある。波状口縁を呈するものについては，各頂部が対をなし，２組からなる計４つの頂部を持つようである。底部形態についても丸底部が基本であると思われるが，底部の内面形成において，若干の尖りを意識したと思われるものもある。

基本調整については貝殻による条痕であるが，条痕をそのまま残すものと，その後ケズリによって調整するものがある。外面施文については貝殻による条痕文と貼付突帯による構成と，沈線文による構成とがあり，モチーフとしては，縦位の区画に波状口縁に沿う形となる波状と横位の直線による組み合わせと，49のような貝殻による縦位・横位・斜位から構成される押引文がある。なお，く・き-24区に集中する49





第35図　Ⅴ層遺物実測図（２）

第６表　前中期土器観察表（１）

挿図No	図No	取上No(出土区/層位)	分類	調整(内)	調整(外)	備考
34	1	▲12864(J-5/Ⅴa)	Ⅰ類	貝殻条痕	貝殻条痕	
34	2	▲7556(I-5/Ⅴa)	Ⅰ類	貝殻条痕	貝殻条痕	
34	3	▲3026(J-6/Ⅴa)	Ⅰ類	貝殻条痕	貝殻条痕	
34	4	▲3027(J-6/Ⅴa)	Ⅰ類	貝殻条痕	貝殻条痕,貼付突帯	
34	5	▲3028(J-6/Ⅴa)	Ⅰ類	貝殻条痕	貝殻条痕,貼付突帯	
34	6	▲9230(J-7/Ⅴa)	Ⅰ類	貝殻条痕	貝殻条痕,貼付突帯	
34	7	▲9230(J-7/Ⅴa) ▲10464(J-7/Ⅶ) ▲10494(I-7/Ⅵa)	Ⅰ類	貝殻条痕	貝殻条痕,貼付突帯,押引	

第７表　前中期土器観察表（２）

挿図No	図No	取上No(出土区/層位)	分類	調整(内)	調整(外)	備考
35	8	●117(さ-35/Ⅴa) ●624(す-32/Ⅳ) ●1098(す-32/Ⅳ) ●1100(す-32/Ⅳ) ●1112(す-32/Ⅳb) ●1115(す-32/Ⅳb) ●1117(す-32/Ⅳb) ●1120(す-32/Ⅳb) ●1125(す-32/Ⅳb) ●1126(す-32/Ⅳb) ●1127(す-32/Ⅳb) ●1141(す-32/Ⅳb) ●1155(す-31/Ⅴa) ●1167(し-32/Ⅴa) ●1195(す-32/Ⅴa) ●1301(す-32/Ⅴa) ●1303(す-32/Ⅳb) ◎30985(さ-35/Ⅳ) ◎35577(せ-33/Ⅳ) ◎35578(せ-33/Ⅳ) ◎36961(せ-33/Ⅴ) ◎37029(す-33/Ⅴ) ◎37332(す-33/Ⅴ) ◎37333(す-33/Ⅴ) ◎37334(す-33/Ⅴ) ◎37357(せ-33/Ⅴ) ◎37363(す-33/Ⅴ) ◎37364(す-33/Ⅴ)	Ⅰ類	ナデ,沈線	ナデ,沈線	

については口縁部が平口縁を呈するが，おそらく２対２組の４ヶ所の突起を持つと思われる。口唇部は貝殻による刻目を有する。

Ⅲ－２類(第63～67図，第16～17表)

広義には深浦式土器の範疇として捉えられる土器群である。

Ⅲ－１類とは，内面調整手法の差異，胎土の構成，若干の分布域の異なりから分離した。

器形は外反気味の深鉢，キャリパー形を呈する。また口縁部は波状口縁を持ち，直口のものもある。口径15cn弱，器高10cm強を測る小型の鉢がある。外面には刻みをもつ突帯が巡らされており，モチーフとしては口縁部形態に影響される波状と横位の直線，区画を意識した縦位の直線により構成される。また137は口縁頂部に対応した縦位の区画が交互の斜位によってジグザグに垂下している。内面調整については貝殻による条痕を基本とするものの，濡らした獣皮または布状のものを使用し，ていねいなナデを施す手法が観察できる。これは瀬戸内系の土器と考えられる船元式土器を伴う文化圏との接触が想定できる。このことから時間的ないし主体的分布地域の差異がⅢ－１類との間に存在することを勘案して別類とした。小型の鉢については133の孔は補修孔ではなく，焼成前に形成されており，文様としての意匠が反映されている可能性がある。

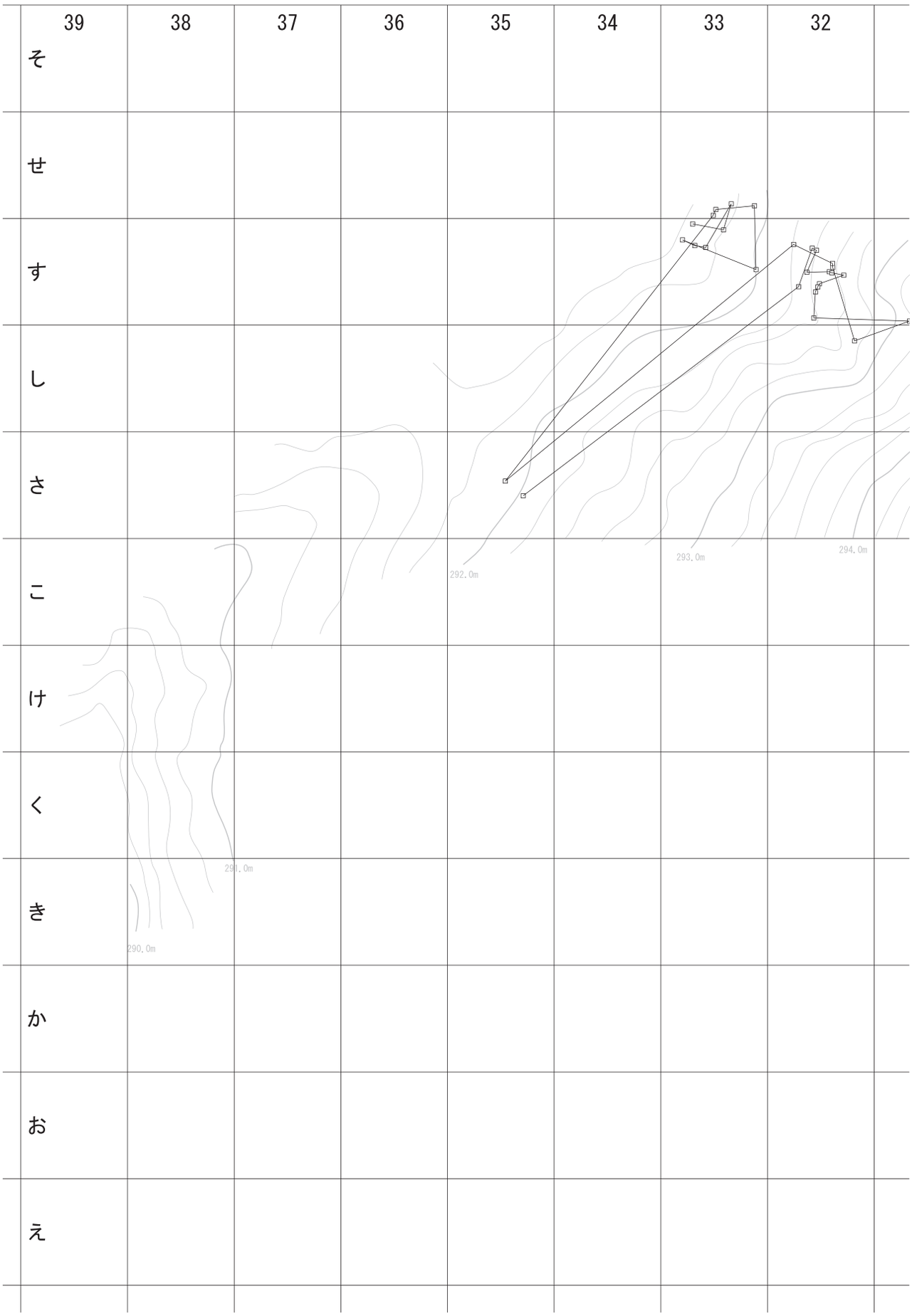
胎土については，Ⅲ－１類と比較して混和材に角閃石を多用している点が指摘できる。色調においても若干黒色の雰囲気が強く，堅密で重い印象を受ける。

Ⅳ類(第50～62図，第13～16表)

Ⅳ－１類(第50～55図，第13～14表)

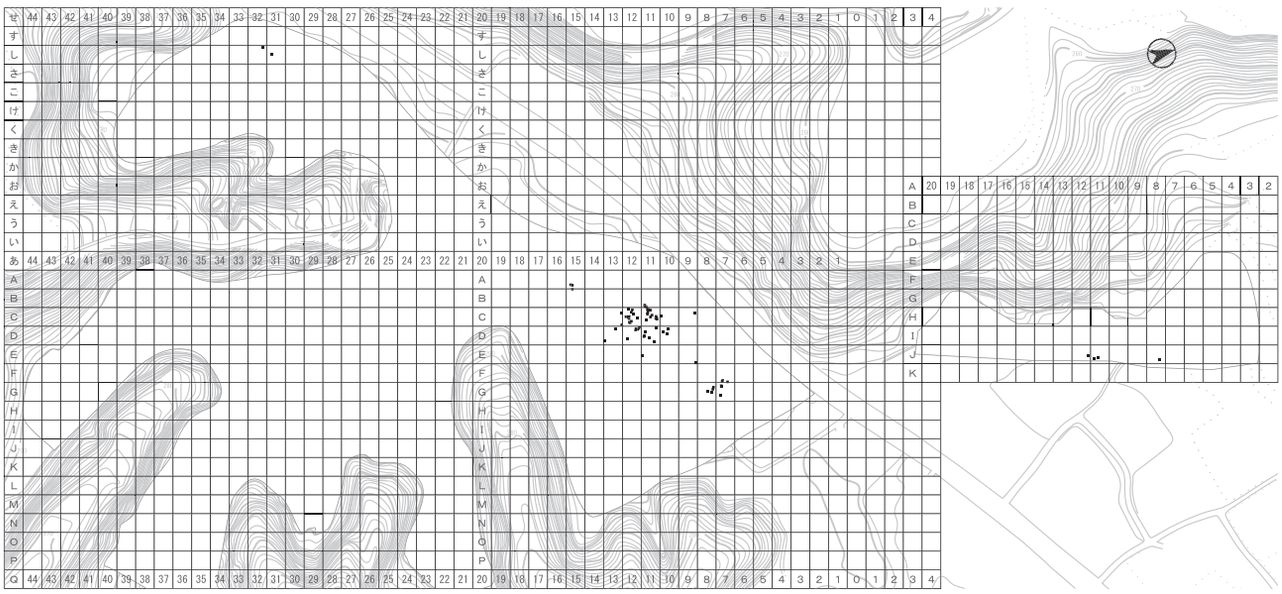
いわゆる船元式土器に分類できる土器群である。当該期において主体的とは言えないまでも，ある程度のまとまった資料が確認できる。

器形は外反するものと，屈曲をともなう強い内湾をもつ

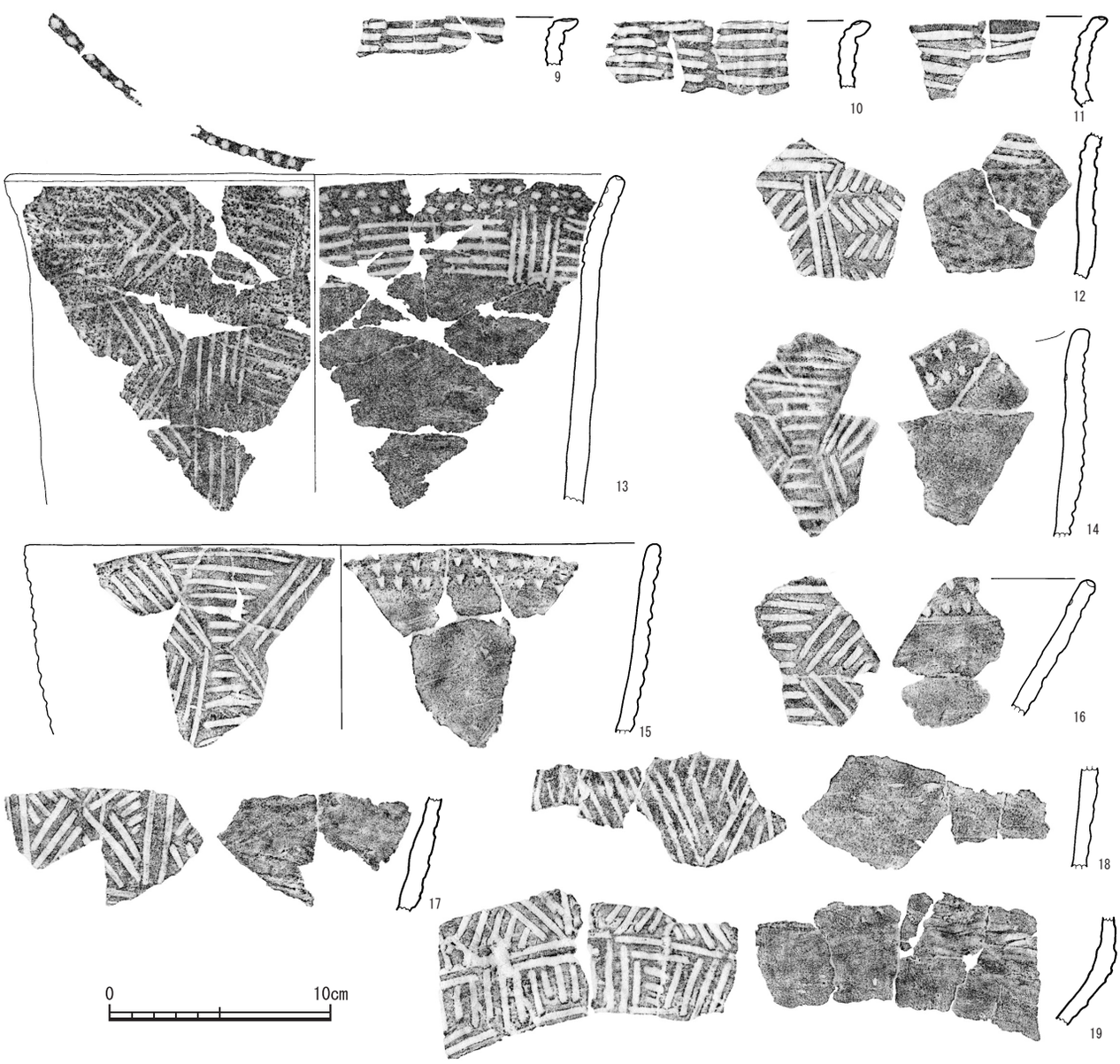


第36図　前中期土器分布図（３）

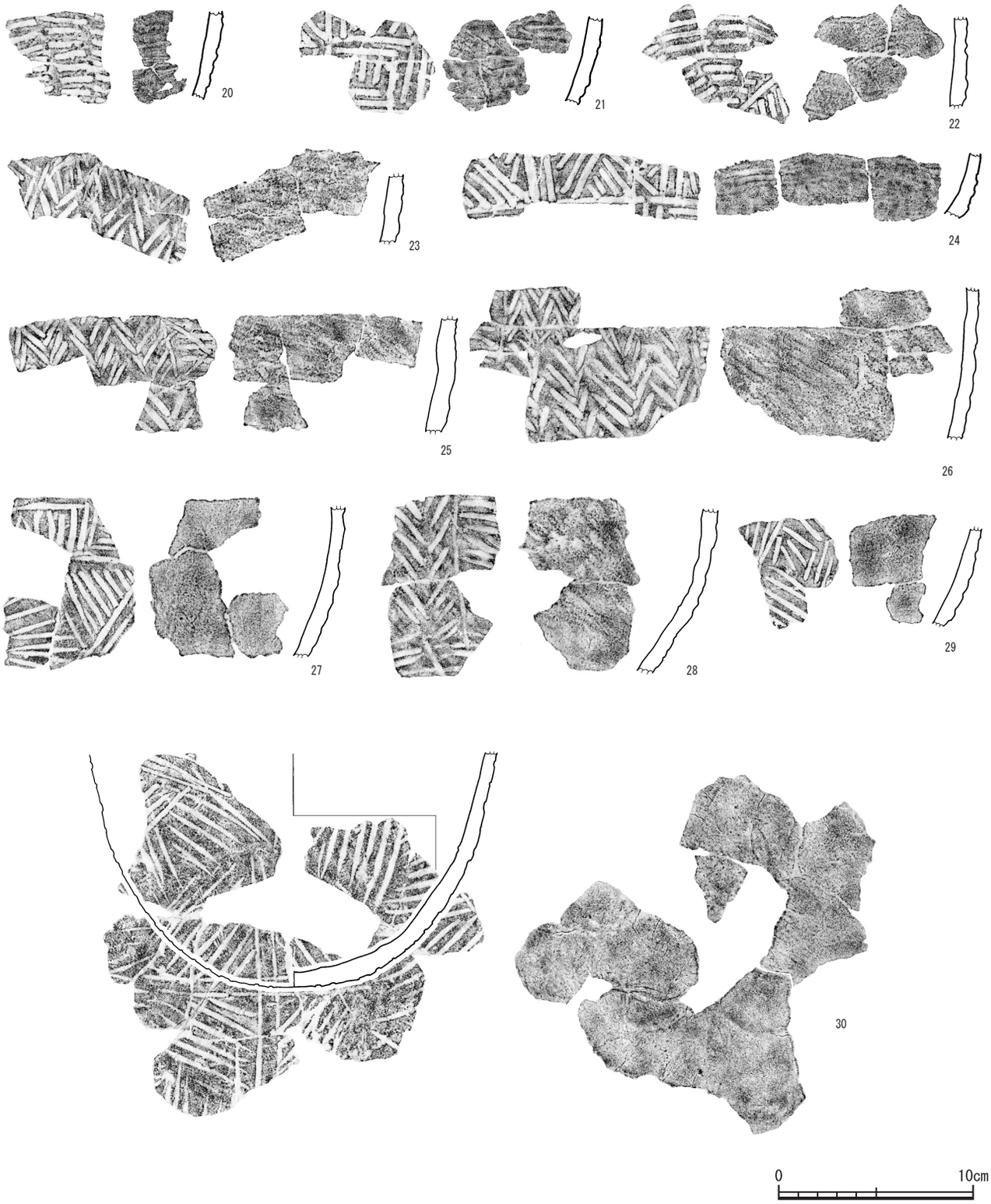
31	30	29	28	27	26	25	24	23



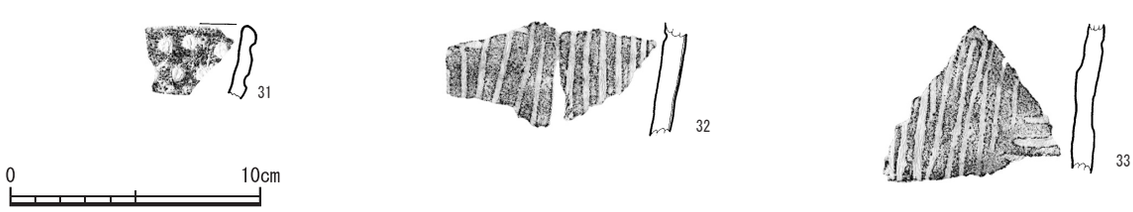
第37図　前中期土器分布図（４）



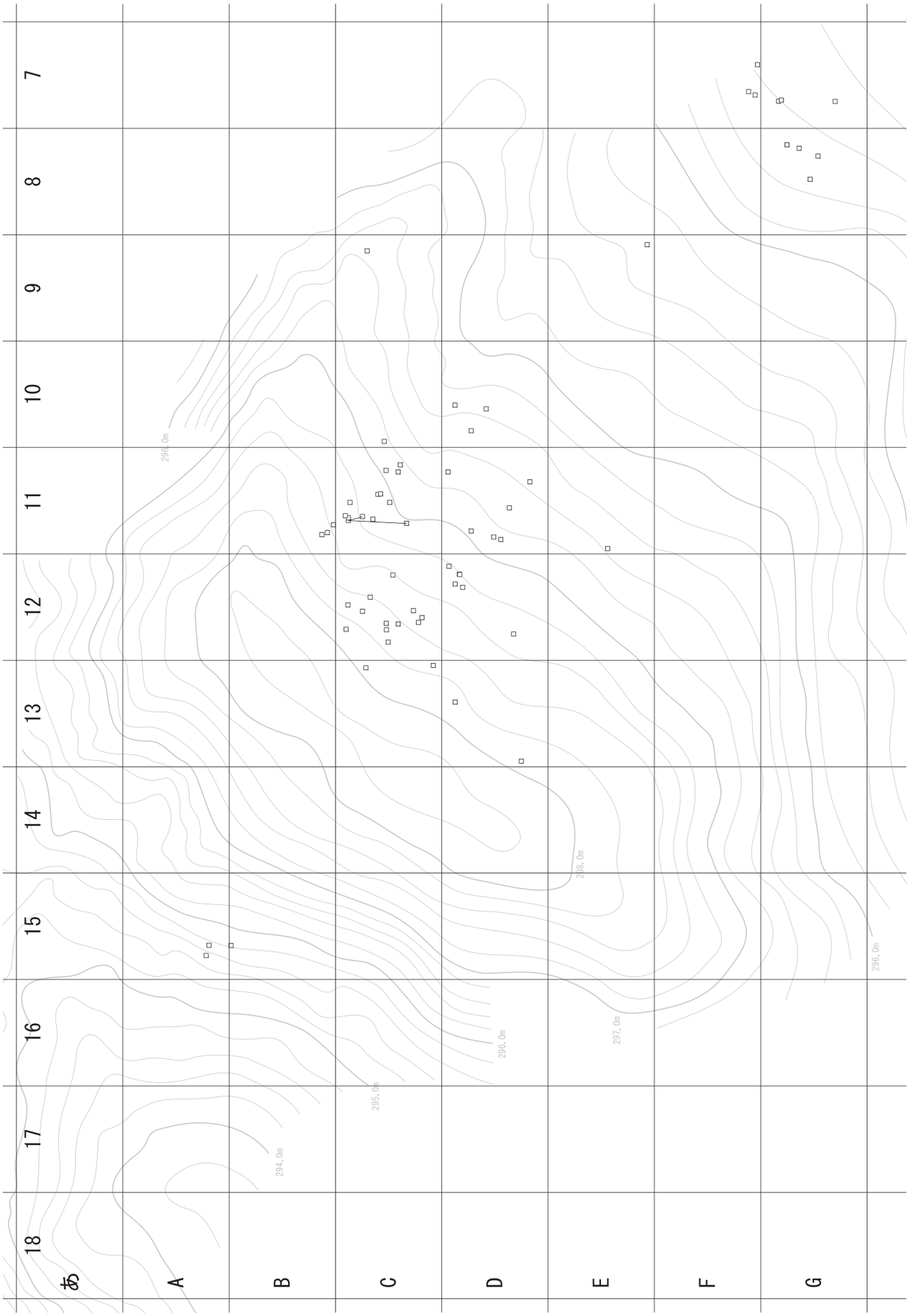
第38図　Ⅴ層遺物実測図（３）



第39図　Ⅴ層遺物実測図（４）



第40図　Ⅴ層遺物実測図（５）



第41図　前中期土器分布図（５）

第８表　前中期土器観察表（３）

挿図No	図No	取上No(出土区/層位)	分類	調整(内)	調整(外)	備考
38	9	○10443(C-12/Ⅴ下) ○21179(C-12/Ⅴ下)	Ⅱ類	ナデ,沈線	ナデ,沈線	
38	10	○4892(C-12/Ⅳ) ○7270(D-11/Ⅴ上) ○32776(D-12/Ⅴ下)	Ⅱ類	ナデ,沈線	ナデ,沈線	
38	11	○10374(C-12/Ⅴ下) ○35351(D-11/Ⅴ)	Ⅱ類	ナデ,沈線	ナデ,沈線	
38	12	○24060(C-12/Ⅴ下) ○28274(D-10/Ⅴ上)	Ⅱ類	ナデ,沈線	ナデ,沈線	
38	13	◎41228(し-36/Ⅴ) ◎41469(し-31/Ⅴ) ◎41937(し-32/Ⅳ)	Ⅱ類	ナデ,沈線,刺突	ナデ,沈線	AMS PLD-3002
38	14	○15782(D-11/Ⅴ下) ○24305(C-11/Ⅴ下)	Ⅱ類	ナデ,沈線,刺突	ナデ,沈線	
38	15	○14354(C-11/Ⅴ下) ○27361(C-11/Ⅴ下) ○33110(C-11/Ⅴ下)	Ⅱ類	ナデ,沈線,刺突	ナデ,沈線	
38	16	○30191(D-10/Ⅴ下) ○35983(B-11/Ⅴa)	Ⅱ類	ナデ,沈線,刺突	ナデ,沈線	
38	17	○23566(C-13/Ⅴ下) ○45352(D-13/Ⅴ)	Ⅱ類	ナデ	ナデ,沈線	
38	18	○46470(A-15/Ⅴ) ○46568(B-15/Ⅴ) ○49042(A-15/Ⅴa)	Ⅱ類	ナデ	ナデ,沈線	
38	19	○5097(D-11/Ⅳ) ○26102(D-13/Ⅴ下) ○42822(C-13/Ⅴ)	Ⅱ類	ナデ	ナデ,沈線	
39	20	○33477(D-12/Ⅴ下) ○34082(D-12/Ⅴa下)	Ⅱ類	ナデ	ナデ,沈線	
39	21	○7968(C-12/Ⅴ上) ○11977(C-12/Ⅴ上) ○17173(D-12/Ⅴ下) ○34977(C-12/Ⅴ)	Ⅱ類	ナデ	ナデ,沈線	

第９表　前中期土器観察表（４）

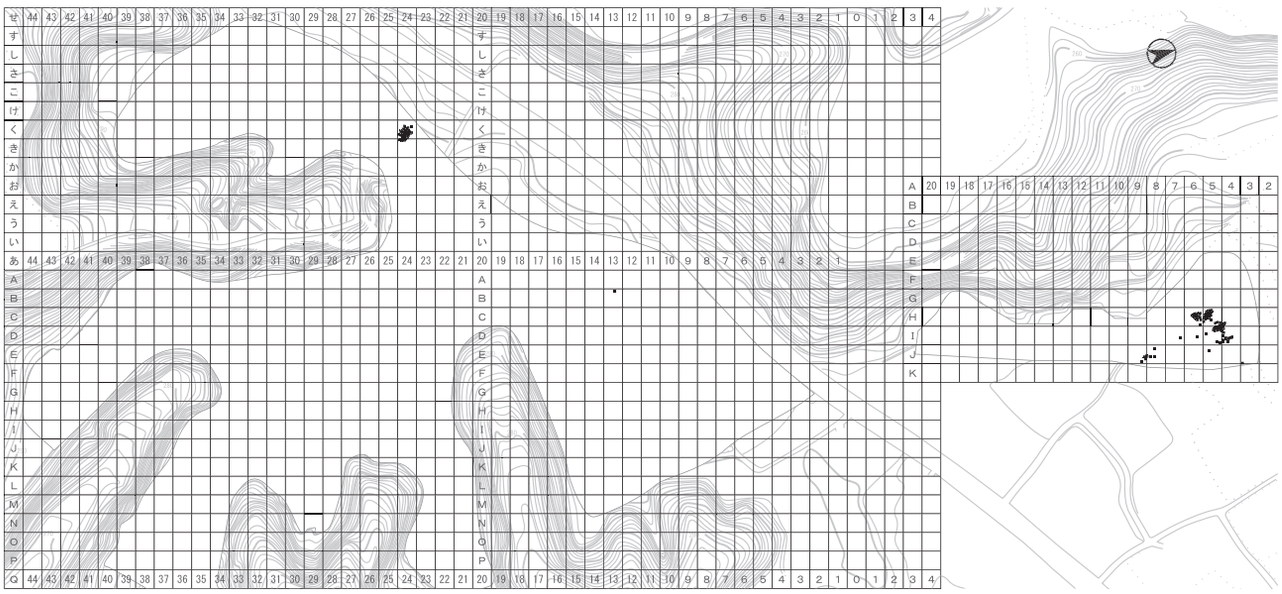
挿図No	図No	取上No(出土区/層位)	分類	調整(内)	調整(外)	備考
39	22	○12332(D-11/Ⅴ下) ○13002(D-12/Ⅴ下) ○17586(C-12/Ⅴ下) ○20938(C-12/Ⅴ下)	Ⅱ類	ナデ	ナデ,沈線	
39	23	○31236(E-9/Ⅴa上) ○58322(F-7/Ⅳ)	Ⅱ類	ナデ	ナデ,沈線	
39	24	○7818(C-12/Ⅴ上) ○21086(C-12/Ⅴ下) ○26031(D-12/Ⅴ下)	Ⅱ類	ナデ	ナデ,沈線	
39	25	○58326(F-7/Ⅴ) ○58339(G-7/Ⅴa) ○58340(G-7/Ⅴb)	Ⅱ類	ナデ	ナデ,沈線	
39	26	○57900(G-8/Ⅴ) ○57903(G-8/Ⅴ) ○57905(G-8/Ⅴ) ○57923(G-8/Ⅴ)	Ⅱ類	ナデ	ナデ,沈線	
39	27	○10517(C-11/Ⅴ下) ○14388(E-11/Ⅲb) ○16868(D-11/Ⅴ下)	Ⅱ類	ナデ	ナデ,沈線	
39	28	○58336(F-7/Ⅴa) ○58364(G-7/Ⅴa)	Ⅱ類	ナデ	ナデ,沈線	
39	29	○8173(C-11/Ⅴ下) ○35350(C-11/Ⅴ)	Ⅱ類	ナデ	ナデ,沈線	
39	30	○3303(C-11/Ⅲb) ○10516(C-11/Ⅴ下) ○11559(B-11/Ⅴ上) ○14269(C-11/Ⅴ下) ○21324(D-10/Ⅳ) ○21644(C-10/Ⅴ上) ○27362(C-11/Ⅴ下) ○27365(C-11/Ⅴ下) ○27367(C-11/Ⅴ下) ○35985(B-11/Ⅴa) ○39112(C-9/Ⅴ)	Ⅱ類	ナデ	ナデ,沈線	

キャリパー形を基本としている。口縁部は強い波状を呈するものがみられ，平口縁にちかい緩やかな波状口縁をもつものもある。外面はナデを基本にして全面に縄文原体を回転施文する手法を用いる。内面はケズリの後ナデによって行うものや獣皮内側を使用したと思われるていねいなナデがみられる。外面口縁部付近における貼付突帯は縦位，横位，斜行，波状を組み合わせて構成している。内面については口唇部と同じ手法を用いることが多く，59，62，63のように若干の肥厚させた口縁部内面に縄文施文を行うものや，64，68のように密接する貝殻刺突を行い，連続する爪形を帯状にする手法もみられる。また76のように１対の突起部をもつ小型鉢もみられ，胴部のみにゆるい撚りの縄文原体を施文している。

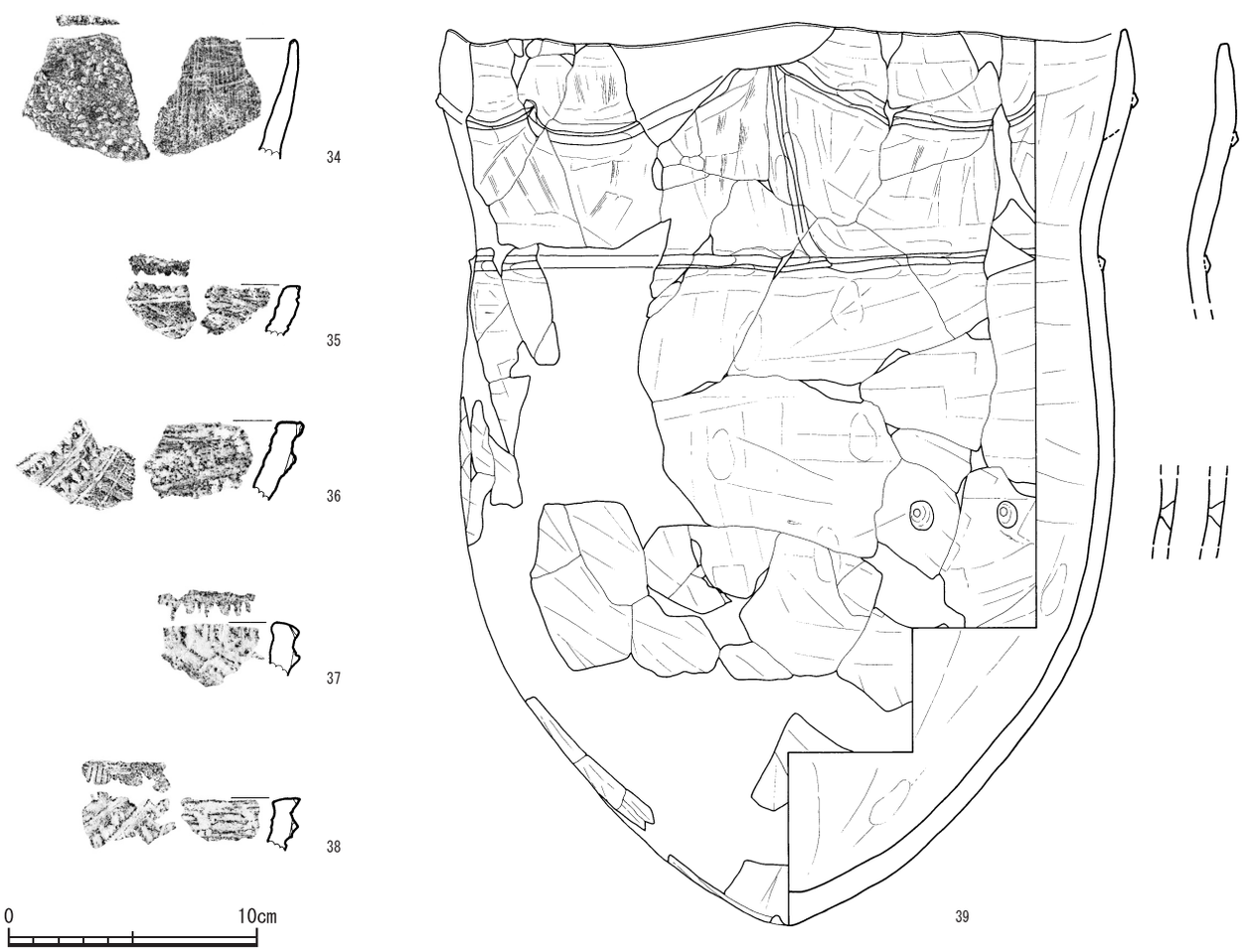
Ⅳ－２類(第56～62図，第14～15表)

外面に縄文施文を行うものの船元系の土器とは若干異なる手法を用いる土器群とした。

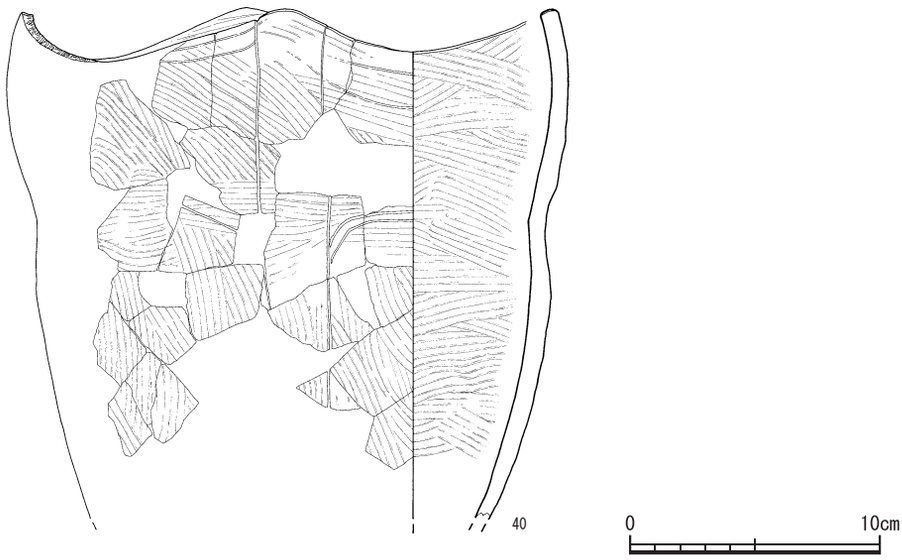
器形についてはⅣ－１類を踏襲するが，内面調整はケズリのみにとどめるもの，貝殻による条痕を残すものがみられる。外面の突帯については貝殻等による刻みは行わず，122，123のように貝殻の背面を押圧するもの，120のように腹縁部を刺突するもの，119，121のように外面の基本施文である縄文施文が平坦な突帯を貼り付けた後に行われるものもみられる。なお125については緩やかなキャリパー状の器形に一見貝殻による条痕と錯誤するような非常に撚りのゆるい縄文原体を回転施文している。



第42図　前中期土器分布図（６）

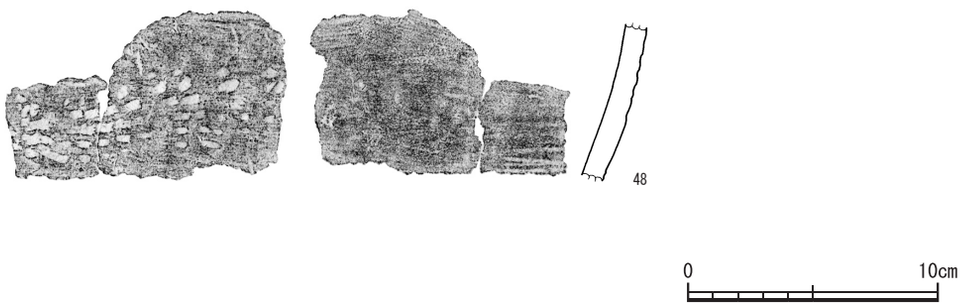


第43図　Ⅴ層遺物実測図（６）



第44図　Ⅴ層遺物実測図（７）

第45図　Ⅴ層遺物実測図（８）



第46図　Ⅴ層遺物実測図（９）

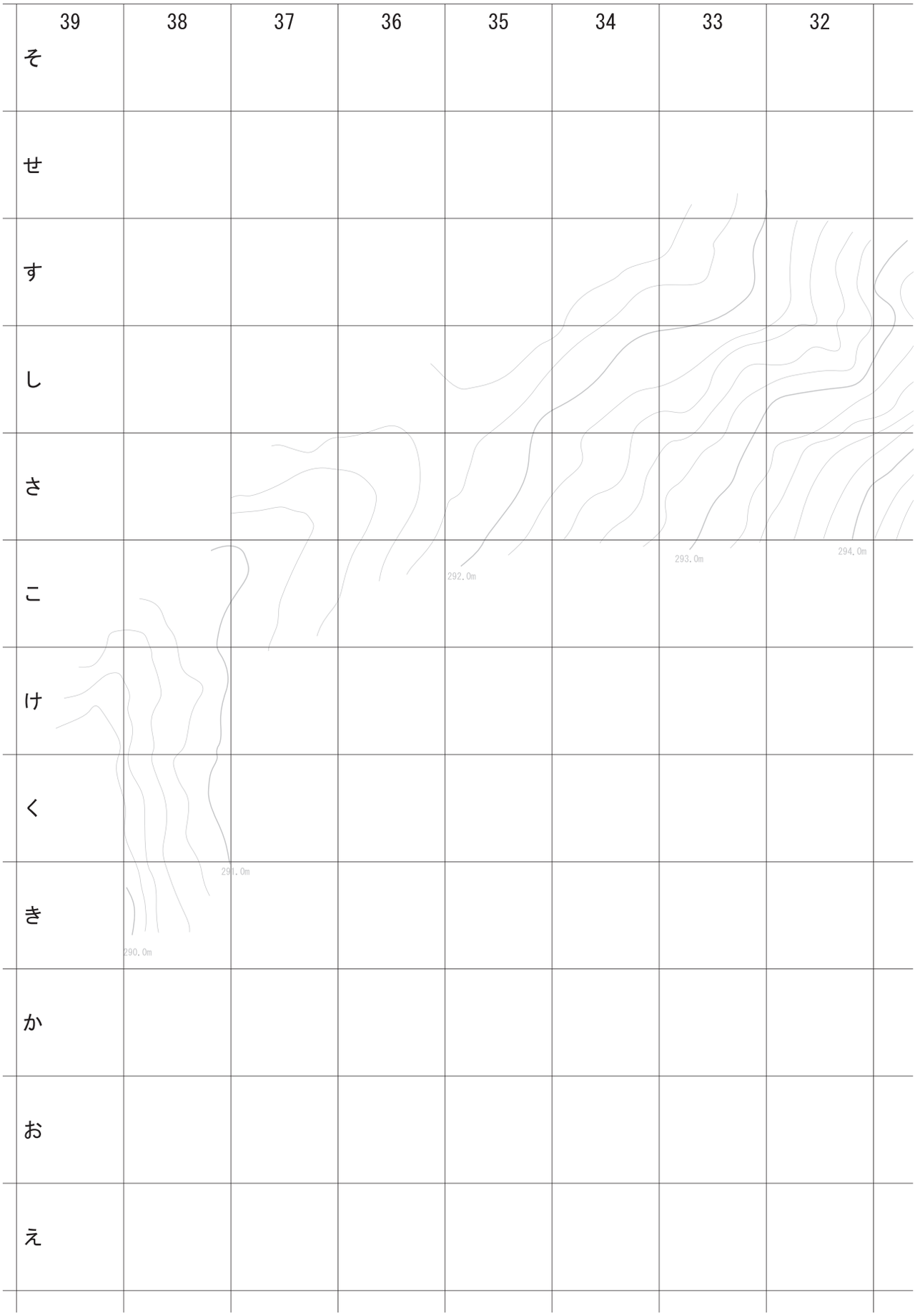
第47図　Ⅴ層遺物実測図（10）

第10表　前中期土器観察表（５）

挿図No	図No	取上No(出土区/層位)	分類	調整(内)	調整(外)	備考
40	31	▲508(J-8/Ⅲb)	Ⅱ類	ナデ	ナデ刺突	
40	32	▲10861(J-11/Ⅳa) ▲10882(J-11/Ⅳa)	Ⅱ類	ナデ	ナデ,沈線	
40	33	▲10870(J-12/Ⅳa)	Ⅱ類	ナデ	ナデ,沈線	
43	34	▲7208(I-7/Ⅴa)	Ⅲ-1類	貝殻条痕のちナデ	ナデ押引	
43	35	▲15071(J-9/Ⅳ)	Ⅲ-1類	貝殻条痕のちナデ	貝殻条痕刺突	
43	36	▲15073(J-9/Ⅴa)	Ⅲ-1類	貝殻条痕のちナデ	貝殻条痕,刺突, 貼付突帯,沈線	
43	37	▲5575(J-8/Ⅴa)	Ⅲ-1類	貝殻条痕のちナデ	貝殻条痕,刺突, 貼付突帯,沈線	
43	38	▲1734(J-8/Ⅳ)	Ⅲ-1類	貝殻条痕のちナデ	貝殻条痕,刺突, 貼付突帯,沈線	
43	39	▲782(I-6/Ⅲb) ▲1300(I-5/Ⅲb) ▲1357(I-4/Ⅲb) ▲5329(I-4/Ⅳ) ▲5333(H-4/Ⅳ) ▲5356(I-5/Ⅳ) ▲5806(H-5/Ⅴa) ▲5848(H-5/Ⅳ) ▲5850(H-5/Ⅴa) ▲6144(H-4/Ⅴa下) ▲6154(H-4/Ⅵ横転) ▲6159(H-4/Ⅴa) ▲6160(H-4/Ⅴa上) ▲6181(H-5/Ⅴa) ▲6182(H-5/Ⅴa) ▲6191(I-5/Ⅴa) ▲6193(I-5/Ⅴa) ▲6196(I-5/Ⅴa) ▲6197(I-5/Ⅴa) ▲6199(I-5/Ⅴa) ▲6207(I-5/Ⅴa上) ▲6209(I-5/Ⅴa) ▲6210(I-5/Ⅴa上) ▲6213(I-5/Ⅴa上) ▲6218(I-5/Ⅴa) ▲6221(I-5/Ⅴa上) ▲6222(I-5/Ⅴa上) ▲6226(I-5/Ⅴa) ▲6231(I-5/Ⅴa) ▲6280(I-4/Ⅴa) ▲6289(I-4/Ⅴa) ▲6290(I-4/Ⅴa上) ▲6291(I-4/Ⅴa) ▲6292(I-4/Ⅴa) ▲6297(I-4/Ⅴa上) ▲6501(I-4/Ⅴa) ▲6502(I-4/Ⅴa上) ▲6503(I-4/Ⅴa上) ▲6504(I-4/Ⅴa上) ▲6505(I-4/Ⅴa) ▲6514(I-4/Ⅴa) ▲6538(I-4/Ⅴa) ▲6539(I-4/Ⅴa) ▲6540(I-4/Ⅴa) ▲6542(I-5/Ⅴa) ▲6543(I-5/Ⅴa) ▲6547(I-5/Ⅴa) ▲6548(I-5/Ⅴa) ▲7311(J-5/Ⅴa) ▲7568(I-5/Ⅴa) ▲7581(I-4/Ⅴa上) ▲7594(I-4/Ⅴa) ▲7599(I-5/Ⅴa) ▲7600(I-5/Ⅴa) ▲7601(I-5/Ⅴa) ▲7602(I-5/Ⅴa) ▲7603(I-5/Ⅴa) ▲7605(I-5/Ⅴa) ▲7614(I-5/Ⅴa) ▲7634(I-4/Ⅴa) ▲7642(H-5/Ⅴa) ▲7658(I-5/Ⅴa上) ▲7660(I-4/Ⅴa) ▲8910(H-4/Ⅴa) ▲8912(H-5/Ⅴ)	Ⅲ-1類	ナデ	ナデ貼付突帯	補修孔
44	40	▲1610(H-6/Ⅳ) ▲7275(H-6/Ⅴa) ▲7278(H-6/Ⅴa) ▲7438(H-6/Ⅴa) ▲7439(H-6/Ⅳ下) ▲7441(H-6/Ⅴa) ▲7445(H-6/Ⅴa) ▲7466(H-6/Ⅴa) ▲7467(H-6/Ⅴa) ▲7473(H-6/Ⅴa) ▲7474(H-6/Ⅴa) ▲7475(H-6/Ⅴa) ▲7476(H-6/Ⅴa) ▲7477(H-6/Ⅴa) ▲7479(H-6/Ⅴa上) ▲7481(H-6/Ⅴa) ▲7482(H-6/Ⅴa) ▲7483(H-6/Ⅴa) ▲7485(H-6/Ⅴa) ▲7489(H-6/Ⅴa) ▲7490(H-6/Ⅴa) ▲7492(H-6/Ⅴa) ▲7493(H-6/Ⅴa) ▲7494(H-6/Ⅴa) ▲7541(H-6/Ⅴa) ▲7708(-/-) ▲8813(H-6/Ⅴa) ▲8814(H-6/Ⅴa) ▲9400(H-6/Ⅴ) ▲9405(H-6/Ⅵa)	Ⅲ-1類	貝殻条痕	貝殻条痕沈線	

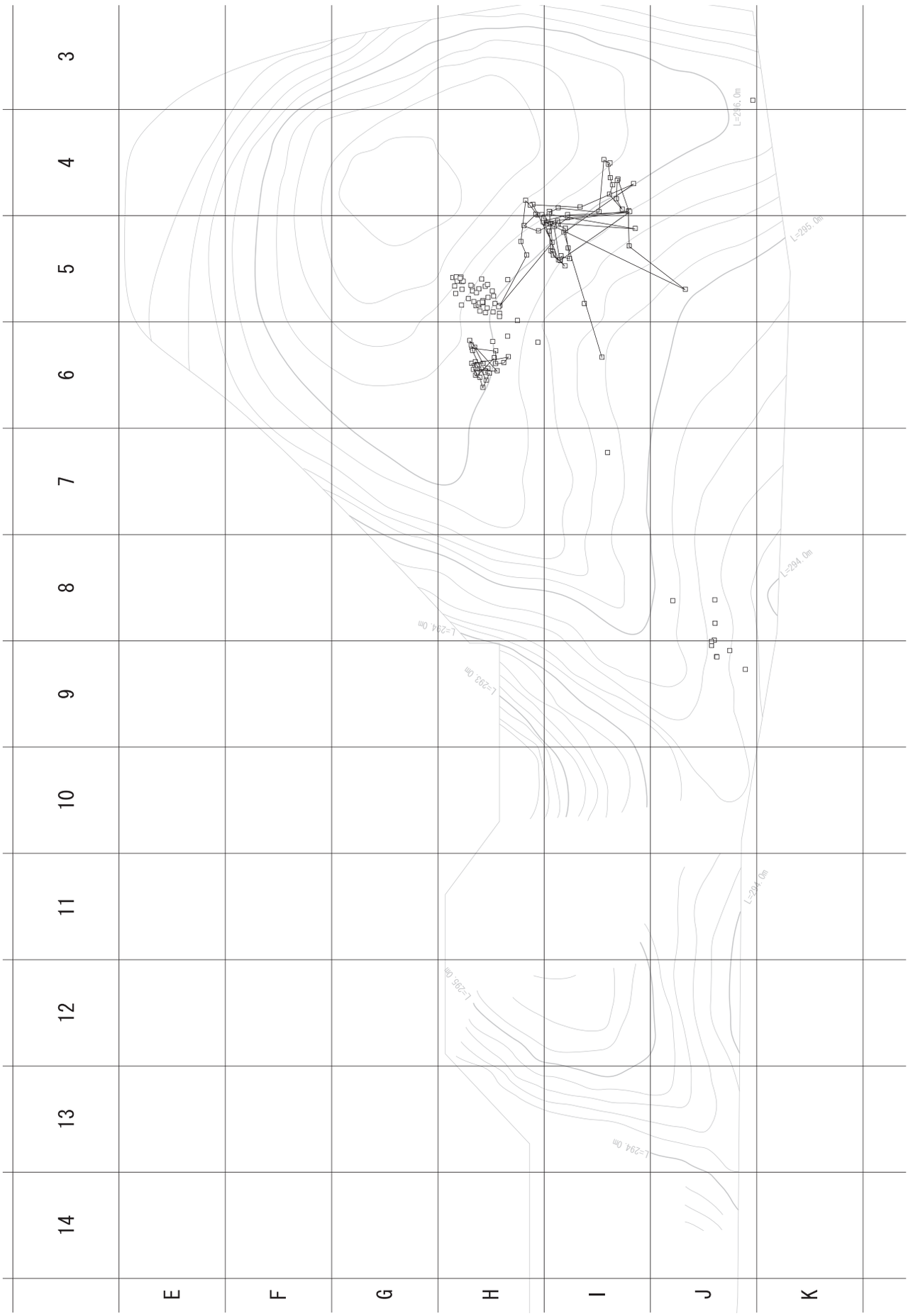
第11表　前中期土器観察表（６）

挿図No	図No	取上No(出土区/層位)	分類	調整(内)	調整(外)	備考
45	41	▲1747(J-9/Ⅴa)	Ⅲ-1類	貝殻条痕	貝殻条痕,刺突, 貼付突帯,沈線	
45	42	▲1743(J-9/Ⅴa)	Ⅲ-1類	貝殻条痕	貝殻条痕,貼付突帯	
45	43	▲1740(J-8/Ⅴa) ▲5573(J-9/Ⅴa)	Ⅲ-1類	貝殻条痕	貝殻条痕,貼付突帯	
45	44	▲6560(J-3/Ⅴa)	Ⅲ-1類	貝殻条痕のちナデ	ナデ押引	
45	45	▲15072(J-9/Ⅴa)	Ⅲ-1類	貝殻条痕のちナデ	貝殻条痕,刺突	
45	46	▲1702(J-8/Ⅳ) ▲7617(I-5/Ⅴa)	Ⅲ-1類	貝殻条痕のちナデ	貝殻条痕,刺突	
45	47	▲1567(H-6/Ⅲb) ▲5341(H-5/Ⅴa) ▲5342(H-5/Ⅴa) ▲5343(H-5/Ⅴa) ▲5344(H-5/Ⅴa) ▲5345(H-5/Ⅴa) ▲5347(H-5/Ⅴa) ▲5350(H-5/Ⅴa) ▲5359(H-5/Ⅳ) ▲5721(H-5/Ⅴa) ▲5723(H-5/Ⅴa) ▲5724(H-5/Ⅴa) ▲5729(H-5/Ⅴa) ▲5730(H-5/Ⅴa) ▲5741(H-5/Ⅳ) ▲5750(H-5/Ⅴa) ▲5751(H-5/Ⅴa) ▲5768(H-5/Ⅳ) ▲5770(H-5/Ⅴa) ▲5775(H-5/Ⅴa) ▲5782(H-5/Ⅴa) ▲5783(H-5/Ⅴa) ▲5784(H-5/Ⅴa) ▲5788(H-5/Ⅴa上) ▲5789(H-5/Ⅴa) ▲5790(H-5/Ⅴa) ▲5792(H-5/Ⅴa) ▲5798(H-5/Ⅴa) ▲5799(H-5/Ⅴa上) ▲5800(H-5/Ⅴa上) ▲5802(H-5/Ⅳ) ▲5804(H-5/Ⅳ) ▲5805(H-5/Ⅴa) ▲5808(H-5/Ⅴa) ▲5809(H-5/Ⅴa) ▲5828(H-5/Ⅴa) ▲5829(H-5/Ⅴa) ▲5834(H-5/Ⅴa) ▲5837(H-5/Ⅳ) ▲6186(H-5/Ⅴa) ▲6187(H-5/Ⅴa) ▲6188(H-5/Ⅴa) ▲6279(H-5/Ⅴa下) ▲7447(H-6/Ⅴa) ▲7545(H-6/Ⅲb樹根) ▲8807(H-5/Ⅳ)	Ⅲ-1類	貝殻条痕のちナデ	貝殻条痕のちナデ	
46	48	○45688(B-13/Ⅴ) ○45689(B-13/Ⅴ)	Ⅲ-1類	貝殻条痕のちナデ	貝殻条痕のちナデ,押引	

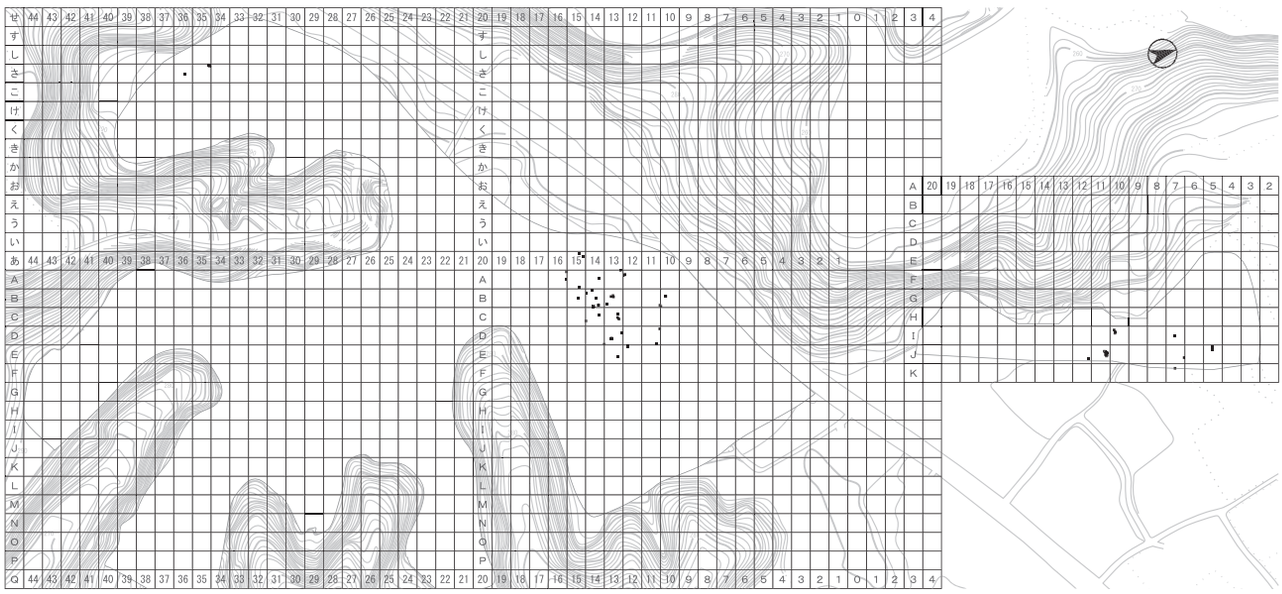


第48図　前中期土器分布図（７）

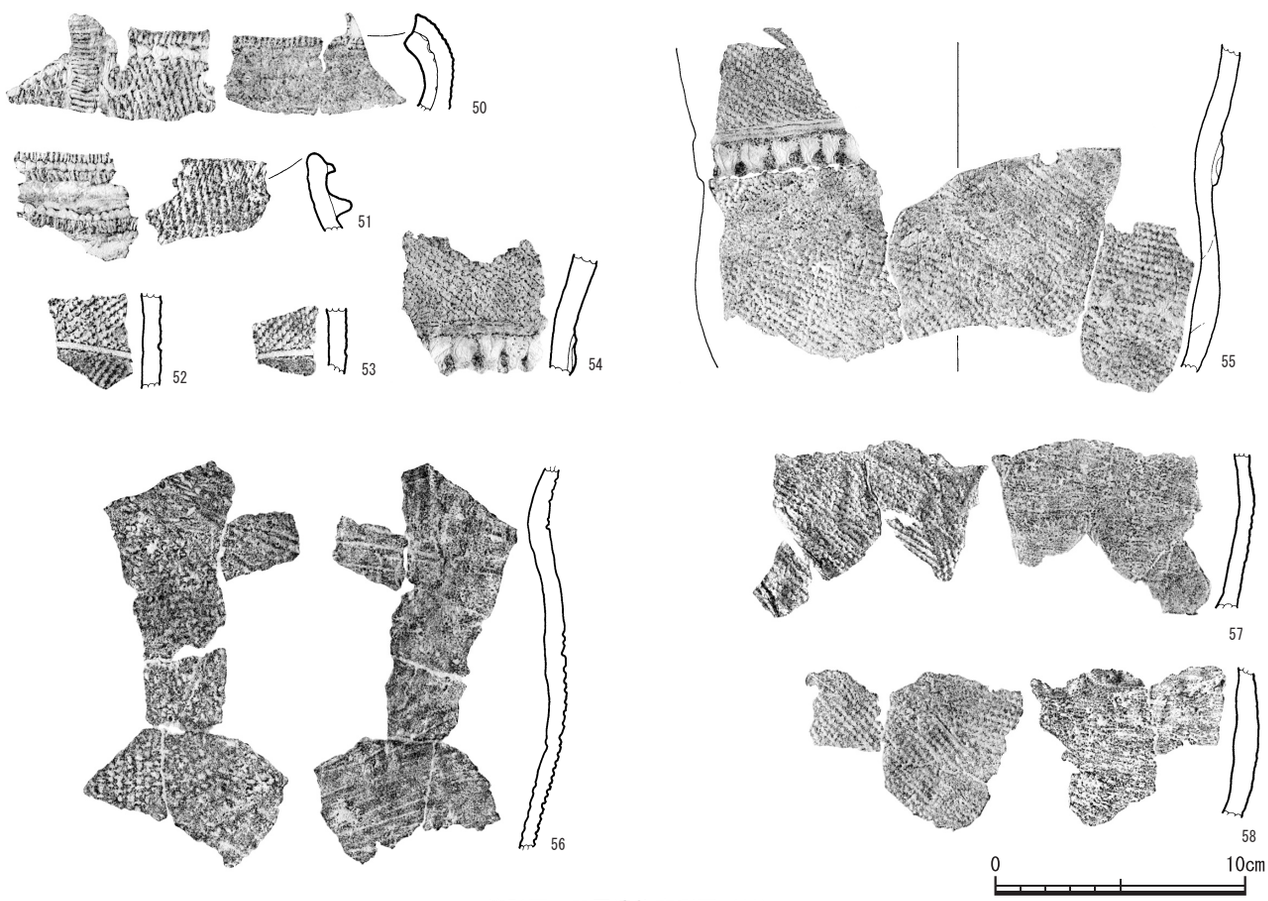
31	30	29	28	27	26	25	24	23



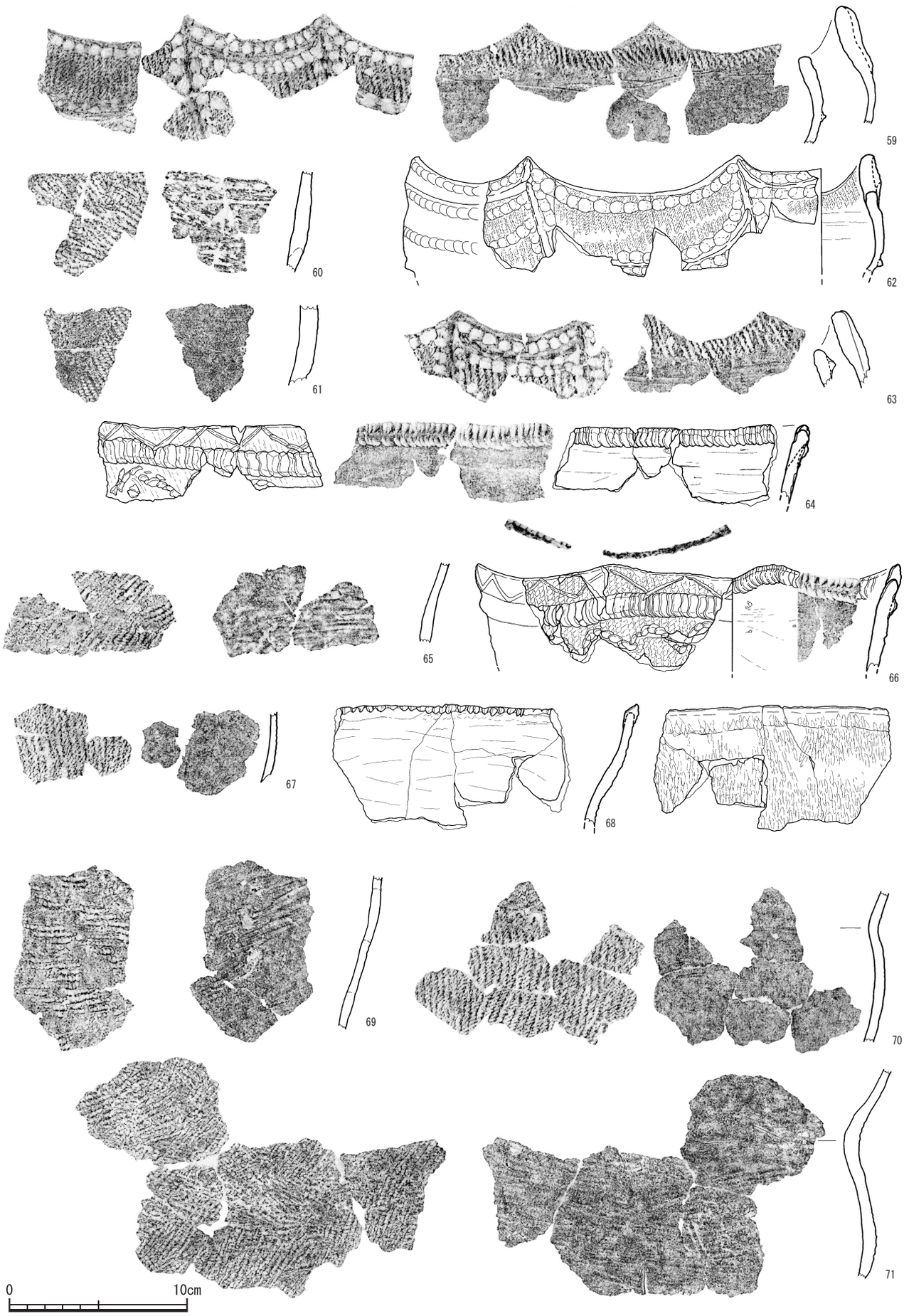
第49図　前中期土器分布図（８）



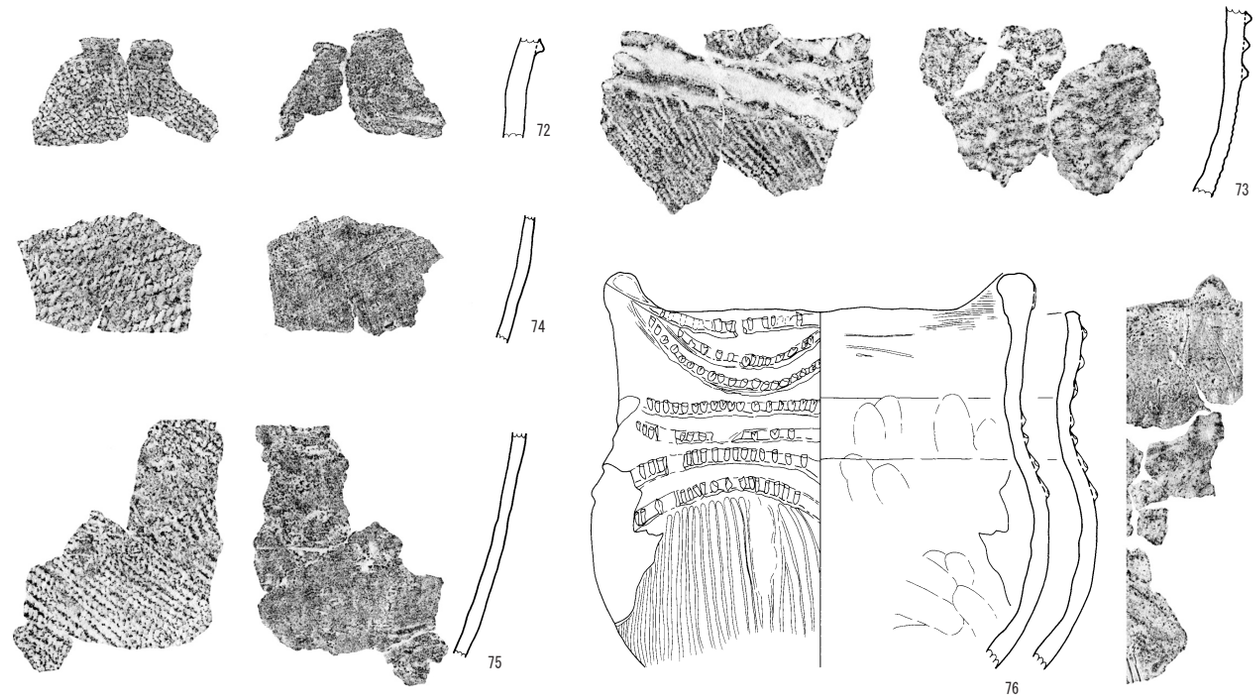
第50図　前中期土器分布図（９）



第51図　Ⅴ層遺物実測図（11）



第52図　Ⅴ層遺物実測図（12）



0　　10cm

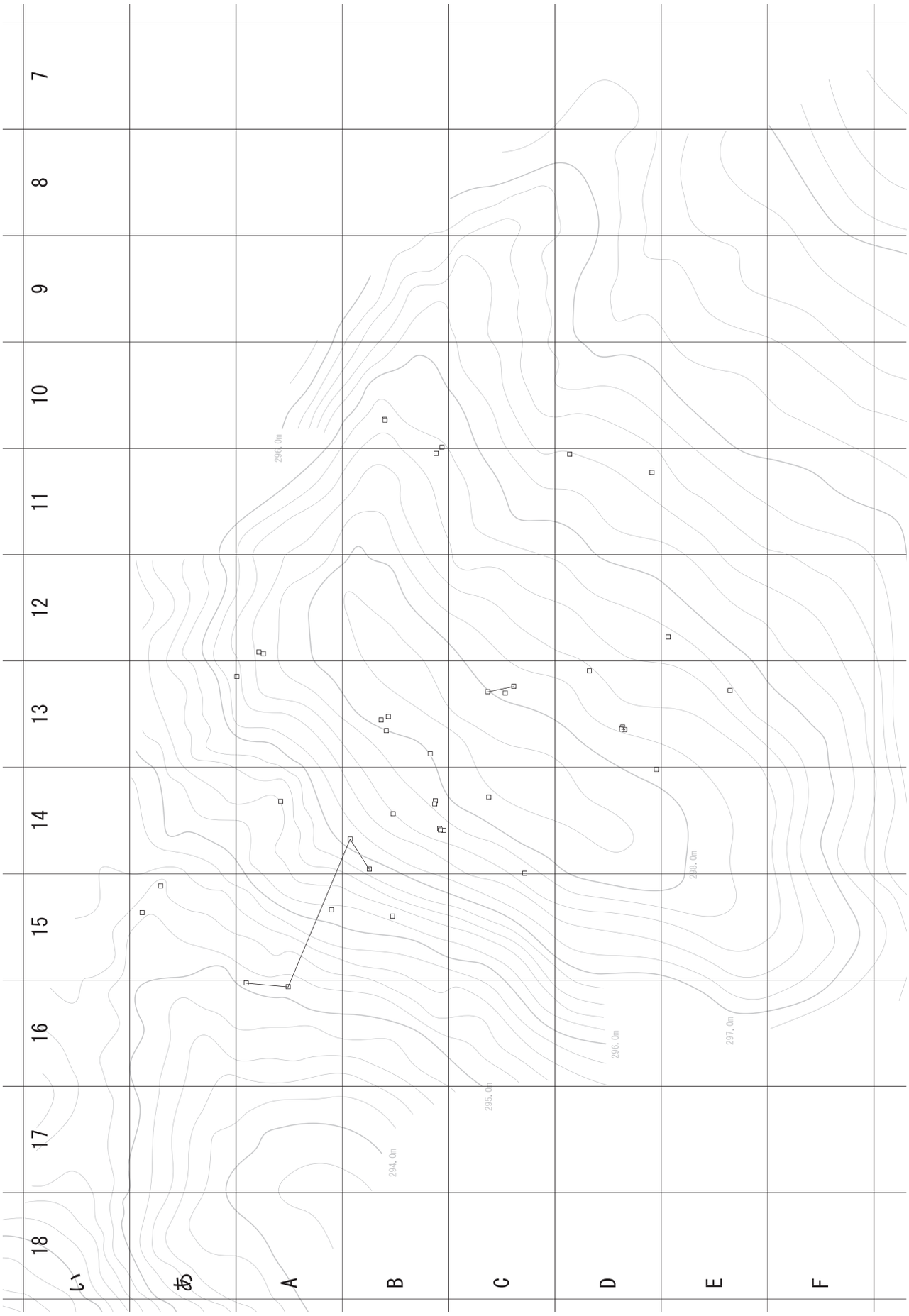
第53図　Ⅴ層遺物実測図（13）

第12表　前中期土器観察表（７）

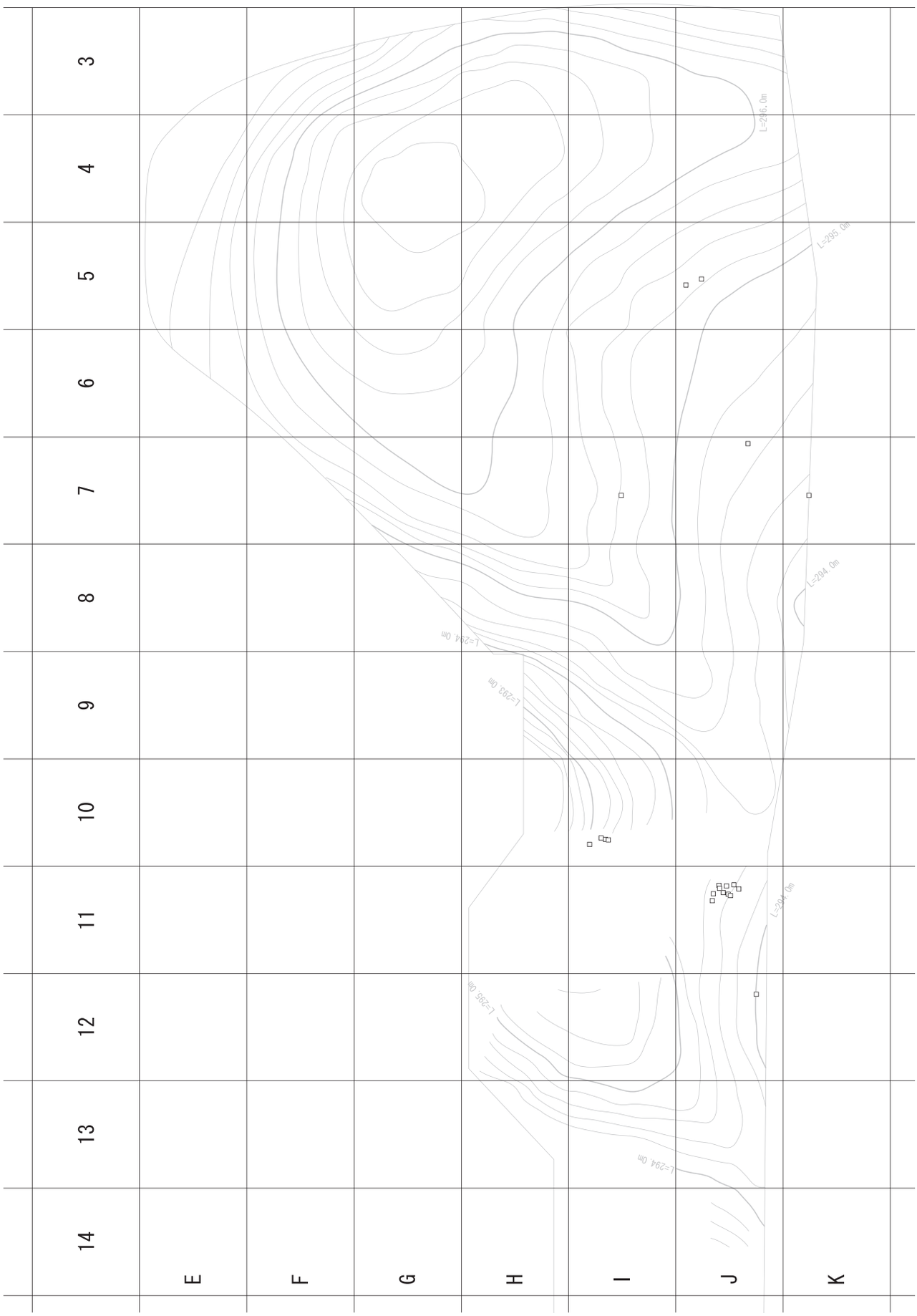
挿図No	図No	取上No(出土区/層位)	分類	調整(内)	調整(外)	備考
47	49	●1489(く-24/Ⅳ) ●1490(く-24/Ⅳ) ●1492(く-24/Ⅳ) ●1493(く-24/Ⅳ) ●1494(く-24/Ⅳ) ●1495(く-24/Ⅳ) ●1497(く-24/Ⅳ) ●1499(く-24/Ⅳ) ●1501(く-24/Ⅳ) ●1502(く-24/Ⅳ) ●1505(く-24/Ⅳ) ●1507(く-24/Ⅳ) ●1508(く-24/Ⅳ) ●1509(く-24/Ⅳ) ●1510(く-24/Ⅳ) ●1512(く-24/Ⅳ) ●1513(く-24/Ⅳ) ●1514(く-24/Ⅳ) ●8648(き-24/Ⅴ) ●8649(く-24/Ⅳ) ●8650(き-24/Ⅳ) ●8653(き-24/Ⅳ) ●8654(き-24/Ⅳ) ●8655(き-24/Ⅳ) ●8656(き-24/Ⅳ) ●8657(き-24/Ⅴ) ●8658(き-24/Ⅳ) ●8660(き-24/Ⅳ) ●8662(き-24/Ⅳ) ●8665(き-24/Ⅳ) ●8666(き-24/Ⅳ) ●8667(き-24/Ⅳ) ●8669(き-24/Ⅳ) ●8670(き-24/Ⅳ) ●8671(き-24/Ⅳ) ●8672(き-24/Ⅳ) ●8674(き-24/Ⅳ) ●8678(き-24/Ⅳ) ●8679(き-24/Ⅳ) ●8681(き-24/Ⅳ) ●8682(き-24/Ⅳ) ●8684(き-24/Ⅳ) ●8685(き-24/Ⅳ) ●8686(き-24/Ⅳ) ●8688(き-24/Ⅳ) ●8690(き-24/Ⅳ) ●8692(き-24/Ⅳ) ●8693(き-24/Ⅳ) ●8694(き-24/Ⅳ) ●9065(き-24/Ⅴ) ●9066(き-24/Ⅴ) ●9069(く-24/Ⅴ) ●9073(く-24/Ⅴ) ●9074(く-24/Ⅳ) ●9076(く-24/Ⅴ) ●9078(く-24/Ⅳ)	Ⅲ-1類	貝殻条痕のちナデ,押引	貝殻条痕のちナデ,押引	

第13表　前中期土器観察表（８）

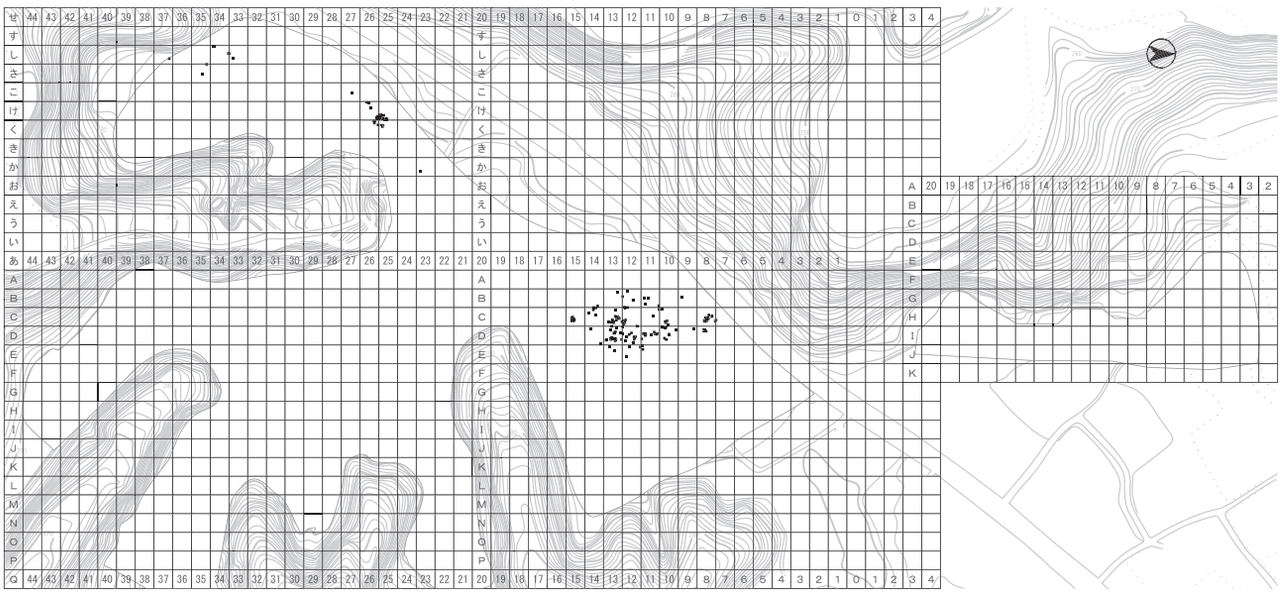
挿図No	図No	取上No(出土区/層位)	分類	調整(内)	調整(外)	備考
51	50	▲5384(J-5/Ⅳ) ▲5387(J-5/Ⅳ)	Ⅳ-1類	ナデ,刺突	縄文施文,貼付突帯	
51	51	▲9380(I-7/Ⅴ横転)	Ⅳ-1類	縄文施文	縄文施文	
51	52	▲2997(J-7/Ⅴa)	Ⅳ-1類	貝殻条痕のちナデ	縄文施文	
51	53	▲2927(K-7/Ⅳ下)	Ⅳ-1類	貝殻条痕のちナデ	縄文施文	
51	54	▲10871(J-12/Ⅳa)	Ⅳ-1類	貝殻条痕のちナデ	縄文施文,貼付突帯,沈線	
51	55	▲10844(J-11/Ⅳa) ▲10853(J-11/Ⅳa) ▲10855(J-11/Ⅳa) ▲10954(J-11/Ⅴa) ▲10958(J-11/Ⅴa)	Ⅳ-1類	貝殻条痕のちナデ	縄文施文,貼付突帯,沈線	
51	56	▲10922(I-10/Ⅴa) ▲10924(I-10/Ⅴa) ▲10925(I-10/Ⅴa) ▲11064(I-10/Ⅵa)	Ⅳ-1類	貝殻条痕のちナデ	縄文施文	
51	57	▲10951(J-11/Ⅴa) ▲10952(J-11/Ⅴa) ▲10956(J-11/Ⅴa)	Ⅳ-1類	貝殻条痕のちナデ	縄文施文	
51	58	▲10841(J-11/Ⅳa) ▲10850(J-11/Ⅳa)	Ⅳ-1類	貝殻条痕のちナデ	縄文施文	



第54図　前中期土器分布図（10）



第55図　前中期土器分布図（11）



第56図　前中期土器分布図（12）

Ｖ類(第50～62図，第18～33表)

Ｖ層を中心とする当該期において，もっとも卓越した出土量をもつ土器群である。

器形は丸底ないし尖底状の底部をもち，胴部がやや張り，ゆるやかな屈曲をもちながら，直行もしくは弱い外反を呈する口縁部を持つ器形である。また若干のキャリパー状の器形を呈するものもこの類に含めた。口縁部形態は平口縁と若干の波状口縁を呈する。器面調整については内面・外面ともに貝殻による条痕文を基本としている。口縁部外面に数条の貼付突帯を巡らせる手法がこの類の特徴である。なお突帯を持たない小型の鉢についても基本的な調整を貝殻条痕で行っていることより，この類型に含めることとした。これらの土器群の胎土は，角閃石を含む黒色を呈する堅密なものと，軽石礫が含まれることが多く明褐色を呈する砂質の強いものに大きく分けられそうである。後者は比較的大型の個体にみられ，接合において非常にもろいため，復元は困難を極めた。なお底部資料についても丸底ないし尖底状の底部としてある程度確認できるものの完形へ至るには上記に述べた理由より難しいといえる。しかし胎土の構成からは，この類に伴う可能性が高いことがいえる。

Ｖ－１類(第69～71,78図，第19～21表)

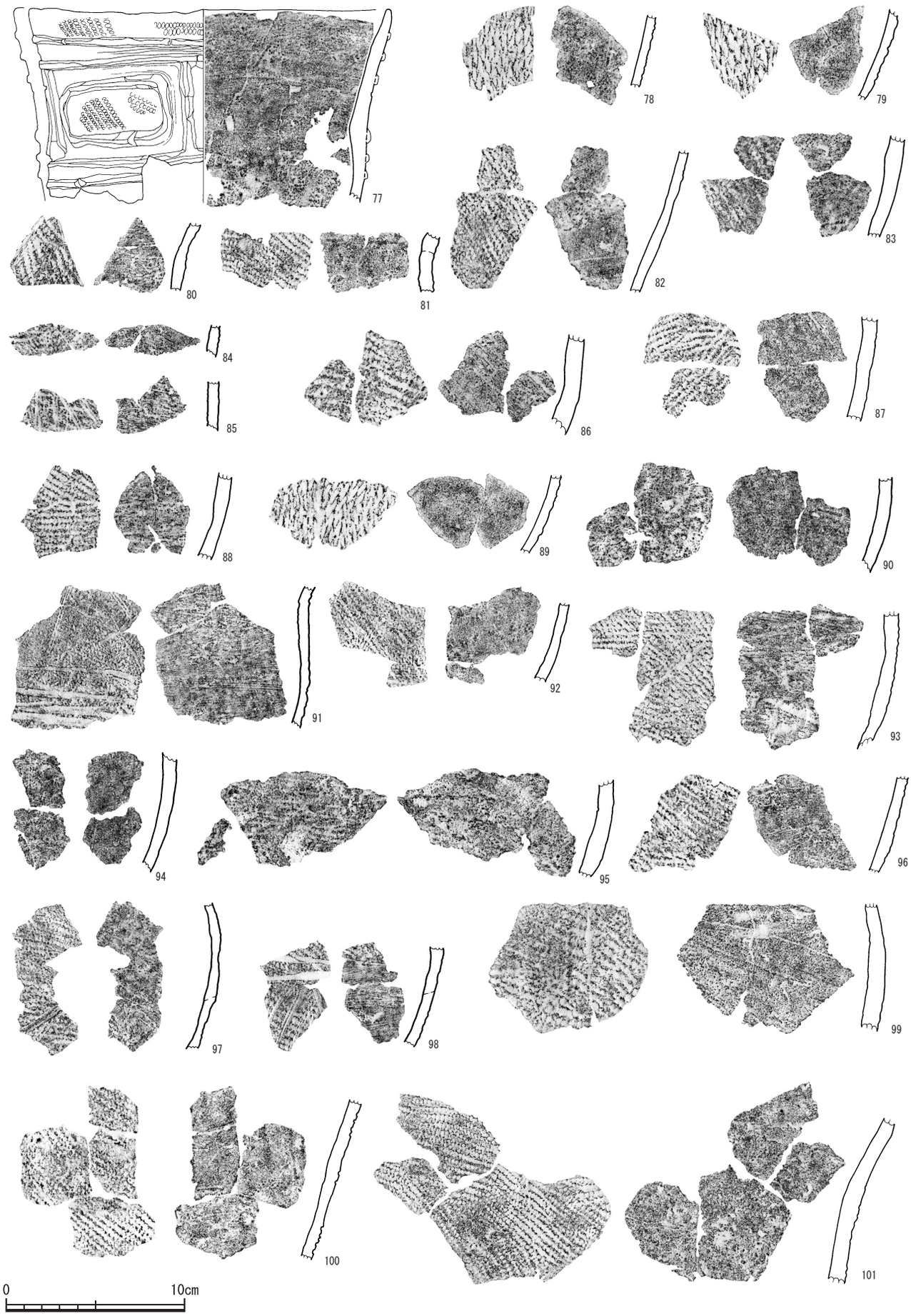
Ｖ類のうち，口唇部について刻目ないし刺突を施すものについて設けた。

口唇部の刻みについては貝殻による腹縁部を用いるもの，貝殻の背面を押圧するもの，工具使用の後に指で整形するものなどがある。口縁部を巡る突帯については横位，縦位，波状を基本とした組み合わせからなり，縦位の区画を意識した意匠もみられる。貼付突帯に刻目を有するものとして220，238，241が挙げられる。243については貝殻による条痕としては１つの単位が非常に掴みづらく，ヘラ状工具による密接な沈線の集合である可能性も指摘できる。さらに外面口唇部付近においてナデ調整を施し，器形についてもキャリパー状に一度すぼまったのち，再度外反する点は類型からは外れるかもしれないが，口唇部に刻みを入れる点において共通する手法としてとらえることとした。

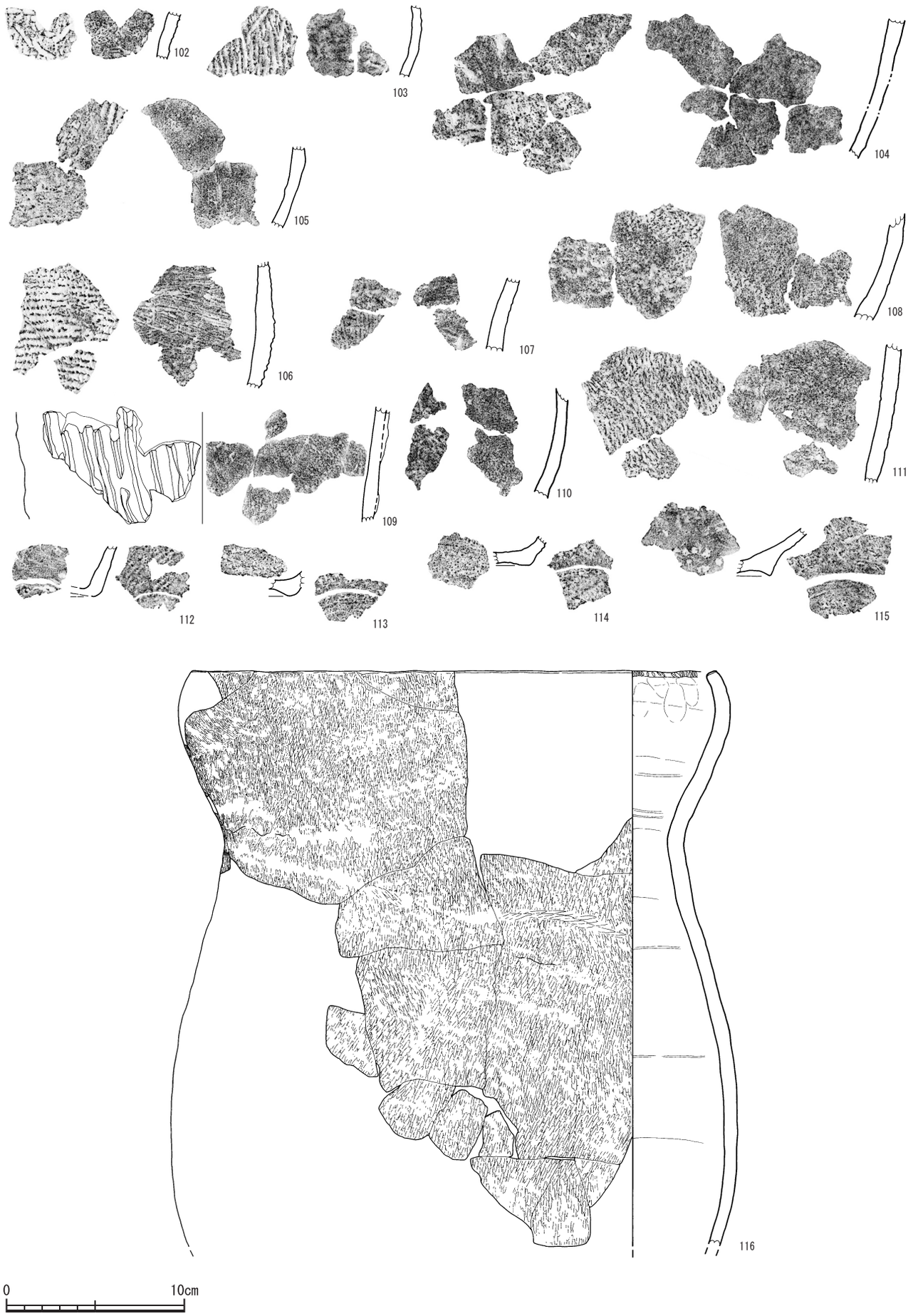
Ｖ－２類(第79～107図，第22～33表)

Ｖ類のうち，口唇部を刻まないものについて設けた。

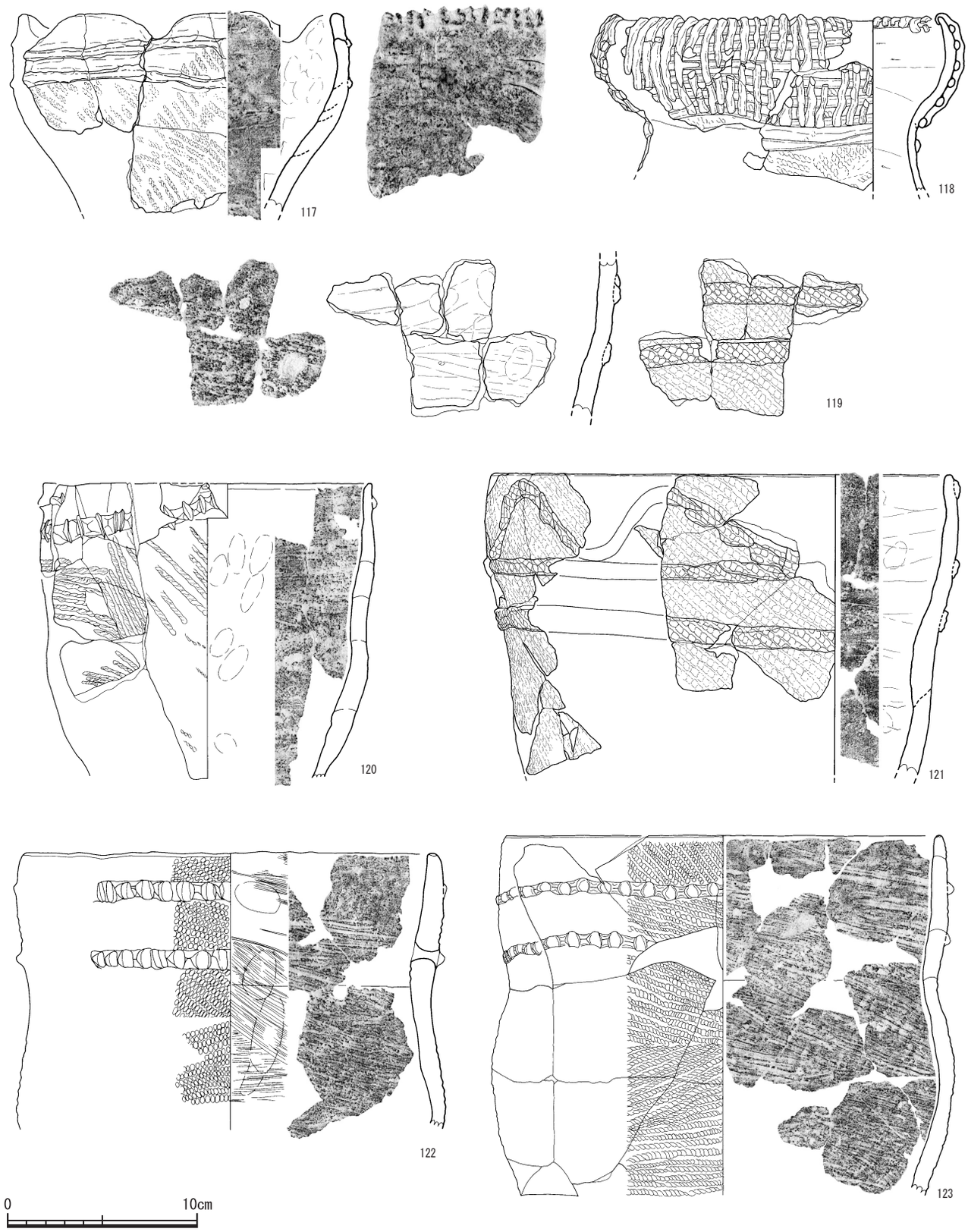
口縁部における貼付突帯のモチーフとして，横位，縦位，波状を基本とした組み合わせに加えて，「Ｖの字」や×状のモチーフがみられる。これらを組み合わせ，ある程度の単位を構成したうえで，繰り返して外面を巡る手法が看取できる。267については，Ｖ類において復元できたものの中で最大である。口径は直径42cmを測り，器高は約46cmである。外反する口縁部を持ち，一度すぼまったのち，胴部において若干の張りを伴い尖底ともいえる底部へと至る。胴部下半には補修孔が観察できる。



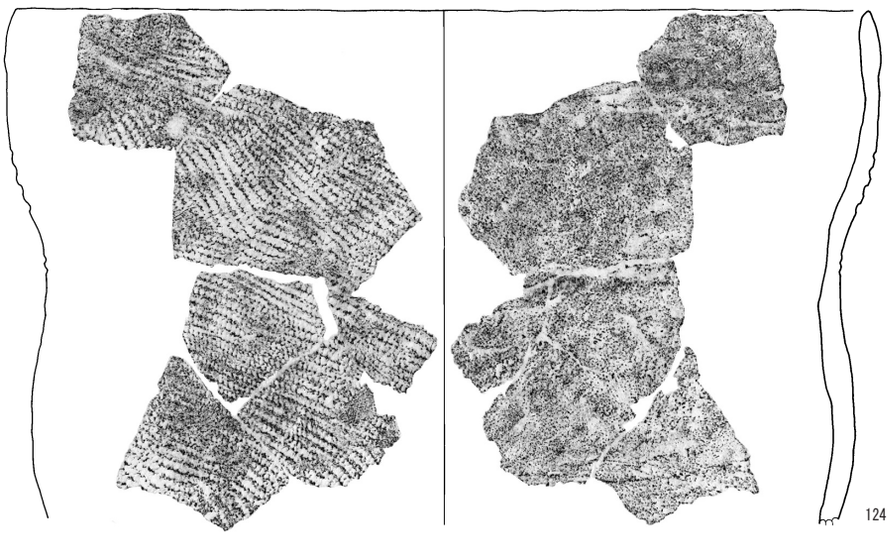
第57図　Ⅴ層遺物実測図（14）



第58図　Ⅴ層遺物実測図（15）



第59図　Ⅴ層遺物実測図（16）



0 10cm

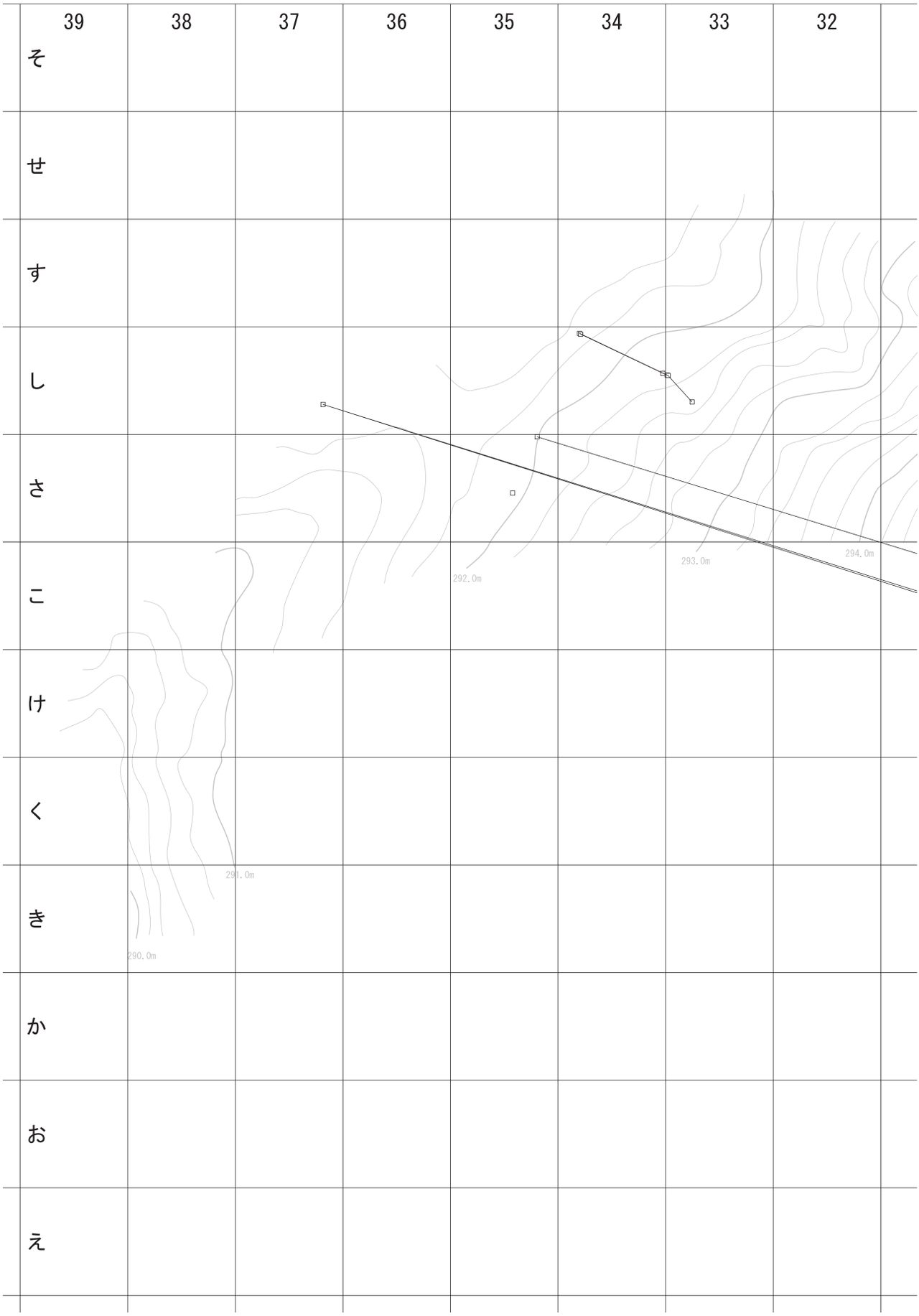
第60図　Ⅴ層遺物実測図（17）

第14表　前中期土器観察表（９）

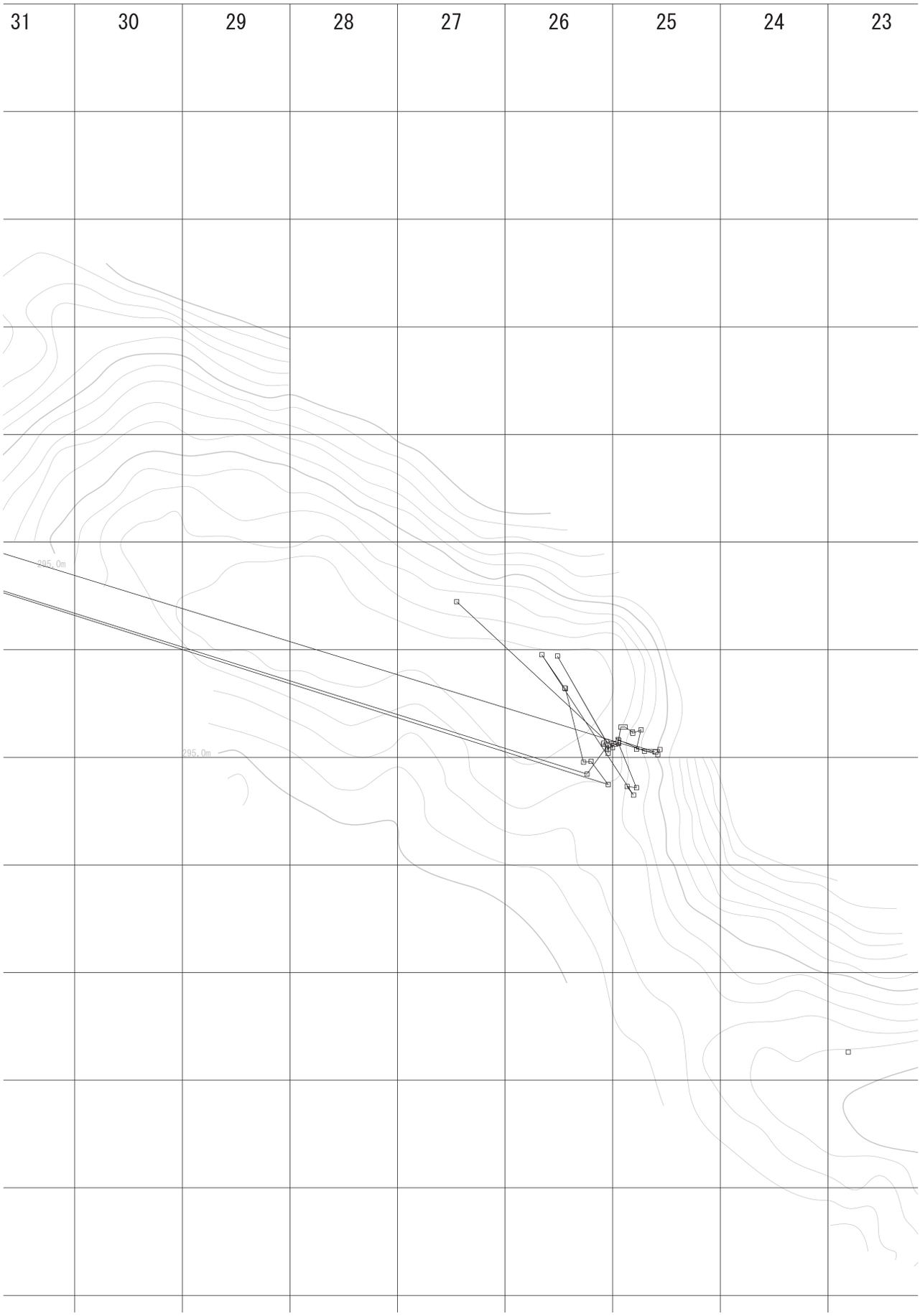
挿図No	図No	取上No(出土区/層位)	分類	調整(内)	調整(外)	備考
52	59	◎772(い-15/Ⅴ上) ◎4091(あ-15/Ⅴa上) ○15895(B-14/Ⅴ上) ○45111(A-15/Ⅴ)	Ⅳ-1類	縄文施文,ケズリ,ナデ	縄文施文,貼付突帯,刺突	AMS PLD-3006
52	60	◎1550(A-12/Ⅴa上) ◎2834(A-12/Ⅴa)	Ⅳ-1類	貝殻条痕,ケズリ,ナデ	縄文施文	
52	61	○75(1T/Ⅵ) ○105(1T/Ⅵ)	Ⅳ-1類	ケズリ,ナデ	縄文施文,貼付突帯	混和材:角閃石
52	62	◎3459(A-16/Ⅴa) ◎3483(A-16/Ⅴa上) ○18327(B-14/Ⅳ) ○43973(B-14/Ⅲb)	Ⅳ-1類	縄文施文,ケズリ,ナデ	縄文施文,貼付突帯,刺突	
52	63	◎7245(A-14/Ⅴa) ○52041(E-13/Ⅴa)	Ⅳ-1類	縄文施文,ケズリ,ナデ	縄文施文,貼付突帯,刺突	
52	64	○15188(D-14/Ⅴ下) ○31207(E-12/Ⅴ上) ○43235(D-13/Ⅴ)	Ⅳ-1類	ケズリのちナデ	縄文施文,貼付突帯,沈線	
52	65	◎39882(さ-35/Ⅴ) ◎39894(さ-35/Ⅴ)	Ⅳ-1類	ケズリのちナデ	縄文施文,貼付突帯	混和材:白岩片
52	66	○3604(C-13/Ⅳ) ○42889(C-13/Ⅴ)	Ⅳ-1類	ケズリのちナデ	縄文施文,貼付突帯	
52	67	○44539(B-14/Ⅴ) ○45920(B-14/Ⅴ)	Ⅳ-1類	ケズリのちナデ	縄文施文,貼付突帯,沈線	
52	68	○36886(B-14/Ⅴ) ○44561(B-14/Ⅴ) ○44565(B-14/Ⅴ)	Ⅳ-1類	ケズリのちナデ	縄文施文	
52	69	◎39897(さ-35/Ⅴ) ◎39898(さ-35/Ⅴ)	Ⅳ-1類	ケズリのちナデ	縄文施文	黒色
52	70	○18581(B-13/Ⅳ) ○20009(B-13/Ⅴa) ○43112(C-14/Ⅴ) ○43721(B-13/Ⅴ) ○45762(B-13/Ⅴ) ○48921(C-14/Ⅴa)	Ⅳ-1類	ケズリのちナデ	縄文施文	
52	71	◎39883(さ-35/Ⅴ) ◎39885(さ-35/Ⅴ) ◎39887(さ-35/Ⅴ) ◎39892(さ-35/Ⅴ)	Ⅳ-1類	ケズリのちナデ	縄文施文	黒色 AMS PLD-3003
53	72	○4642(D-11/Ⅳ) ○48987(B-15/Ⅴa)	Ⅳ-1類	ケズリのちナデ	縄文施文	混和材:角閃石
53	73	◎9855(A-13/Ⅴa) ○33726(D-11/Ⅴ下)	Ⅳ-1類	ケズリのちナデ	縄文施文,貼付突帯	混和材:角閃石,炭化物
53	74	◎39616(さ-36/Ⅴ)	Ⅳ-1類	ケズリのちナデ	縄文施文	混和材:白岩片,炭化物
53	75	○11511(B-11/Ⅴ下) ○29839(C-13/Ⅴ下) ○40444(B-10/Ⅴa)	Ⅳ-1類	ケズリのちナデ	縄文施文	
53	76	○9138(D-13/Ⅴ上) ○9139(D-13/Ⅴ上) ○10861(D-13/Ⅴ下)	Ⅳ-1類	ケズリのちナデ	縄文施文,貼付突帯,刺突	炭化物,小型
57	77	○28325(D-10/Ⅴ下) ○28326(D-10/Ⅴ下) ○28339(D-10/Ⅴ下) ○30740(D-10/Ⅴ上)	Ⅳ-2類	ケズリのちナデ	縄文施文,貼付突帯	混和材:角閃石
57	78	○35542(B-12/Ⅴa) ○36137(B-12/Ⅳ)	Ⅳ-2類	ケズリのちナデ	縄文施文	炭化物
57	79	○43115(C-14/Ⅴ) ○43186(C-14/Ⅴ) ○43199(D-14/Ⅴ)	Ⅳ-2類	ケズリのちナデ	縄文施文	
57	80	○31748(C-10/Ⅴ下) ○31770(C-10/Ⅴ下)	Ⅳ-2類	ケズリのちナデ	縄文施文	混和材:白岩片
57	81	○3801(D-12/Ⅳ) ○3812(D-12/Ⅳ)	Ⅳ-2類	ケズリのちナデ	縄文施文	
57	82	○17803(C-13/Ⅴ上) ○44238(C-13/Ⅴ)	Ⅳ-2類	ケズリのちナデ	縄文施文	混和材:角閃石,白岩片
57	83	○9048(D-13/Ⅴ上)	Ⅳ-2類	ケズリのちナデ	縄文施文	混和材:小礫
57	84	○11513(B-11/Ⅴ下) ○11514(B-11/Ⅴ下)	Ⅳ-2類	ケズリのちナデ	縄文施文	混和材:白岩片,角閃石
57	85	○21587(C-10/Ⅳ) ○28120(C-10/Ⅴ下)	Ⅳ-2類	ケズリのちナデ	縄文施文	混和材:白岩片,角閃石
57	86	○9101(D-13/Ⅴ上) ○18701(D-13/Ⅴ下)	Ⅳ-2類	ケズリのちナデ	縄文施文	
57	87	○8773(D-12/Ⅴ下) ○17139(D-12/Ⅴ下)	Ⅳ-2類	ケズリのちナデ	縄文施文	
57	88	○23087(D-13/Ⅴ下) ○26112(D-13/Ⅴ下)	Ⅳ-2類	ケズリのちナデ	縄文施文	混和材:小礫
57	89	○23726(C-14/Ⅴ下) ○49639(C-14/Ⅴa)	Ⅳ-2類	ケズリのちナデ	縄文施文	
57	90	○13365(C-12/Ⅴ下) ○15055(D-13/Ⅴ下)	Ⅳ-2類	ケズリのちナデ	縄文施文,沈線	混和材:白岩片
57	91	○13822(B-11/Ⅴ下) ○13823(B-11/Ⅴ下)	Ⅳ-2類	ケズリのちナデ	縄文施文	混和材:白岩片,角閃石
57	92	○8157(C-11/Ⅴ下) ○28146(C-10/Ⅴ下)	Ⅳ-2類	ケズリのちナデ	縄文施文	
57	93	○7671(C-11/Ⅴ上) ○17726(C-13/Ⅴ上) ○19647(E-11/Ⅴ上)	Ⅳ-2類	ケズリのちナデ	縄文施文	
57	94	○10574(D-13/Ⅴ下) ○17501(C-12/Ⅴ下)	Ⅳ-2類	ケズリのちナデ	縄文施文	混和材:白岩片
57	95	○6455(C-13/Ⅴ上) ○23260(C-13/Ⅴ下) ○24468(C-13/Ⅴ下) ○29891(C-13/Ⅴ下)	Ⅳ-2類	ケズリのちナデ	縄文施文	小型鉢
57	96	○13689(B-12/Ⅴ下) ○13691(B-12/Ⅴ下)	Ⅳ-2類	ケズリのちナデ	縄文施文	混和材:角閃石,白岩片,炭化物
57	97	○11127(B-12/Ⅴ下) ○48766(B-13/Ⅴa) ○50308(B-12/Ⅳ)	Ⅳ-2類	ケズリのちナデ	縄文施文	混和材:白岩片,角閃石
57	98	○11468(B-11/Ⅴ下) ○30283(B-11/Ⅴ下)	Ⅳ-2類	ケズリのちナデ	縄文施文,沈線	混和材:白岩片,角閃石

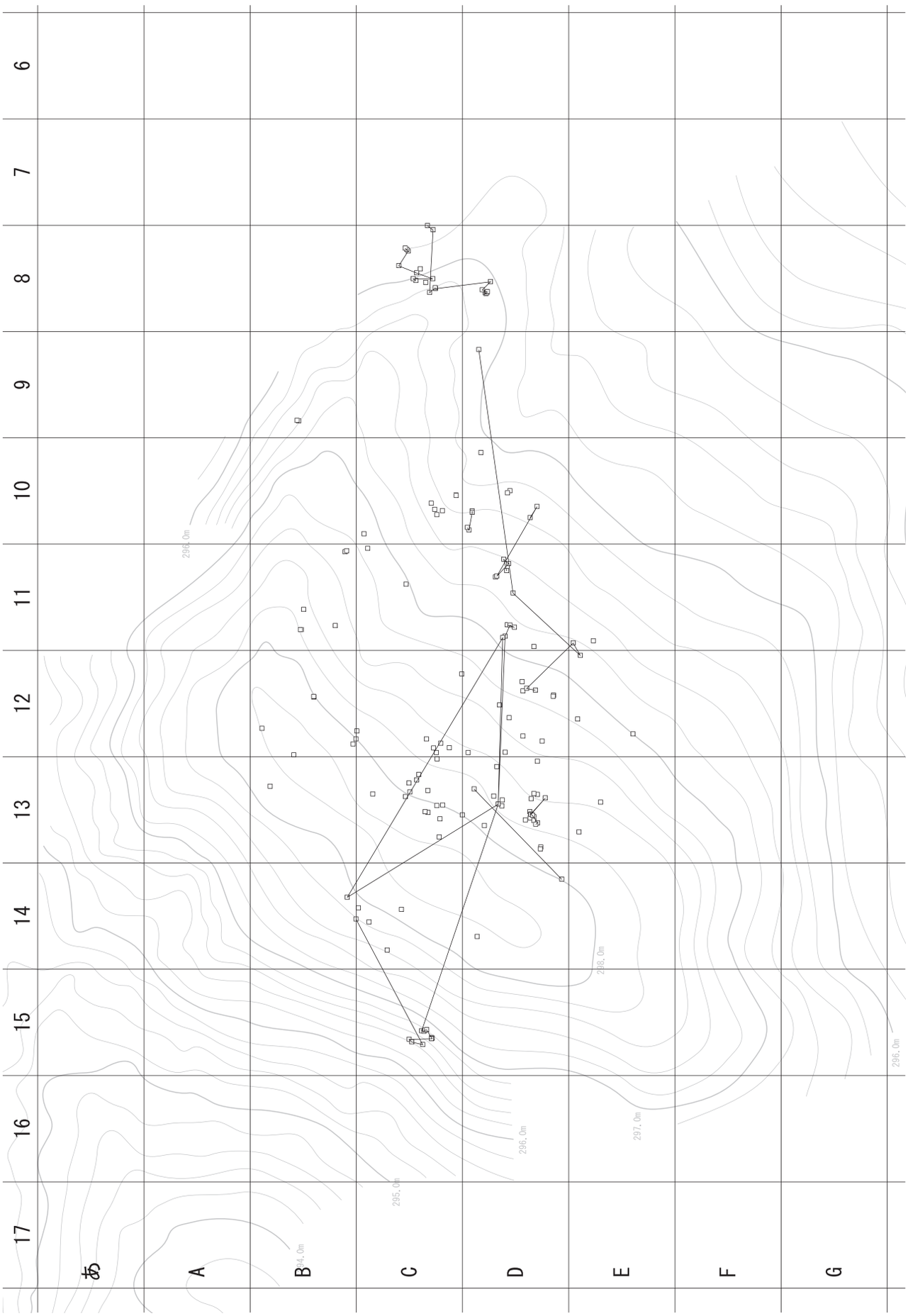
第15表　前中期土器観察表（10）

挿図No	図No	取上No(出土区/層位)	分類	調整(内)	調整(外)	備考
57	99	○10770(D-13/Ⅴ下) ○10841(D-13/Ⅴ下)	Ⅳ-2類	ケズリのちナデ	縄文施文	炭化物
57	100	○3611(C-13/Ⅳ) ○3631(C-13/Ⅳ) ○17806(C-13/Ⅴ上) ○17821(C-13/Ⅴ上)	Ⅳ-2類	ケズリのちナデ	縄文施文	
57	101	○12095(D-12/Ⅴ上) ○17264(D-12/Ⅴ下) ○19065(D-12/Ⅴ下) ○25297(D-11/Ⅳ) ○43235(D-13/Ⅴ)	Ⅳ-2類	ケズリのちナデ	縄文施文	
58	102	○31042(C-10/Ⅴ上) ○31429(C-10/Ⅴ下)	Ⅳ-2類	ケズリのちナデ	縄文施文	混和材:白岩片
58	103	○6162(C-12/Ⅴ上) ○28365(D-11/Ⅴ下)	Ⅳ-2類	ケズリのちナデ	縄文施文	混和材:白岩片
58	104	○10815(D-13/Ⅴ下) ○14899(D-13/Ⅴ下) ○17485(C-12/Ⅴ下) ○19321(C-12/Ⅴ下) ○21429(D-10/Ⅳ) ○44099(D-13/Ⅴ) ○48520(C-13/Ⅴa) ○51075(D-12/Ⅴa)	Ⅳ-2類	ケズリのちナデ	縄文施文	混和材:白岩片
58	105	○17847(C-13/Ⅴ上) ○29895(C-13/Ⅴ下)	Ⅳ-2類	ケズリのちナデ	縄文施文	混和材:角閃石,白岩片
58	106	○38255(C-8/Ⅴ) ○39963(C-8/Ⅴa)	Ⅳ-2類	ケズリのちナデ	縄文施文	
58	107	○51971(E-13/Ⅴa) ○53256(E-13/Ⅴa)	Ⅳ-2類	ケズリのちナデ	縄文施文	
58	108	○17848(C-13/Ⅴ上) ○19302(C-12/Ⅴ下)	Ⅳ-2類	ケズリのちナデ	縄文施文	混和材:白岩片
58	109	○30839(D-10/Ⅴ上) ○31952(D-10/Ⅴ下) ○35529(C-12/Ⅴa)	Ⅳ-2類	ケズリのちナデ	ケズリのちナデ,貼付突帯	
58	110	○10858(D-13/Ⅴ下) ○27559(E-12/Ⅴ下)	Ⅳ-2類	ケズリのちナデ	ケズリのちナデ	混和材:白岩片
58	111	○15074(D-13/Ⅴ下) ○39671(B-9/Ⅴ) ○41912(B-9/Ⅴ)	Ⅳ-2類	ケズリのちナデ	縄文施文	混和材:白岩片
58	112	●9347(か-23/Ⅷ)	Ⅳ-2類	ケズリのちナデ	縄文施文	混和材:白岩片
58	113	◎36296(さ-35/Ⅴ)	Ⅳ-2類	ケズリのちナデ	ケズリのちナデ	混和材:細白岩片,角閃石
58	114	●一括(さ-35/Ⅳb)	Ⅳ-2類	ケズリのちナデ	ケズリのちナデ	混和材:白岩片
58	115	○一括(-/-)	Ⅳ-2類	ケズリのちナデ	ケズリのちナデ	混和材:白岩片
58	116	○4520(D-11/Ⅳ) ○7313(D-11/Ⅴ) ○9780(D-11/Ⅴ) ○14057(D-11/Ⅴ) ○15080(D-13/Ⅴ) ○22620(B-14/Ⅳ) ○25102(D-11/Ⅴ) ○26211(D-13/Ⅴ) ○46429(C-15/Ⅴ) ○46430(C-15/Ⅴ) ○46432(C-15/Ⅴ) ○46433(C-15/Ⅴ) ○46434(C-15/Ⅴ) ○46437(C-15/Ⅴ) ○46438(C-15/Ⅴ) ○46627(C-15/Ⅴ) ○46628(C-15/Ⅴ) ○46630(C-15/Ⅴ) ○49959(B-14/Ⅴ)	Ⅳ-2類	ケズリのちナデ,刺突	縄文施文	
59	117	○8453(D-11/Ⅴ下) ○12415(D-11/Ⅴ下) ○12416(D-11/Ⅴ下) ○25280(D-11/Ⅳ) ○30942(D-10/Ⅴ上) ○31964(D-10/Ⅴ下)	Ⅳ-2類	ケズリのちナデ	縄文施文,貼付突帯	
59	118	◎30628(し-34/Ⅳ) ◎35662(し-33/Ⅴ) ◎35663(し-33/Ⅴ) ◎36299(し-34/Ⅴ) ◎36309(し-33/Ⅴ) ◎36634(し-33/Ⅴ)	Ⅳ-2類	ケズリのちナデ	縄文施文,貼付突帯	
59	119	○6351(D-13/Ⅴ上) ○12745(D-12/Ⅴ下) ○17309(D-12/Ⅴ下) ○27670(E-12/Ⅴ下)	Ⅳ-2類	ケズリのちナデ	縄文施文,貼付突帯	
59	120	○15191(D-14/Ⅴ下) ○45358(D-13/Ⅴ)	Ⅳ-2類	ケズリのちナデ	縄文施文,貼付突帯,刺突	混和材:白岩片
59	121	○3458(D-13/Ⅳ) ○6315(D-13/Ⅴ上) ○10839(D-13/Ⅴ下) ○15023(D-13/Ⅴ下) ○15031(D-13/Ⅴ下) ○18695(D-13/Ⅴ下)	Ⅳ-2類	ケズリのちナデ	縄文施文,貼付突帯	
59	122	○38262(C-8/Ⅳ) ○38263(C-8/Ⅴ) ○38275(C-8/Ⅴ) ○39762(C-8/Ⅳ) ○39765(C-8/Ⅳ) ○39936(C-8/Ⅴa) ○39937(C-8/Ⅴa) ○39939(C-8/Ⅴa)	Ⅳ-2類	ケズリのちナデ	縄文施文,貼付突帯	補修孔
59	123	○38184(D-8/Ⅳ) ○38187(D-8/Ⅴ) ○38188(D-8/Ⅴ) ○38189(D-8/Ⅴ) ○38190(D-8/Ⅴ) ○38192(D-8/Ⅴ) ○38197(D-8/Ⅴ) ○38242(C-8/Ⅳ) ○38243(C-8/Ⅳ) ○38244(C-8/Ⅳ) ○39978(C-8/Ⅴa) ○39979(C-8/Ⅴa)	Ⅳ-2類	ケズリのちナデ	縄文施文,貼付突帯	

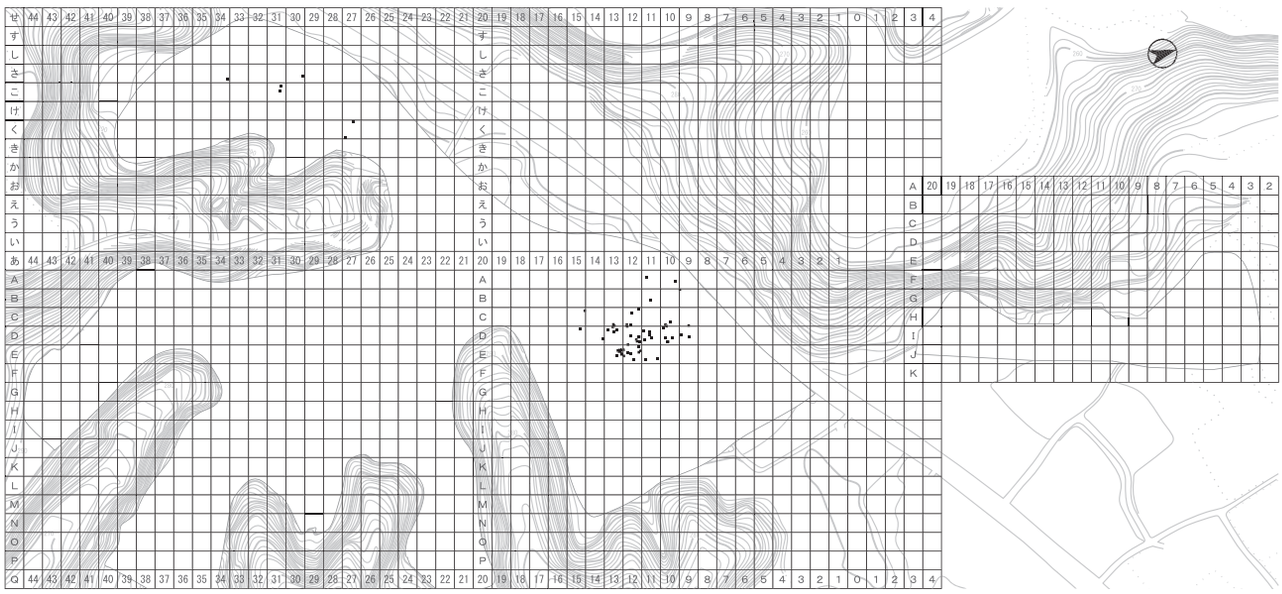


第61図　前中期土器分布図（13）

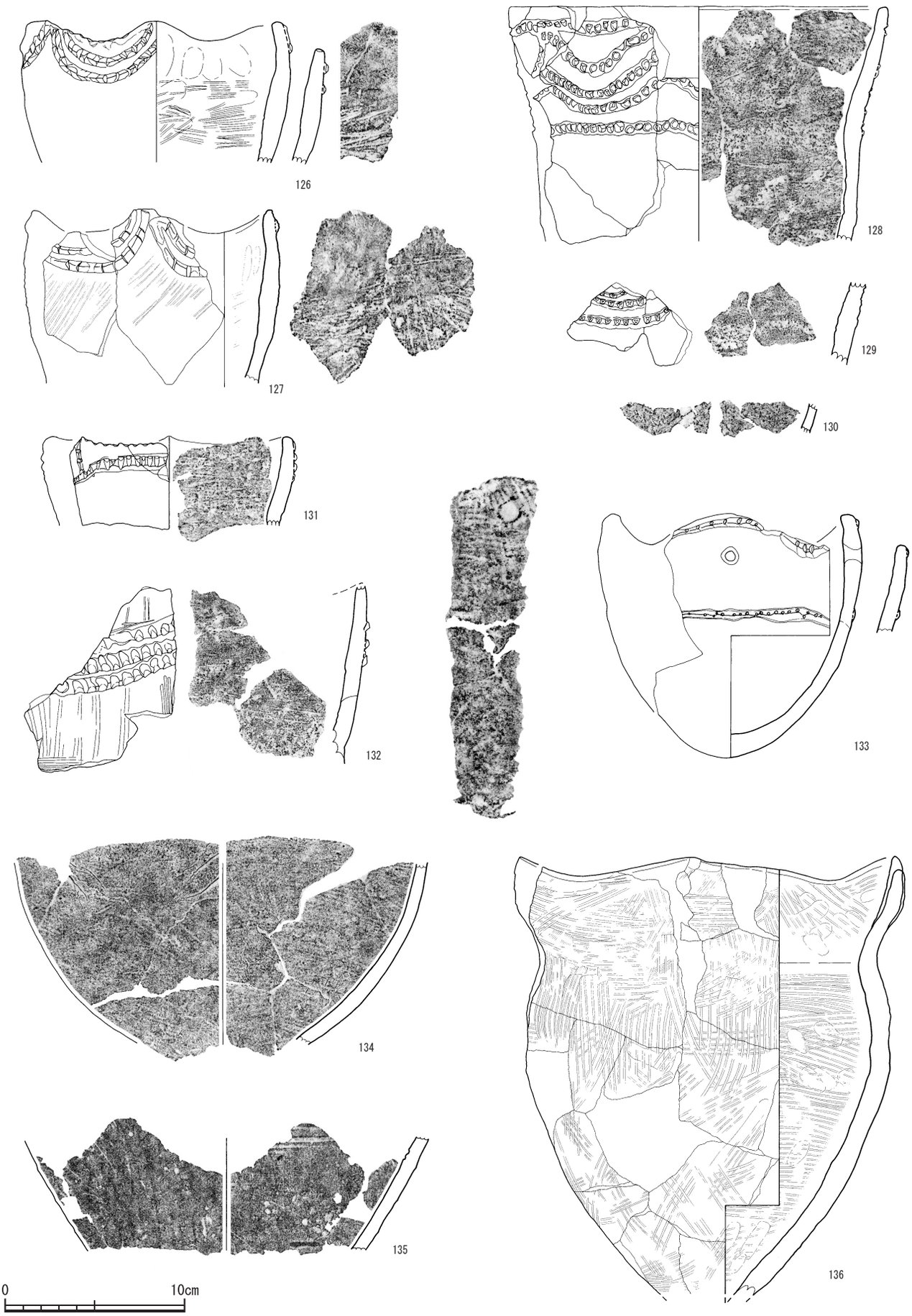

31
30
29
28
27
26
25
24
23
295.0m
295.0m



第62図　前中期土器分布図（14）

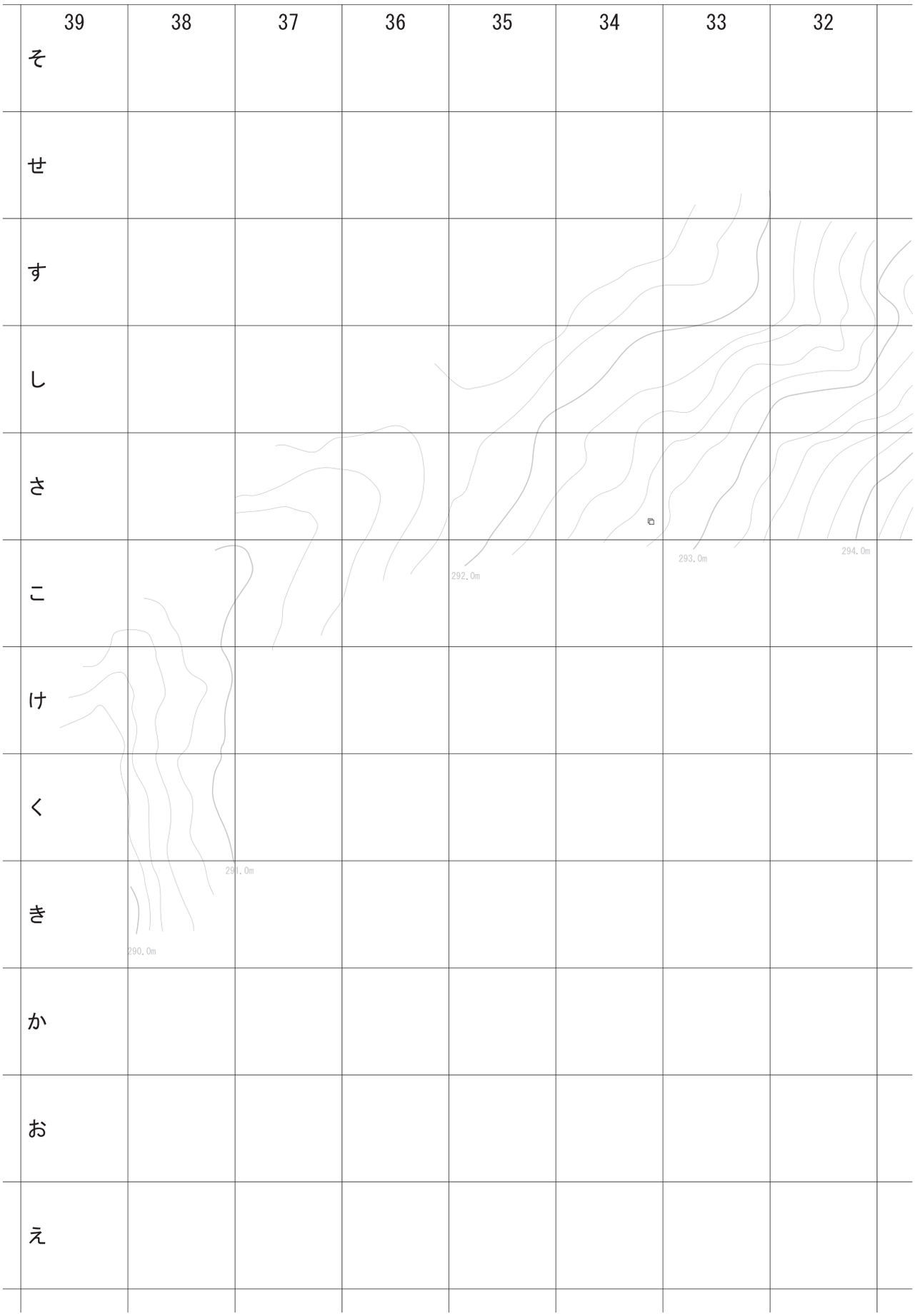


第63図　前中期土器分布図（15）



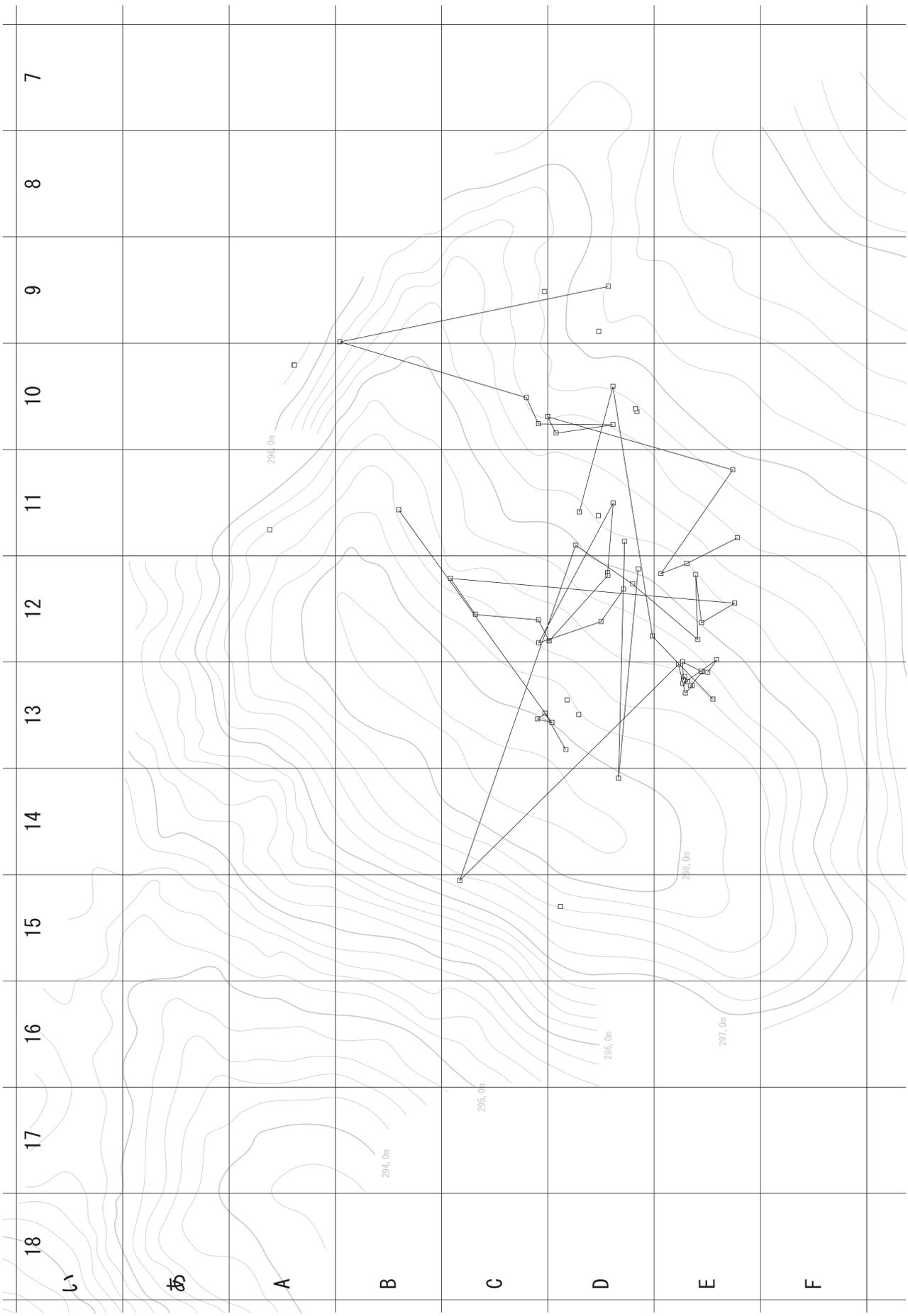
第64図　Ⅴ層遺物実測図（18）

第65図　Ⅴ層遺物実測図（19）



第66図　前中期土器分布図（16）

31	30	29	28	27	26	25	24	23



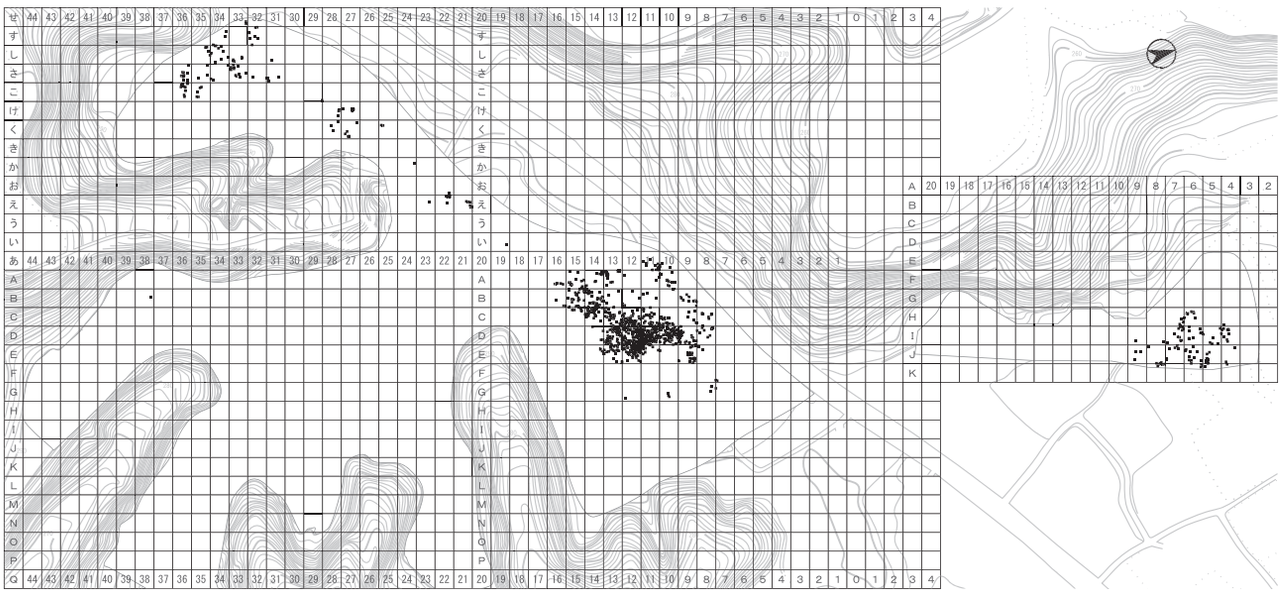
第67図　前中期土器分布図（17）

第16表　前中期土器観察表（11）

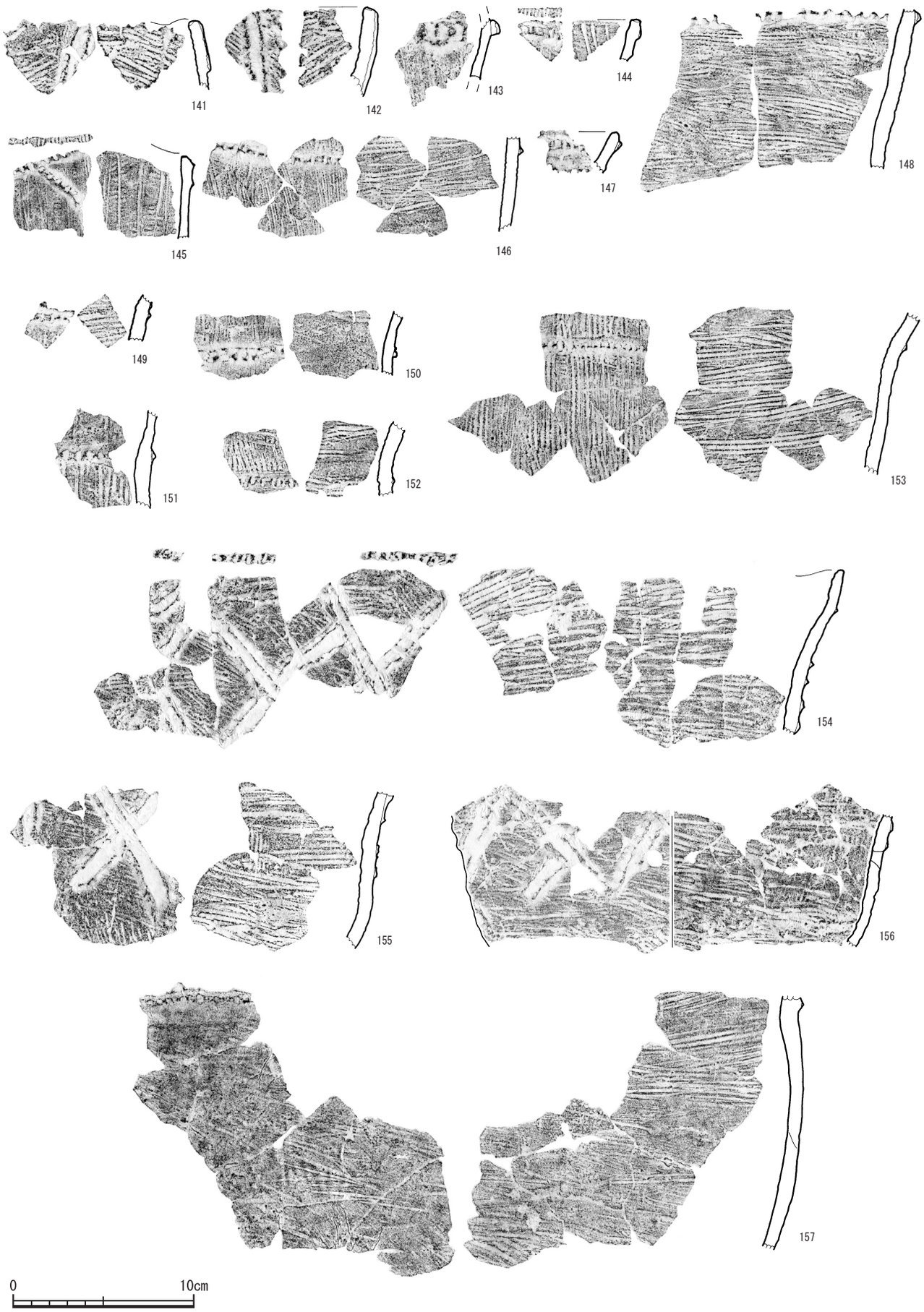
挿図No	図No	取上No(出土区/層位)	分類	調整(内)	調整(外)	備考
60	124	○10013(D-12/Ⅴ下) ○12579(D-12/Ⅴ下) ○24816(E-11/Ⅳ下) ○27824(E-12/Ⅴ下) ○28042(D-11/Ⅴ下) ○38601(D-9/Ⅴ)	Ⅳ-2類	ケズリのちナデ	縄文施文,貼付突帯	
60	125	●1363(け-25/Ⅳ) ●1377(け-26/Ⅳ) ●1378(け-26/Ⅳ) ●1379(け-26/Ⅳ) ●1380(け-25/Ⅳ) ●1381(け-25/Ⅳ) ●1383(け-25/Ⅳ) ●1384(け-25/Ⅳ) ●1385(け-25/Ⅳ) ●1389(け-25/Ⅳ) ●1390(け-25/Ⅳ) ●1393(け-25/Ⅳ) ●1394(け-25/Ⅳ) ◎19031(け-26/Ⅴ) ◎19032(け-26/Ⅴ) ◎19033(け-26/Ⅴ) ◎19034(け-26/Ⅴ) ◎19035(け-26/Ⅴ) ◎19036(け-26/Ⅴ) ◎19039(け-26/Ⅴ) ◎19044(け-26/Ⅴ) ◎19079(け-26/Ⅴ) ◎19080(け-26/Ⅴ) ◎19082(け-26/Ⅴ) ◎19795(く-26/Ⅳ) ◎27830(く-26/Ⅴ) ◎27866(く-26/Ⅴ) ◎27875(く-26/Ⅴ) ◎27882(く-26/Ⅴ) ◎28166(け-26/Ⅴ) ◎28167(け-26/Ⅴ) ◎28169(け-26/Ⅳ) ◎39402(く-25/Ⅴ) ◎39405(く-25/Ⅴ) ◎39406(く-25/Ⅴ) ◎39412(け-25/Ⅴ) ◎39415(け-25/Ⅴ) ◎39416(け-25/Ⅴ) ◎39417(け-25/Ⅴ) ◎39418(け-25/Ⅴ) ◎39419(け-25/Ⅴ) ◎39421(け-25/Ⅴ) ◎39422(け-25/Ⅴ) ◎39423(け-25/Ⅴ) ◎39901(さ-35/Ⅴ)	Ⅳ-2類	ケズリのちナデ	縄文施文,貼付突帯	AMS P4650

第17表　前中期土器観察表（12）

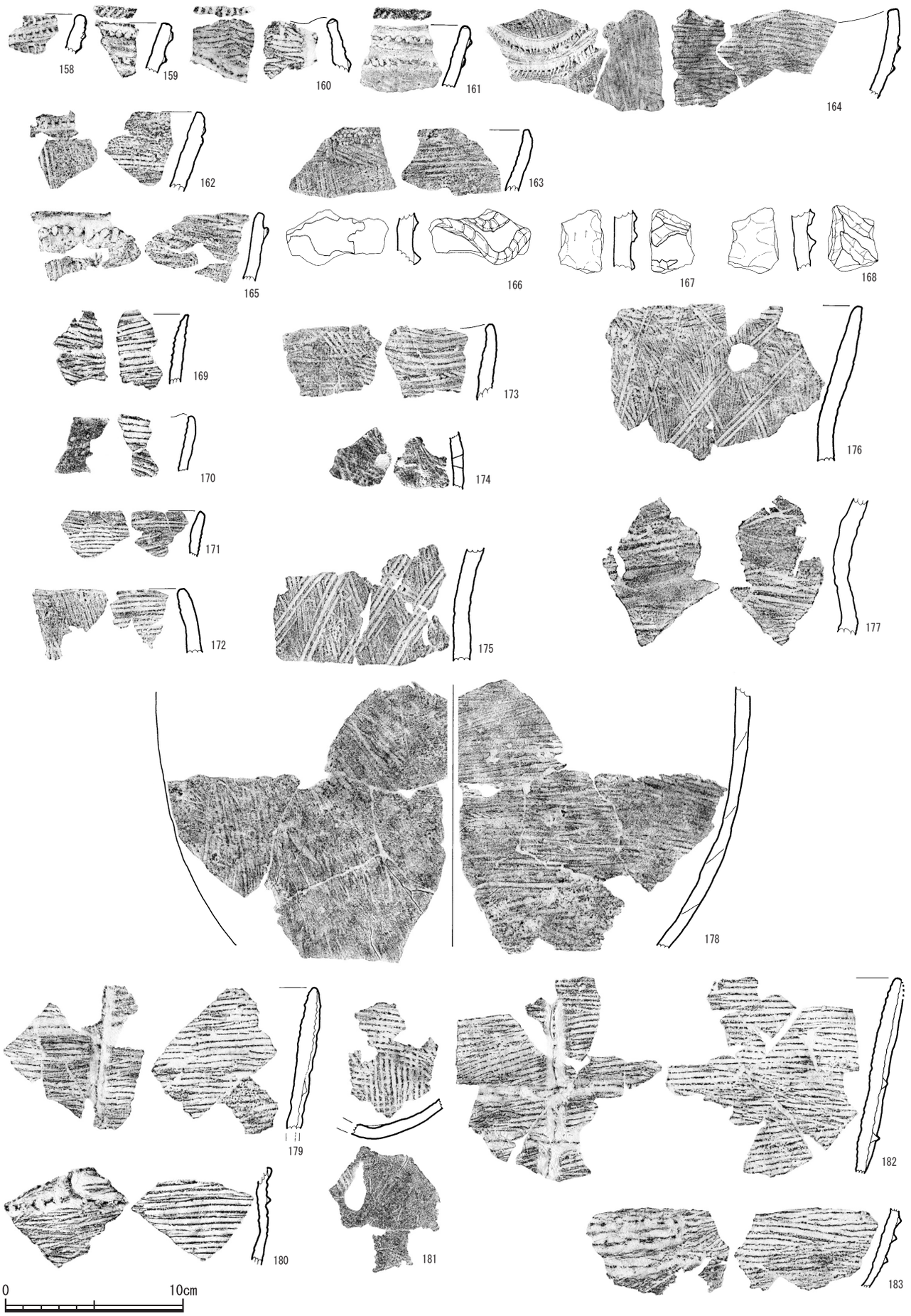
挿図No	図No	取上No(出土区/層位)	分類	調整(内)	調整(外)	備考
64	126	○7304(D-11/Ⅴ上) ○30878(D-10/Ⅴ上) ○32251(D-12/Ⅴ) ○52036(E-13/Ⅴa)	Ⅲ-2類	貝殻条痕のちナデ	貝殻条痕のちナデ, 貼付突帯刺突	混和材:角閃石
64	127	◎10015(A-11/Ⅵ) -一括(あ-11/表層)	Ⅲ-2類	貝殻条痕のちナデ	貝殻条痕のちナデ	混和材:炭化物
64	128	○10821(D-13/Ⅴ下) ○10963(C-13/Ⅴ下) ○10966(C-13/Ⅴ下) ○15114(D-13/Ⅴ下) ○35970(B-11/Ⅴa)	Ⅲ-2類	貝殻条痕のちナデ	貝殻条痕のちナデ	混和材:角閃石
64	129	○10793(D-13/Ⅴ下) ○14933(D-13/Ⅴ下)	Ⅲ-2類	貝殻条痕のちナデ	貝殻条痕のちナデ	混和材:角閃石
64	130	○30947(D-10/Ⅴ上) ○31530(D-10/Ⅴ下)	Ⅲ-2類	貝殻条痕のちナデ	貝殻条痕のちナデ	混和材:白岩片
64	131	○41236(A-10/Ⅳ) ○41249(A-10/-)	Ⅲ-2類	貝殻条痕のちナデ	貝殻条痕のちナデ	
64	132	○25078(D-11/Ⅴ下) ○30649(D-9/Ⅴ上) ○39135(C-9/Ⅴ)	Ⅲ-2類	貝殻条痕のちナデ	貝殻条痕のちナデ	混和材:角閃石
64	133	○10926(D-15/Ⅴ下) ○48926(D-15/Ⅴa)	Ⅲ-2類	貝殻条痕のちナデ	貝殻条痕のちナデ, 貼付突帯,刺突	小型,炭化物, 補修孔
64	134	◎35666(さ-33/Ⅴ) ◎35792(さ-33/Ⅴ) ◎35793(さ-33/Ⅴ) ◎35809(さ-33/Ⅴ) ◎36322(こ-35/Ⅳ) ◎一括(C-33/Ⅴ) -一括(さ-33/Ⅴ)	Ⅲ-2類	貝殻条痕のちナデ	貝殻条痕のちナデ	炭化物
64	135	○18298(A-14/Ⅲb) ○43520(A-14/Ⅳ) ○44610(A-14/Ⅳ)	Ⅲ-2類	貝殻条痕のちナデ	貝殻条痕のちナデ	
64	136	○5167(D-12/Ⅳ) ○6812(D-14/Ⅴ下) ○8666(D-11/Ⅴ下) ○10014(D-12/Ⅴ下) ○12756(D-12/Ⅴ下) ○13387(C-12/Ⅴ下) ○14030(D-11/Ⅴ下) ○18856(D-12/Ⅴ下) ○18858(D-12/Ⅴ下) ○19184(D-12/Ⅴ下) ○20388(D-12/Ⅴ下) ○20455(D-12/Ⅴ下) ○20586(D-12/Ⅴ下) ○24911(E-12/Ⅴ上) ○27609(E-12/Ⅴ) ○27795(E-12/Ⅴ) ○31612(E-12/Ⅴ上) ○33525(D-12/Ⅴ下) ○33869(D-11/Ⅴ下) ○48918(C-15/Ⅳ下) ○51846(E-13/Ⅴa) ○51876(E-13/Ⅴa) ○51980(E-13/Ⅴa) ○51981(E-13/Ⅴa) ○52941(E-13/Ⅴa) ○52942(E-13/Ⅴa) ○52947(E-13/Ⅴa) ○52975(E-13/Ⅴa) ○52977(E-13/Ⅴa) ○52998(E-13/Ⅴa) ○53000(E-13/Ⅴa) ○53161(E-12/Ⅴ) ○53173(E-13/Ⅴa)	Ⅲ-2類	貝殻条痕のちナデ	貝殻条痕のちナデ	



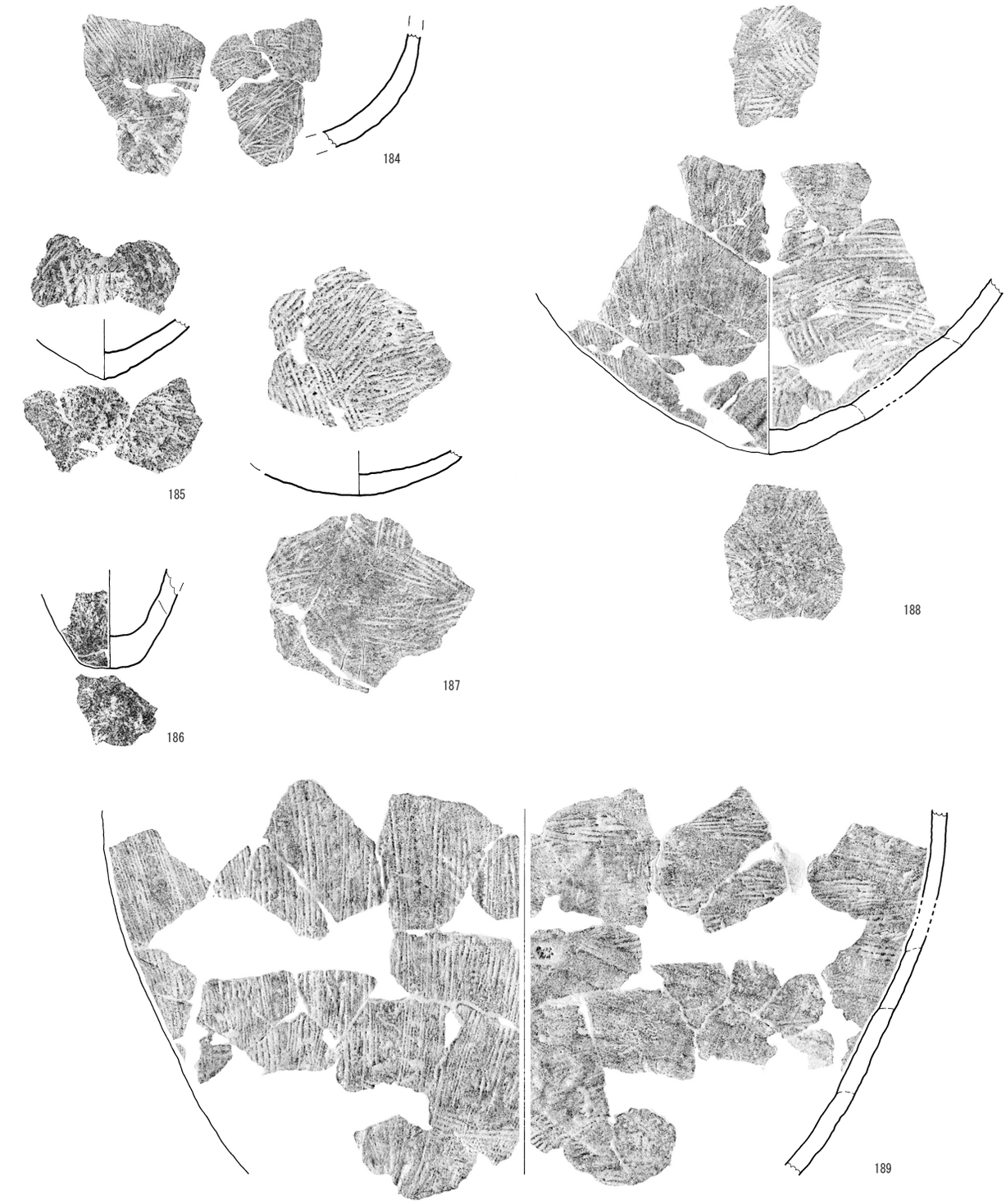
第68図　前中期土器分布図（18）



第69図　Ⅴ層遺物実測図（20）



第70図　Ⅴ層遺物実測図（21）



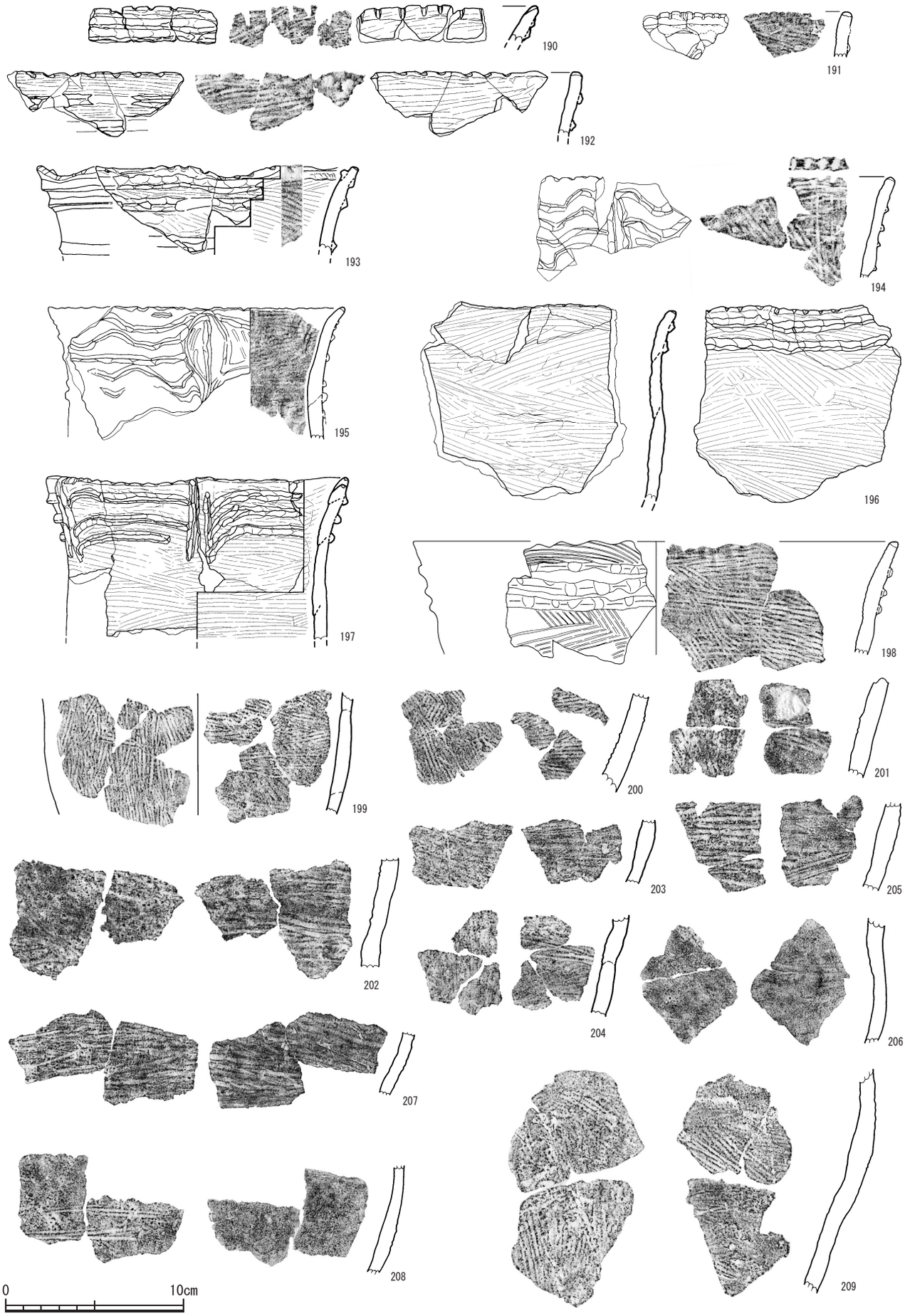
第71図　Ⅴ層遺物実測図（22）

第18表　前中期土器観察表（13）

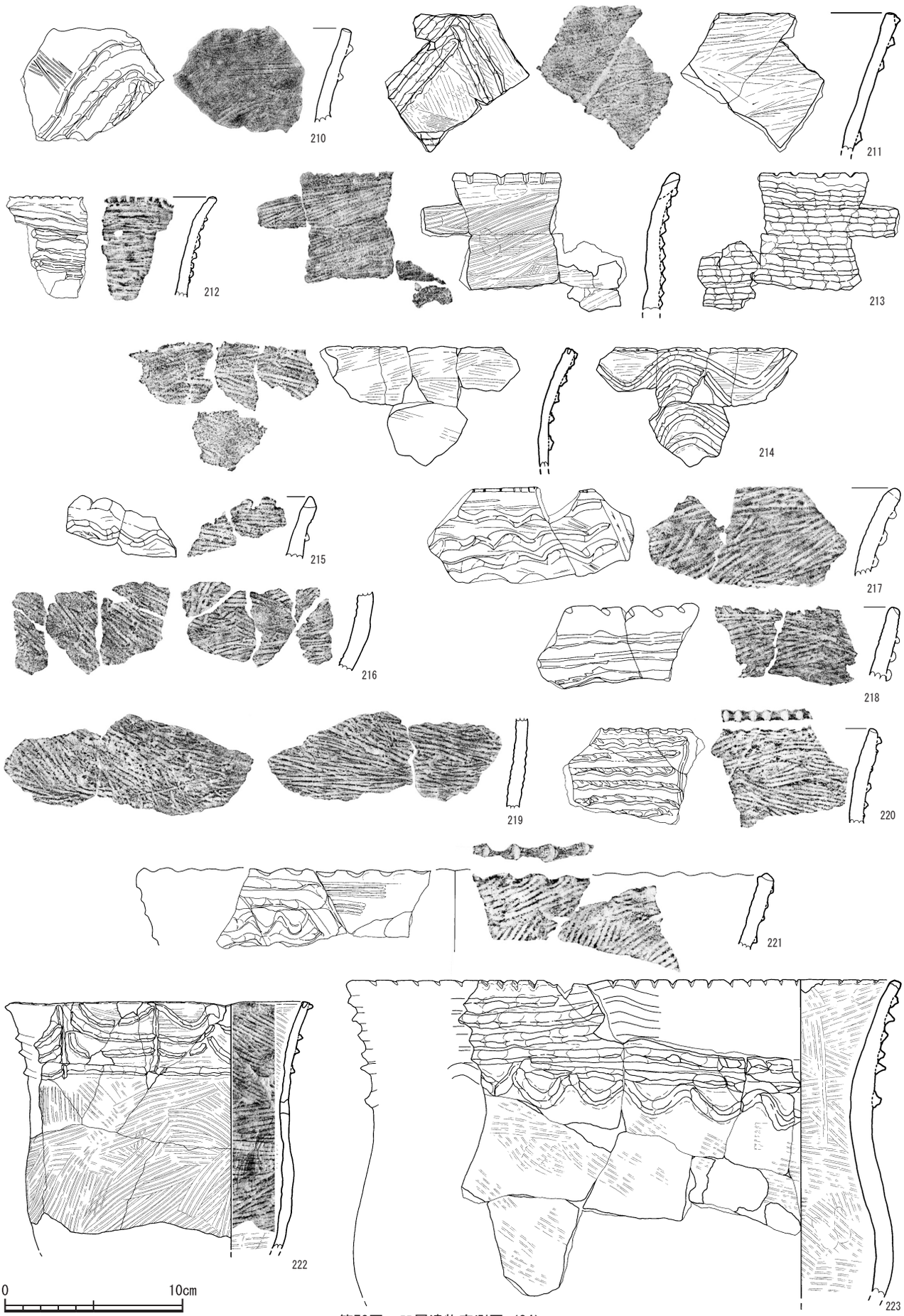
挿図No	図No	取上No(出土区/層位)	分類	調整(内)	調整(外)	備考
65	137	◎39371(こ-31/Ⅳ) ◎39374(こ-31/Ⅳ) ◎41995(さ-30/Ⅴ)	Ⅲ-2類	貝殻条痕のちナデ	貝殻条痕のちナデ	
65	138	◎38533(く-27/Ⅴ) ◎38582(く-27/Ⅴ)	Ⅲ-2類	貝殻条痕	貝殻条痕,沈線	
65	139	◎37107(さ-34/Ⅴ) ◎37108(さ-34/Ⅴ)	Ⅲ-2類	ケズリのちナデ	貝殻条痕のちナデ, 貼付突帯,刺突	
65	140	○19606(E-11/Ⅳ) ○27801(E-12/Ⅴ下) ○27840(E-12/Ⅴ下) ○27884(E-11/Ⅴ下) ○28090(C-10/Ⅴ下) ○30743(D-10/Ⅴ上) ○30935(D-10/Ⅴ上) ○31044(C-10/Ⅴ上) ○31759(C-10/Ⅴ下) ○41816(B-9/Ⅴ) ○49975(D-9/Ⅴ)	Ⅲ-2類	ケズリのちナデ	貝殻条痕のちナデ, 貼付突帯,刺突	混和材:角閃石
69	141	▲7517(H-6/Ⅴa)	Ⅴ-1類	貝殻条痕のちナデ	貝殻条痕のちナデ, 貼付突帯	
69	142	▲7502(H-6/Ⅴa下)	Ⅴ-1類	貝殻条痕のちナデ	貝殻条痕のちナデ, 貼付突帯	
69	143	▲2889(J-6/Ⅳ)	Ⅴ-1類	貝殻条痕のちナデ	貝殻条痕のちナデ, 貼付突帯,刺突	
69	144	▲7186(I-7/Ⅴa)	Ⅴ-1類	貝殻条痕のちナデ	貝殻条痕のちナデ, 貼付突帯,刺突	
69	145	▲7183(I-7/Ⅴa)	Ⅴ-1類	貝殻条痕のちナデ	貝殻条痕のちナデ, 貼付突帯,刺突	
69	146	▲2329(J-6/Ⅳ) ▲3074(J-6/Ⅳ下) ▲3185(J-6/Ⅴa)	Ⅴ類	貝殻条痕のちナデ	貝殻条痕のちナデ, 貼付突帯,刺突	
69	147	▲7604(I-5/Ⅴa)	Ⅴ-1類	貝殻条痕のちナデ	貝殻条痕のちナデ, 貼付突帯,刺突	
69	148	▲7359(I-6/Ⅴa) ▲7360(I-6/Ⅴa) ▲7389(I-6/Ⅴa) ▲8806(I-5/Ⅳ)	Ⅴ類	貝殻条痕のちナデ	貝殻条痕のちナデ, 貼付突帯,刺突	
69	149	▲7735(I-7/Ⅴa下)	Ⅴ類	貝殻条痕のちナデ	貝殻条痕のちナデ, 貼付突帯,刺突	
69	150	▲1788(J-8/Ⅴa)	Ⅴ類	貝殻条痕のちナデ	貝殻条痕のちナデ, 貼付突帯,刺突	
69	151	▲6537(I-4/Ⅴa)	Ⅴ類	貝殻条痕のちナデ	貝殻条痕のちナデ, 貼付突帯,刺突	
69	152	▲7733(I-7/Ⅴa下)	Ⅴ類	貝殻条痕のちナデ	貝殻条痕のちナデ, 貼付突帯,刺突	
69	153	▲3100(J-6/Ⅳ下) ▲7171(I-7/Ⅴa) ▲7174(I-7/Ⅴa) ▲7369(I-6/Ⅴa)	Ⅴ類	貝殻条痕のちナデ	貝殻条痕のちナデ, 貼付突帯,刺突	
69	154	▲7092(J-6/Ⅴa上) ▲7276(H-6/Ⅴa上) ▲7277(H-6/Ⅴa上) ▲7499(H-6/Ⅴa)	Ⅴ-1類	貝殻条痕のちナデ	貝殻条痕のちナデ, 貼付突帯	
69	155	▲7514(H-6/Ⅴa) ▲7516(H-6/Ⅴa)	Ⅴ類	貝殻条痕のちナデ	貝殻条痕のちナデ, 貼付突帯	
69	156	▲5559(I-7/Ⅳ)	Ⅴ類	貝殻条痕のちナデ	貝殻条痕のちナデ, 貼付突帯	
69	157	▲1521(K-5/Ⅳ) ▲2870(J-6/Ⅳ) ▲2986(J-6/Ⅳ下) ▲6530(I-4/Ⅴa) ▲6531(I-4/Ⅴa) ▲6533(I-4/Ⅴa) ▲6771(J-5/Ⅴa)	Ⅴ類	貝殻条痕のちナデ	貝殻条痕のちナデ ,貼付突帯,刺突	
70	158	▲2241(J-7/Ⅳ)	Ⅴ-1類	貝殻条痕のちナデ	貝殻条痕のちナデ, 貼付突帯,刺突	
70	159	▲5325(I-5/Ⅳ)	Ⅴ-1類	貝殻条痕のちナデ	貝殻条痕のちナデ, 貼付突帯,刺突	
70	160	▲7502(H-6/Ⅴa下)	Ⅴ-1類	貝殻条痕のちナデ	貝殻条痕のちナデ, 貼付突帯,刺突	
70	161	▲5400(J-5/Ⅳ)	Ⅴ-1類	貝殻条痕のちナデ	貝殻条痕のちナデ, 貼付突帯,刺突	
70	162	▲5486(I-7/Ⅴa)	Ⅴ-1類	貝殻条痕のちナデ	貝殻条痕のちナデ, 貼付突帯,刺突	
70	163	▲7744(I-7/Ⅳ下)	Ⅴ-1類	貝殻条痕のちナデ	貝殻条痕のちナデ, 貼付突帯,刺突	
70	164	▲6593(J-4/Ⅴa) ▲6596(K-4/Ⅴa上)	Ⅴ-1類	貝殻条痕のちナデ	貝殻条痕のちナデ, 貼付突帯,刺突	
70	165	▲7582(I-4/Ⅴa)	Ⅴ-1類	貝殻条痕のちナデ	貝殻条痕のちナデ, 貼付突帯,刺突	
70	166	▲15063(J-9/Ⅳ)	Ⅴ類	貝殻条痕のちナデ	貝殻条痕のちナデ, 貼付突帯	
70	167	▲15079(J-9/Ⅳa下)	Ⅴ類	貝殻条痕のちナデ	貝殻条痕のちナデ, 貼付突帯	
70	168	▲15148(J-9/Ⅳa)	Ⅴ類	貝殻条痕のちナデ	貝殻条痕のちナデ, 貼付突帯	
70	169	▲7112(J-7/Ⅵa)	Ⅴ-1類	貝殻条痕のちナデ	貝殻条痕のちナデ	
70	170	▲7698(J-4/Ⅵa上)	Ⅴ-1類	貝殻条痕のちナデ	貝殻条痕のちナデ	
70	171	▲7657(I-5/Ⅴa上)	Ⅴ-1類	貝殻条痕のちナデ	貝殻条痕のちナデ	
70	172	▲7440(H-6/Ⅴa)	Ⅴ-1類	貝殻条痕のちナデ	貝殻条痕のちナデ	
70	173	▲7716(H-7/Ⅴa)	Ⅴ-1類	貝殻条痕のちナデ	貝殻条痕のちナデ	
70	174	▲7814(I-7/Ⅴa)	Ⅴ類	貝殻条痕のちナデ	貝殻条痕のちナデ	
70	175	▲15120(I-9/Ⅳa)	Ⅴ類	貝殻条痕のちナデ	貝殻条痕のちナデ	

第19表　前中期土器観察表（14）

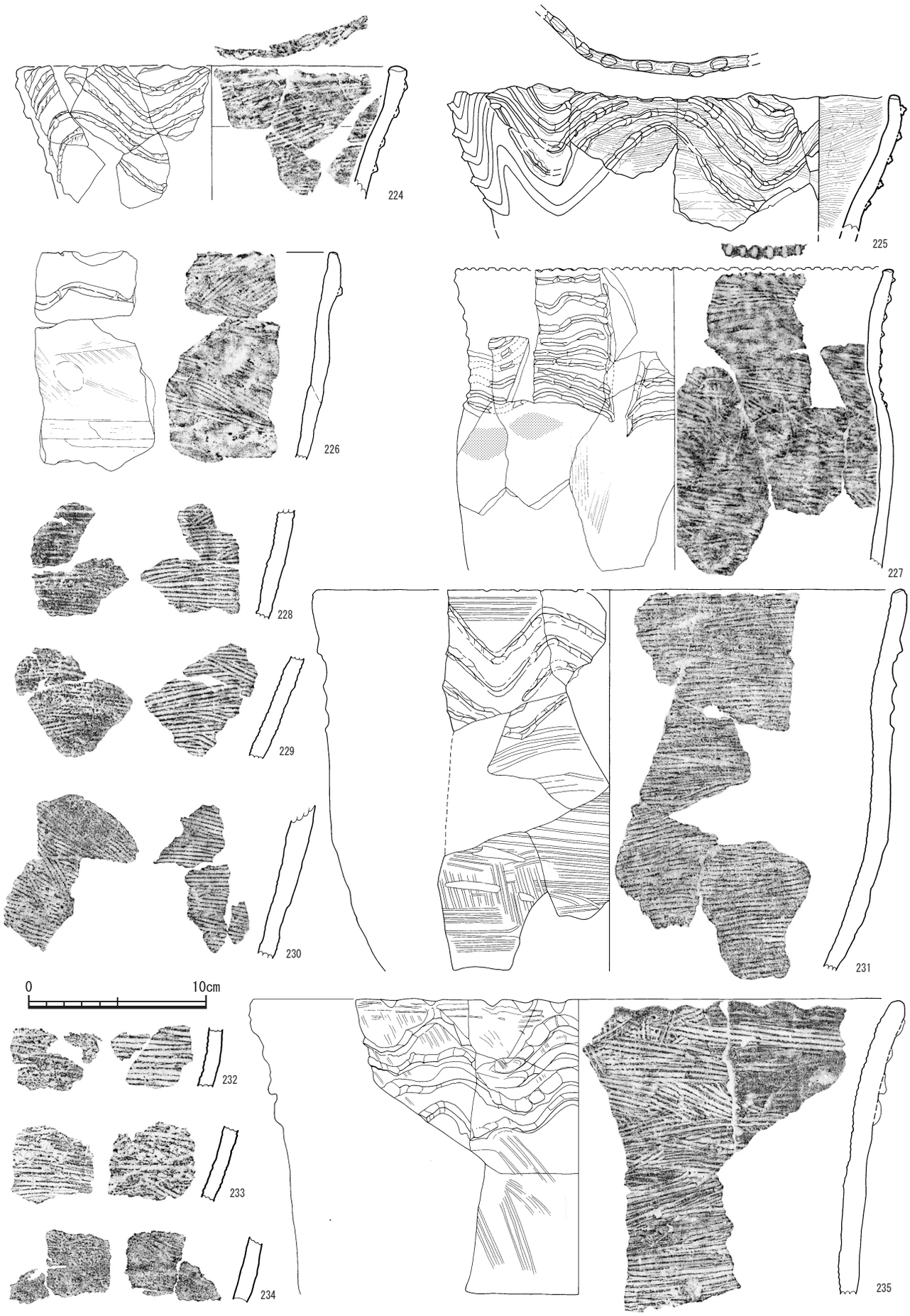
挿図No	図No	取上No(出土区/層位)	分類	調整(内)	調整(外)	備考
70	176	▲1712(J-8/Ⅴa)	Ⅴ-1類	貝殻条痕のちナデ	貝殻条痕のちナデ	
70	177	▲1826(K-8/Ⅴa) ▲5595(K-8/Ⅴa)	Ⅴ類	貝殻条痕のちナデ	貝殻条痕のちナデ	
70	178	▲6268(I-5/Ⅴa) ▲6286(I-4/Ⅴa上) ▲6780(J-5/Ⅴa) ▲7557(I-5/Ⅴa) ▲7595(I-4/Ⅴa)	Ⅴ類	貝殻条痕のちナデ	貝殻条痕のちナデ	
70	179	▲2983(J-6/Ⅳ) ▲8789(I-6/Ⅴa)	Ⅴ-1類	貝殻条痕のちナデ	貝殻条痕のちナデ, 貼付突帯	
70	180	▲8823(H-7/Ⅴa)	Ⅴ類	貝殻条痕のちナデ	貝殻条痕のちナデ, 貼付突帯,刺突	
70	181	▲6295(I-4/Ⅳ下) ▲6521(I-4/Ⅴa)	Ⅴ類	貝殻条痕のちナデ	貝殻条痕のちナデ	
70	182	▲1618(I-8/Ⅴa) ▲2357(J-6/Ⅳ) ▲3146(J-7/Ⅴa) ▲3207(J-6/Ⅴa) ▲6156(H-4/Ⅵ横転) ▲7169(I-7/Ⅴa) ▲7521(H-6/Ⅴa) ▲7795(I-6/Ⅴa下) ▲7827(I-6/Ⅴa下)	Ⅴ-1類	貝殻条痕のちナデ	貝殻条痕のちナデ 貼付突帯	
70	183	▲7812(H-7/Ⅴa下)	Ⅴ類	貝殻条痕のちナデ	貝殻条痕のちナデ, 貼付突帯	
71	184	▲1809(K-8/Ⅴa) ▲2963(J-7/Ⅴa) ▲3144(J-7/Ⅴa)	Ⅴ類	貝殻条痕のちナデ	貝殻条痕のちナデ	
71	185	▲1790(J-8/Ⅴa) ▲1841(K-8/Ⅳ) ▲5581(J-8/Ⅴa)	Ⅴ類	ケズリのちナデ	貝殻条痕のちナデ	
71	186	▲1821(K-8/Ⅴa) ▲1822(K-8/Ⅴa)	Ⅴ類	ケズリのちナデ	貝殻条痕のちナデ	
71	187	▲7787(I-6/Ⅴa下)	Ⅴ類	貝殻条痕のちナデ	貝殻条痕のちナデ	
71	188	▲6544(I-5/Ⅴa) ▲6757(J-5/Ⅴa) ▲6759(J-5/Ⅴa) ▲6777(J-5/Ⅴa) ▲7690(J-5/Ⅴb上)	Ⅴ類	貝殻条痕のちナデ	貝殻条痕のちナデ	
71	189	▲3063(K-6/Ⅴa) ▲3065(K-6/Ⅳ下) ▲3081(J-7/Ⅴa) ▲6756(J-5/Ⅴa上) ▲6761(J-5/Ⅴa上) ▲6764(J-5/Ⅴa) ▲6773(J-5/Ⅴa上) ▲6774(J-5/Ⅴa) ▲6775(J-5/Ⅴa上) ▲6776(J-5/Ⅴa) ▲6778(J-5/Ⅴa) ▲6783(J-5/Ⅴa) ▲6784(J-5/Ⅴa) ▲7313(J-5/Ⅴa) ▲7326(J-5/Ⅴa) ▲7327(J-5/Ⅴa) ▲7328(J-5/Ⅴa) ▲7329(J-5/Ⅴa) ▲7331(J-5/Ⅴa)	Ⅴ類	貝殻条痕のちナデ	貝殻条痕のちナデ	
72	190	○17312(D-12/Ⅴ下) ○18915(D-12/Ⅴ下) ○20297(C-12/Ⅴ下)	Ⅴ-1類	貝殻条痕のちナデ	貝殻条痕のちナデ, 貼付突帯	混和材:細白岩片
72	191	○29281(B-13/Ⅴ下) ○29442(B-14/Ⅴ下)	Ⅴ-1類	貝殻条痕のちナデ	貝殻条痕のちナデ, 貼付突帯	
72	192	○17502(C-12/Ⅴ下) ○19301(C-12/Ⅴ下)	Ⅴ-1類	貝殻条痕のちナデ	貝殻条痕のちナデ, 貼付突帯	
72	193	○12325(D-11/Ⅴ下) ○30273(D-9/Ⅴ下)	Ⅴ-1類	貝殻条痕のちナデ	貝殻条痕のちナデ, 貼付突帯	内面にも突帯あり
72	194	◎827(A-15/Ⅳ) ◎846(A-15/Ⅴa上) ◎881(A-15/Ⅳ)	Ⅴ-1類	貝殻条痕のちナデ	貝殻条痕のちナデ, 貼付突帯	
72	195	○57906(G-8/Ⅴ) ○57907(G-8/Ⅴ)	Ⅴ-1類	貝殻条痕のちナデ	貝殻条痕のちナデ, 貼付突帯	
72	196	◎28278(さ-33/Ⅳ) ◎31125(こ-35/Ⅳ) ◎31219(こ-35/Ⅳ) ◎35665(し-33/Ⅴ) ◎37278(し-35/Ⅴ) ◎39712(さ-36/Ⅴ)	Ⅴ-1類	貝殻条痕のちナデ	貝殻条痕のちナデ, 貼付突帯	混和材:細白岩片, 小型
72	197	◎36044(さ-36/Ⅴ) ◎36395(こ-36/Ⅴ) ◎36396(こ-36/Ⅴ)	Ⅴ-1類	貝殻条痕のちナデ	貝殻条痕のちナデ, 貼付突帯	
72	198	○22049(D-11/Ⅴ下) ○25057(D-11/Ⅴ下)	Ⅴ-1類	貝殻条痕のちナデ	貝殻条痕のちナデ, 貼付突帯	混和材:細白岩片
72	199	○17536(C-12/Ⅴ下) ○19514(C-12/Ⅴ下)	Ⅴ類	貝殻条痕のちナデ	貝殻条痕のちナデ, 貼付突帯	混和材:クロ雲母
72	200	○46264(B-15/Ⅴ) ○48993(B-15/Ⅴa) ○48995(B-15/Ⅴa)	Ⅴ類	貝殻条痕のちナデ	貝殻条痕のちナデ, 貼付突帯	混和材:角閃石, 細白岩片
72	201	○21386(D-10/Ⅳ) ○34703(C-11/Ⅴ)	Ⅴ類	貝殻条痕のちナデ	貝殻条痕のちナデ, 貼付突帯	混和材:細白岩片, クロ雲母,輪積痕
72	202	○41049(A-10/Ⅳ) ○41204(A-10/Ⅳ)	Ⅴ類	貝殻条痕のちナデ	貝殻条痕のちナデ, 貼付突帯	混和材:クロ雲母, 細白岩片
72	203	○10814(D-13/Ⅴ下) ○18169(D-13/Ⅴ下)	Ⅴ類	貝殻条痕のちナデ	貝殻条痕のちナデ, 貼付突帯	混和材:クロ雲母
72	204	○12449(D-11/Ⅴ下) ○25269(D-11/Ⅳ) ○25355(D-11/Ⅴ上)	Ⅴ類	貝殻条痕のちナデ	貝殻条痕のちナデ, 貼付突帯	混和材:クロ雲母, 細白岩片



第72図　Ⅴ層遺物実測図（23）



第73図　Ⅴ層遺物実測図（24）



第74図　Ⅴ層遺物実測図（25）

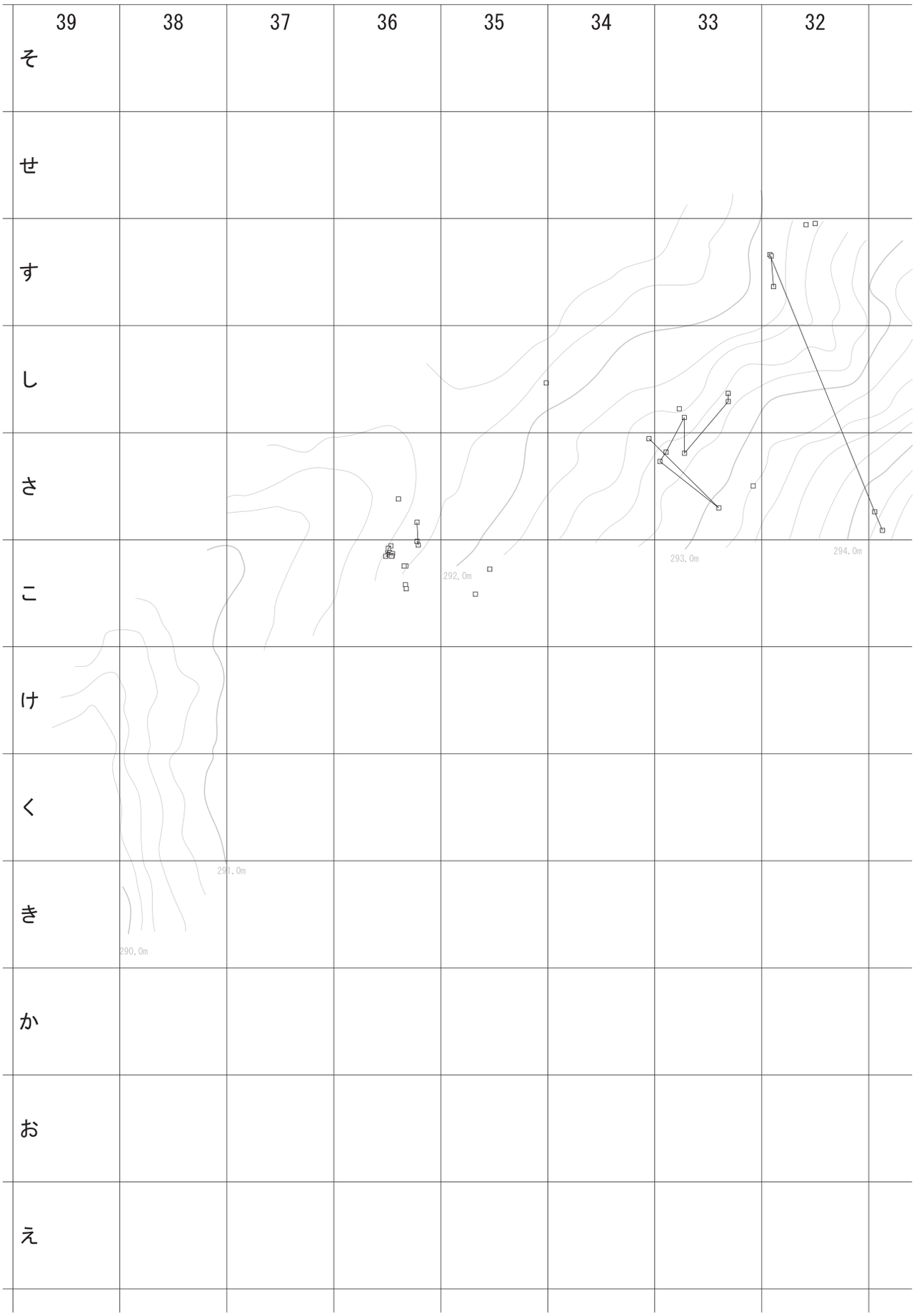
第75図　Ⅴ層遺物実測図（26）

第20表　前中期土器観察表（15）

挿図No	図No	取上No(出土区/層位)	分類	調整(内)	調整(外)	備考
72	205	○34700(C-11/Ⅴ) ○34701(C-11/Ⅴ)	Ⅴ類	貝殻条痕のちナデ	貝殻条痕のちナデ, 貼付突帯	混和材:細白岩片, クロ雲母
72	206	○9167(D-13/Ⅴ上) ○44844(D-13/Ⅴ)	Ⅴ類	貝殻条痕のちナデ	貝殻条痕のちナデ, 貼付突帯	混和材:細白岩片, クロ雲母,角閃石
72	207	○20254(A-13/Ⅴ上) ○29357(A-13/Ⅴ下)	Ⅴ類	貝殻条痕のちナデ	貝殻条痕のちナデ, 貼付突帯	混和材:クロ雲母
72	208	○10687(D-13/Ⅴ下) ○26165(D-13/Ⅴ下)	Ⅴ類	貝殻条痕のちナデ	貝殻条痕のちナデ, 貼付突帯	混和材:細白岩片, クロ雲母,角閃石
72	209	○8175(C-11/Ⅴ下) ○8406(D-11/Ⅴ下) ○28337(D-10/Ⅴ下)	Ⅴ類	貝殻条痕のちナデ	貝殻条痕のちナデ, 貼付突帯	混和材:クロ雲母, 細白岩片
73	210	○47266(D-12/Ⅴa)	Ⅴ-1類	貝殻条痕のちナデ	貝殻条痕のちナデ, 貼付突帯	混和材:細白岩片
73	211	○44805(E-13/Ⅳ) ○46374(E-14/Ⅴ)	Ⅴ-1類	貝殻条痕のちナデ	貝殻条痕のちナデ, 貼付突帯	混和材:角閃石
73	212	◎36412(こ-36/Ⅴ) ◎36413(こ-36/Ⅴ)	Ⅴ-1類	貝殻条痕のちナデ	貝殻条痕のちナデ, 貼付突帯	
73	213	○6854(D-12/Ⅴ上) ○6882(D-12/Ⅴ上) ○12949(D-12/Ⅴ下) ○20297(C-12/Ⅴ下) ○47163(D-13/Ⅴ)	Ⅴ-1類	貝殻条痕のちナデ	貝殻条痕のちナデ, 貼付突帯	
73	214	○12208(D-11/Ⅴ下) ○12345(D-11/Ⅴ下) ○27710(E-12/Ⅴ下) ○33597(D-11/Ⅴ下)	Ⅴ-1類	貝殻条痕のちナデ	貝殻条痕のちナデ, 貼付突帯	混和材:細白岩片
73	215	○42265(A-10/Ⅳ) ○42267(A-10/Ⅳ)	Ⅴ-1類	貝殻条痕のちナデ	貝殻条痕のちナデ, 貼付突帯	
73	216	○45577(E-13/Ⅴ) ○51915(E-13/Ⅴa)	Ⅴ類	貝殻条痕のちナデ	貝殻条痕のちナデ	混和材:細白岩片
73	217	○44091(D-13/Ⅴ) ○46320(E-13/Ⅴ)	Ⅴ-1類	貝殻条痕のちナデ	貝殻条痕のちナデ, 貼付突帯	混和材:細白岩片
73	218	○4907(C-12/Ⅳ)	Ⅴ-1類	貝殻条痕のちナデ	貝殻条痕のちナデ, 貼付突帯	混和材:炭化物
73	219	○13194(C-12/Ⅴ下)	Ⅴ類	貝殻条痕のちナデ	貝殻条痕のちナデ	細混和材:白岩片
73	220	◎36016(こ-36/Ⅴ) ◎36017(こ-36/Ⅴ)	Ⅴ-1類	貝殻条痕のちナデ	貝殻条痕のちナデ, 貼付突帯	
73	221	◎873(A-15/Ⅳ上) ◎2225(A-13/Ⅴa上)	Ⅴ-1類	貝殻条痕のちナデ	貝殻条痕のちナデ, 貼付突帯	
73	222	○20961(C-12/Ⅴ下) ○23701(C-14/Ⅴ下) ○43824(B-14/Ⅴ)	Ⅴ-1類	貝殻条痕のちナデ	貝殻条痕のちナデ, 貼付突帯	小型浅,炭化物
73	223	●2784(え-21/Ⅳ) ◎3117(A-14/Ⅳ下) ●3482(え-21/Ⅳ) ●3716(え-21/Ⅳ) ◎12697(あ-11/Ⅳ) ○41150(B-9/Ⅳ)	Ⅴ-1類	貝殻条痕のちナデ	貝殻条痕のちナデ, 貼付突帯	
74	224	●1315(す-32/Ⅳb) ◎41374(さ-31/Ⅴ) ◎41958(さ-32/Ⅴ)	Ⅴ-1類	貝殻条痕のちナデ	貝殻条痕のちナデ, 貼付突帯	
74	225	●1132(す-32/Ⅳb) ●1289(す-32/Ⅳb)	Ⅴ-1類	貝殻条痕のちナデ	貝殻条痕のちナデ, 貼付突帯	
74	226	●1010(す-32/Ⅳb) ●1078(す-32/Ⅳb)	Ⅴ-1類	貝殻条痕のちナデ	貝殻条痕のちナデ, 貼付突帯	
74	227	◎30559(さ-34/Ⅳ) ◎35712(さ-33/Ⅴ) ◎35776(さ-33/Ⅴ) ◎35785(さ-33/Ⅴ) ◎35827(し-33/Ⅴ) ◎36604(さ-33/Ⅴ) ◎41284(し-33/Ⅴ) ◎41286(し-33/Ⅴ) --一括(さ-33/Ⅴ)	Ⅴ-1類	貝殻条痕のちナデ	貝殻条痕のちナデ, 貼付突帯	混和材:細白岩片, 炭化物
74	228	○3572(C-13/Ⅳ) ○8002(C-12/Ⅴ上)	Ⅴ類	貝殻条痕のちナデ	貝殻条痕のちナデ	混和材:細白岩片
74	229	○6018(C-12/Ⅴ上) ○11862(C-12/Ⅴ上)	Ⅴ類	貝殻条痕のちナデ	貝殻条痕のちナデ	混和材:細白岩片
74	230	○6743(C-14/Ⅴ下) ○6776(C-14/Ⅴ下)	Ⅴ類	貝殻条痕のちナデ	貝殻条痕のちナデ	混和材:細白岩片, 輪積
74	231	○15260(D-10/Ⅲb) ○22818(D-10/Ⅳ) ○28273(D-10/Ⅴ下) ○28275(D-10/Ⅴ下) ○28278(D-10/Ⅴ下) ○41193(B-9/Ⅳ)	Ⅴ-1類	貝殻条痕のちナデ	貝殻条痕のちナデ	
74	232	○31848(D-9/Ⅴ下) ○32997(D-9/Ⅴ下)	Ⅴ類	貝殻条痕のちナデ	貝殻条痕のちナデ	混和材:細白岩片
74	233	○7679(C-11/Ⅴ上) ○8179(C-11/Ⅴ下)	Ⅴ類	貝殻条痕のちナデ	貝殻条痕のちナデ	混和材:細白岩片
74	234	○12341(D-11/Ⅴ下) ○25593(D-11/Ⅴ下)	Ⅴ類	貝殻条痕のちナデ	貝殻条痕のちナデ	混和材:細白岩片
74	235	○9888(D-11/Ⅴ下) ○22759(C-10/Ⅳ) ○41674(A-11/Ⅳ)	Ⅴ-1類	貝殻条痕のちナデ	貝殻条痕のちナデ, 貼付突帯	炭化物
75	236	○6891(D-12/Ⅴ上) ○8851(D-12/Ⅴ下)	Ⅴ類	貝殻条痕のちナデ	貝殻条痕のちナデ	混和材:細白岩片
75	237	○11455(B-11/Ⅴ下) ○46489(A-16/Ⅴ) ○46494(A-16/Ⅴ) ○48865(B-14/Ⅴa) ○49445(A-16/Ⅴa) ○49448(A-16/Ⅴa)	Ⅴ-1類	貝殻条痕のちナデ	貝殻条痕のちナデ, 貼付突帯	
75	238	○24931(E-12/Ⅴ上) ○27612(E-12/Ⅴ下) ○27613(E-12/Ⅴ下) ○27614(E-12/Ⅴ下) ○30110(E-12/Ⅴ下)	Ⅴ-1類	貝殻条痕のちナデ	貝殻条痕のちナデ, 貼付突帯	混和材:細白岩片
75	239	◎2311(A-14/Ⅴa上) ◎3466(A-15/Ⅴa) ○45759(B-13/Ⅴ)	Ⅴ-1類	貝殻条痕のちナデ	貝殻条痕のちナデ, 貼付突帯	

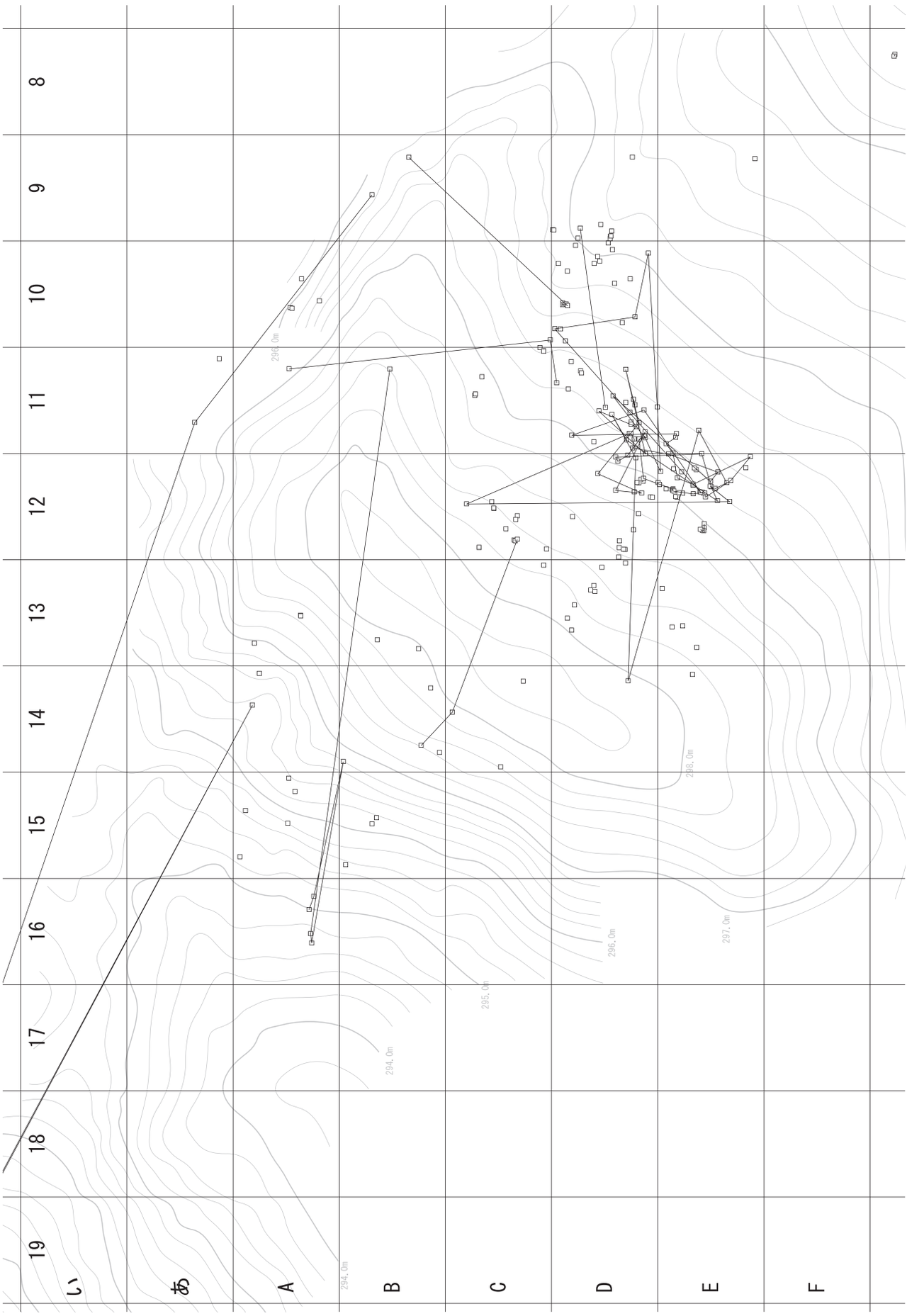
第21表　前中期土器観察表（16）

挿図No	図No	取上No(出土区/層位)	分類	調整(内)	調整(外)	備考
75	240	○3777(D-12/Ⅳ) ○3780(D-12/Ⅳ) ○8801(D-12/Ⅴ) ○10000(D-12/Ⅴ) ○10007(D-12/Ⅴ) ◎15958(A-12/Ⅴ) ○18815(D-12/Ⅴ) ○19738(E-12/Ⅳ) ○19953(E-12/Ⅴ) ○21239(D-10/Ⅴ) ○21422(D-10/Ⅴ) ○21436(D-10/Ⅴ) ○21451(D-9/Ⅴ) ○24840(E-12/Ⅴ) ○24843(E-12/Ⅴ) ○24867(E-12/Ⅴ) ○27785(E-12/Ⅴ) ○27829(E-12/Ⅴ) ○28186(D-10/Ⅴ) ○28195(D-10/Ⅴ) ○28198(D-10/Ⅴ) ○30557(E-12/Ⅴ) ○30561(E-12/Ⅴ) ○30575(E-12/Ⅴ) ○30680(D-9/Ⅴ) ○30938(D-10/Ⅴ) ○30996(D-10/Ⅴ) ○31534(D-10/Ⅴ) ○31563(D-10/Ⅴ) ○31833(D-9/Ⅴ) ○31842(D-9/Ⅴ) ○31906(D-10/Ⅴ) ○32327(E-12/Ⅴ) ○32329(E-12/Ⅴ) ○32347(E-12/Ⅴ) ○36944(D-10/Ⅳ) ○38688(D-9/Ⅴ) ○39052(D-9/Ⅴ)	Ⅴ-1類	貝殻条痕のちナデ	貝殻条痕のちナデ, 貼付突帯	
75	241	◎39668(こ-36/Ⅴ) ◎39669(こ-36/Ⅴ) ◎39672(こ-36/Ⅴ) ◎39673(こ-36/Ⅴ) ◎39674(こ-36/Ⅴ) ◎39676(こ-36/Ⅴ) ◎39677(こ-36/Ⅴ) ◎39678(こ-36/Ⅴ) ◎39679(こ-36/Ⅴ) ◎39680(こ-36/Ⅴ) ◎39681(こ-36/Ⅴ)	Ⅴ-1類	貝殻条痕のちナデ	貝殻条痕のちナデ, 貼付突帯	
75	242	○31235(E-9/Ⅴa上) ○38970(D-9/Ⅴ)	Ⅴ類	貝殻条痕のちナデ	貝殻条痕のちナデ, 貼付突帯	混和材:軽石, 白岩片
75	243	○7325(D-11/Ⅴ) ○8530(D-11/Ⅴ) ○8679(D-11/Ⅴ) ○9647(D-11/Ⅴ下) ○9661(D-11/Ⅴ下) ○9967(D-12/Ⅴ下) ○9997(D-12/Ⅴ下) ○10028(D-12/Ⅴ下) ○12192(D-11/Ⅴ下) ○12508(D-12/Ⅴ下) ○12537(D-12/Ⅴ下) ○12541(D-12/Ⅴ下) ○15459(E-12/Ⅳ) ○15469(E-12/Ⅴ上) ○15487(E-12/Ⅳ) ○16933(D-11/Ⅴ下) ○16995(D-11/Ⅴ下) ○17075(D-12/Ⅴ下) ○18737(D-14/Ⅴ下) ○19625(E-11/Ⅳ) ○19745(E-12/Ⅳ) ○19747(E-12/Ⅳ) ○19748(E-12/Ⅳ) ○19811(E-12/Ⅳ) ○20444(C-12/Ⅴ下) ○22142(D-11/Ⅴ下) ○22143(D-11/Ⅴ下) ○22153(D-11/Ⅴ下) ○22183(D-11/Ⅴ下) ○24829(E-12/Ⅴ上) ○24865(E-12/Ⅴ上) ○24873(E-12/Ⅴ上) ○25029(D-11/Ⅴ下) ○25625(D-11/Ⅴ下) ○25631(D-11/Ⅴ下) ○25770(D-12/Ⅴ下) ○27692(E-12/Ⅴ下) ○27694(E-12/Ⅴ下) ○27695(E-12/Ⅴ下) ○27696(E-12/Ⅴ下) ○27737(E-12/Ⅴ下) ○27760(E-12/Ⅴ下) ○27761(E-12/Ⅴ下) ○27762(E-12/Ⅴ下) ○27767(E-12/Ⅴ下) ○27770(E-12/Ⅴ下) ○27776(E-12/Ⅴ下) ○27779(E-12/Ⅴ下) ○27786(E-12/Ⅴ下) ○27811(E-12/Ⅴ下) ○27821(E-11/Ⅴ下) ○27848(E-11/Ⅴ下) ○27864(E-11/Ⅴ下) ○27865(E-11/Ⅴ下) ○27981(D-11/Ⅴ下) ○28380(D-11/Ⅴ下) ○30548(E-12/Ⅴ下) ○30738(D-10/Ⅴ上) ○31471(D-10/Ⅴ下) ○31919(D-10/Ⅴ下) ○32158(D-11/Ⅴ上) ○32422(E-12/Ⅴ) ○33899(D-11/Ⅴ下)	Ⅴ-1類	貝殻条痕のちナデ	貝殻条痕のちナデ	AMS PLD-3005

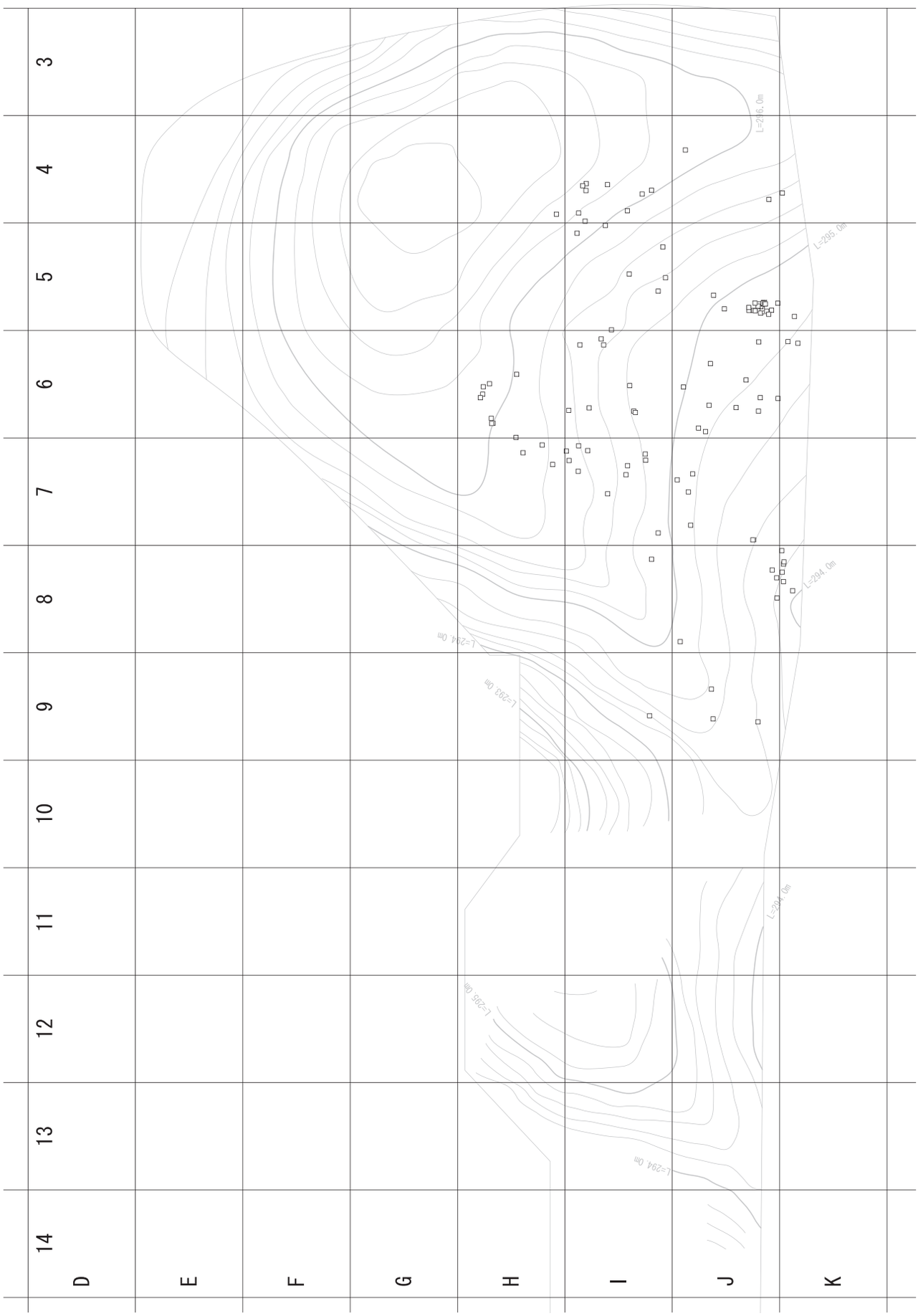


第76図　前中期土器分布図（19）

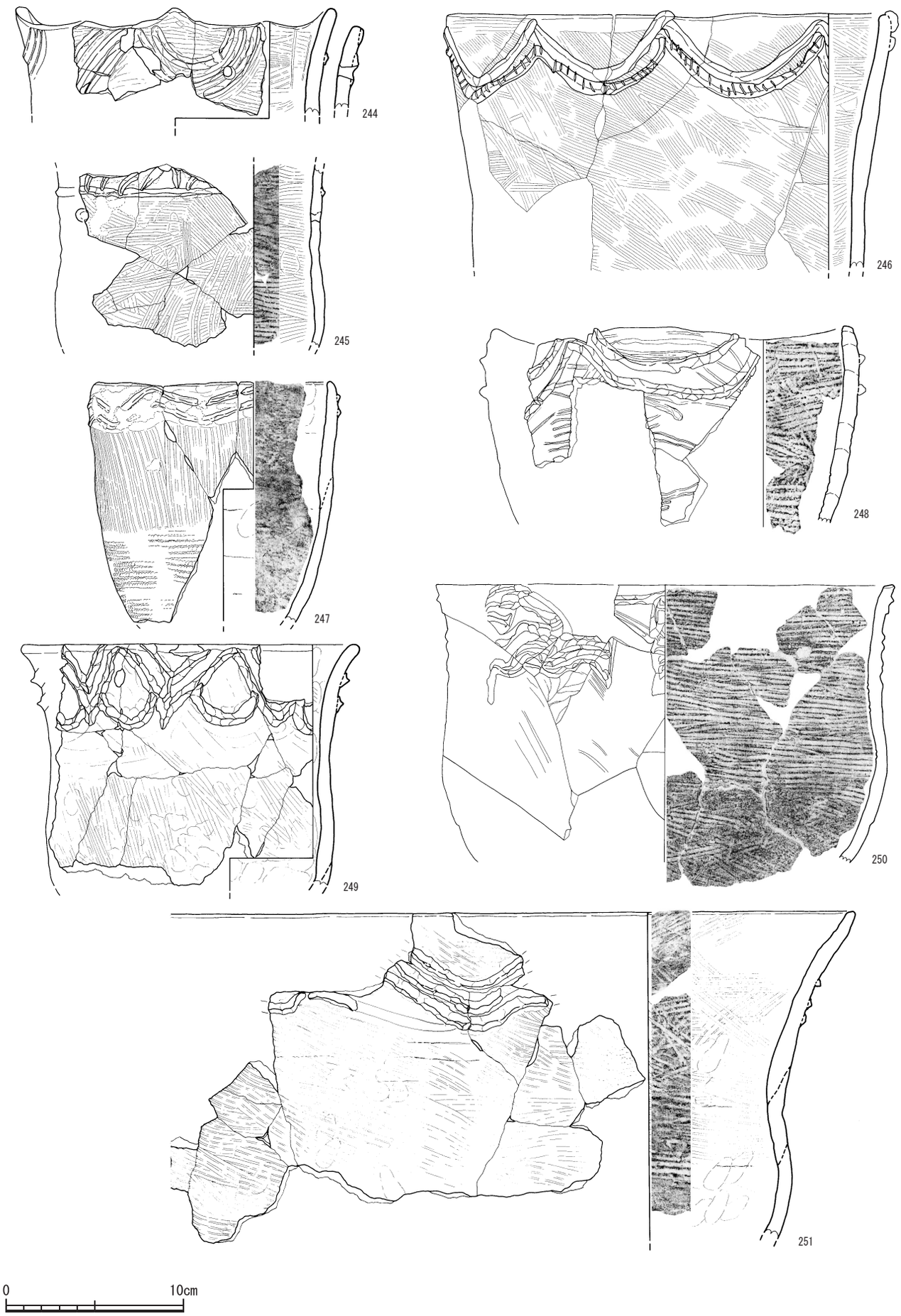
31	30	29	28	27	26	25	24	23



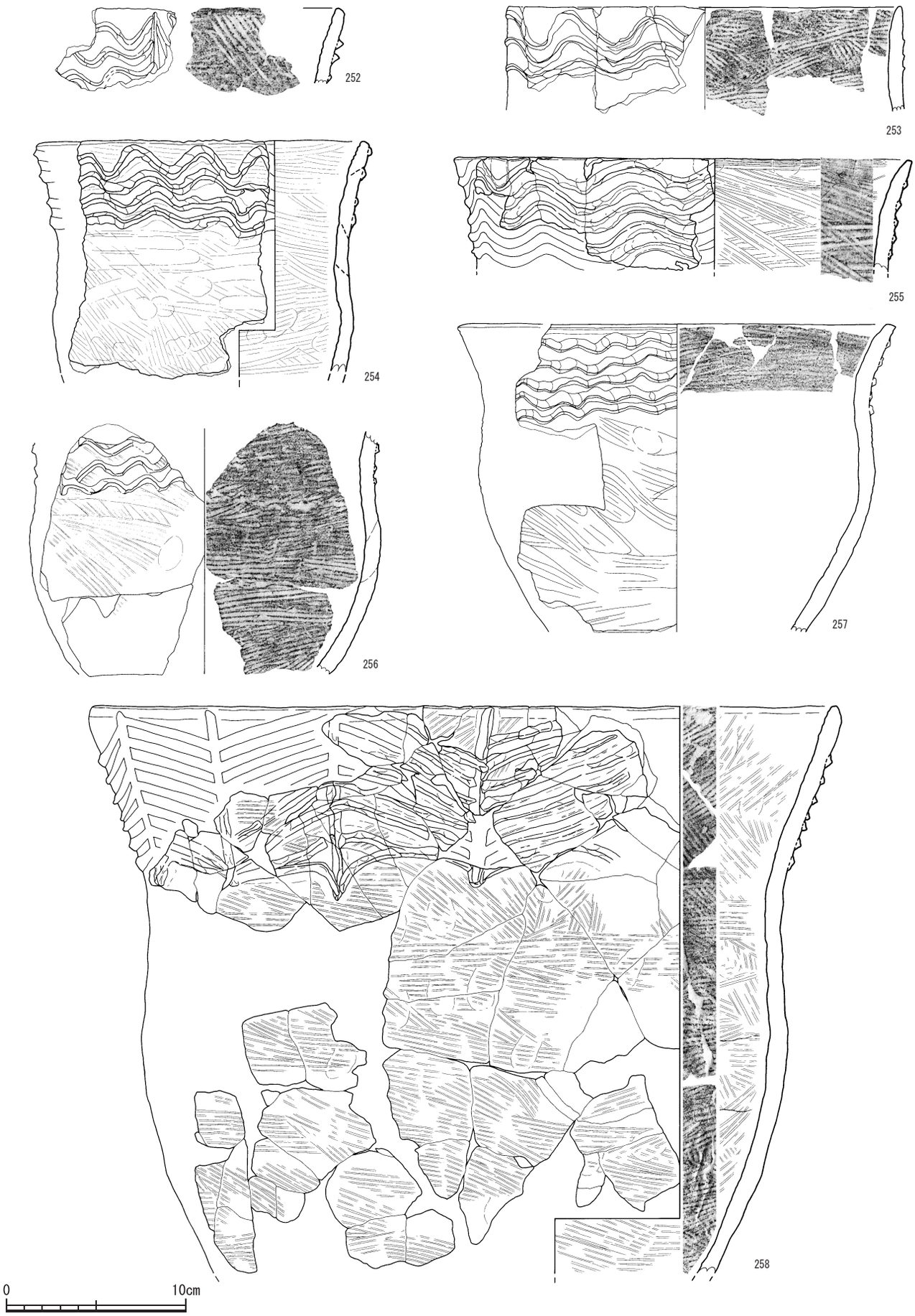
第77図　前中期土器分布図（20）



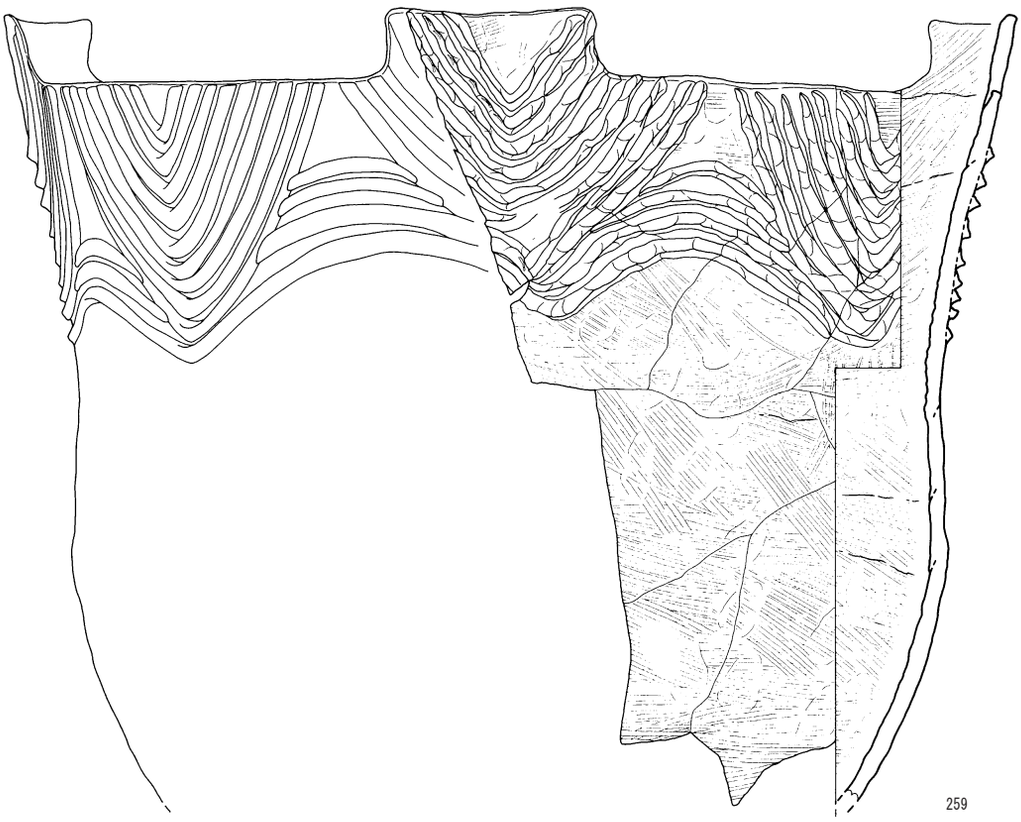
第78図　前中期土器分布図（21）



第79図　Ⅴ層遺物実測図（27）

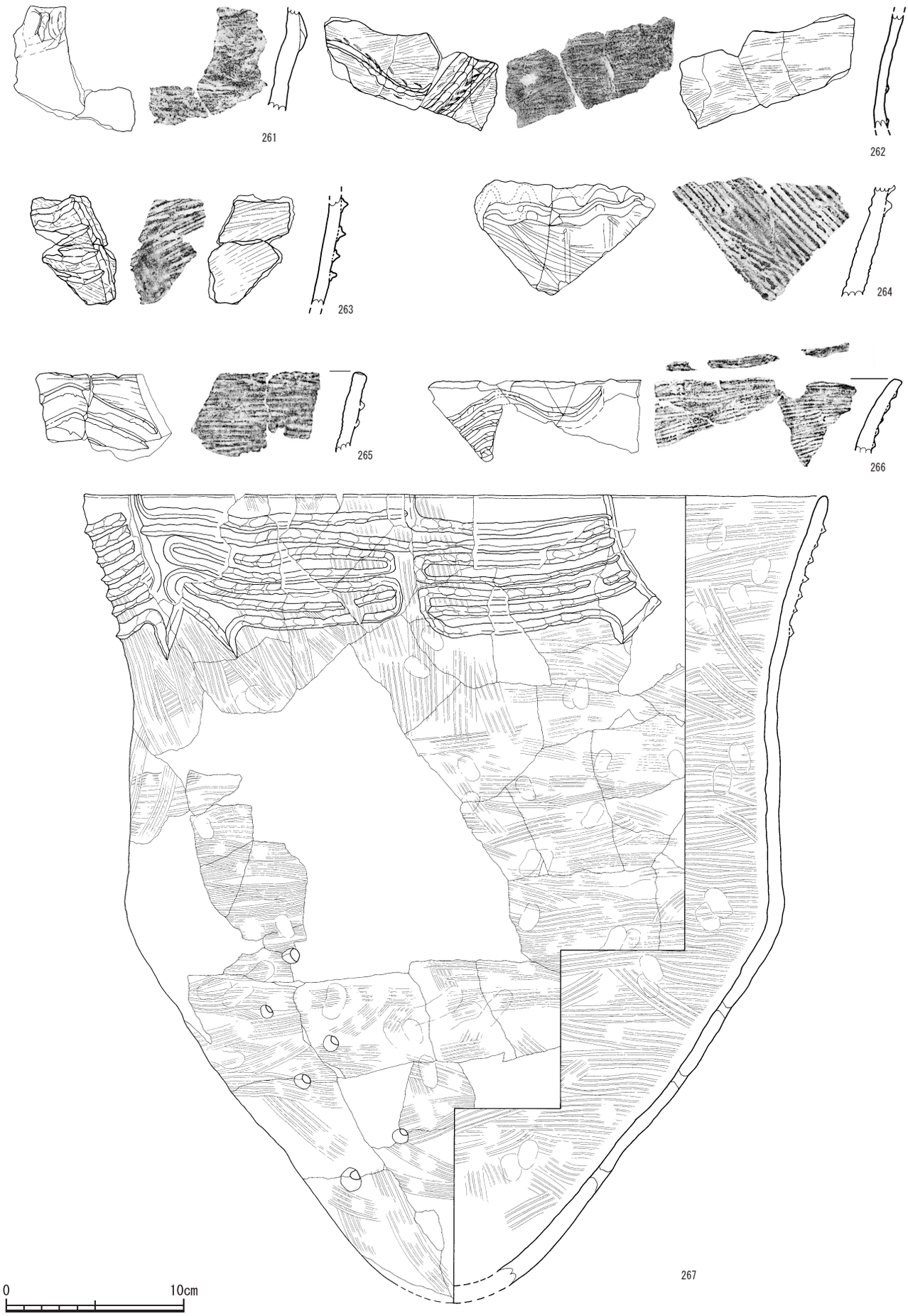


第80図　Ⅴ層遺物実測図（28）



0　10cm

第81図　Ⅴ層遺物実測図（29）



第82図　Ⅴ層遺物実測図（30）

第83図　Ⅴ層遺物実測図（31）